

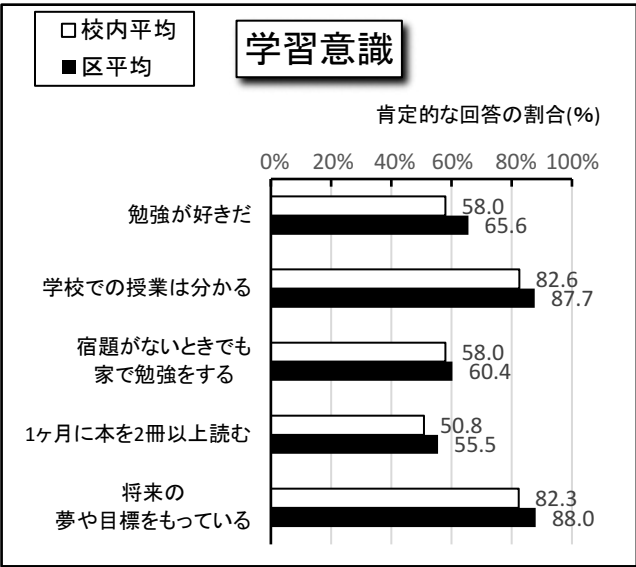
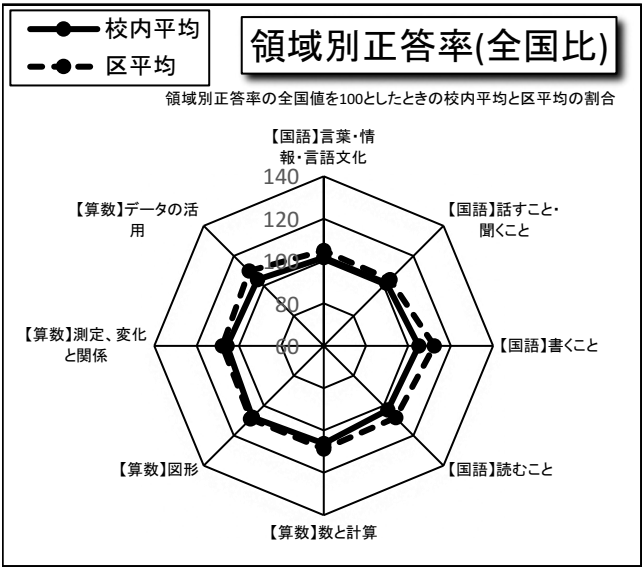
第2部

各校の調査結果概要と 学力向上への取り組み

1 小学校

青井	24	弘道	42	辰沼	60	東綾瀬	78
足立	25	弘道第一	43	寺地	61	東伊興	79
足立入谷	26	江北	44	舎人	62	東加平	80
綾瀬	27	古千谷	45	舎人第一	63	東栗原	81
伊興	28	皿沼	46	中川	64	東浏江	82
梅島	29	鹿浜五色桜	47	中川北	65	平野	83
梅島第一	30	鹿浜第一	48	中川東	66	浏江	84
梅島第二	31	鹿浜未来	49	中島根	67	浏江第一	85
桜花	32	島根	50	長門	68	保木間	86
扇	33	新田	51	西新井	69	宮城	87
大谷田	34	関原	52	西新井第一	70	六木	88
興本	35	千寿	53	西新井第二	71	本木	89
加平	36	千寿桜	54	西伊興	72	弥生	90
亀田	37	千寿常東	55	西保木間	73		
北三谷	38	千寿第八	56	花畑	74		
栗島	39	千寿双葉	57	花畑第一	75		
栗原	40	千寿本町	58	花畑西	76		
栗原北	41	竹の塚	59	花保	77		

青井小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	78.5	80.3	63.0	81.5	87.3	90.5	76.8	87.5	76.9	59.6	87.8	79.6
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.1	81.6	87.9	93.2	77.4	84.9	79.2	85.4	80.8	59.6	80.0	82.9
平均正答率(R6)	72.9	75.9	79.7	83.6	87.2	91.1	69.7	79.0	63.3	62.3	64.4	63.7
平均正答率(R5)	77.7	75.2	90.3	90.1	81.5	83.5	72.0	71.1	72.5	65.1	74.6	70.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

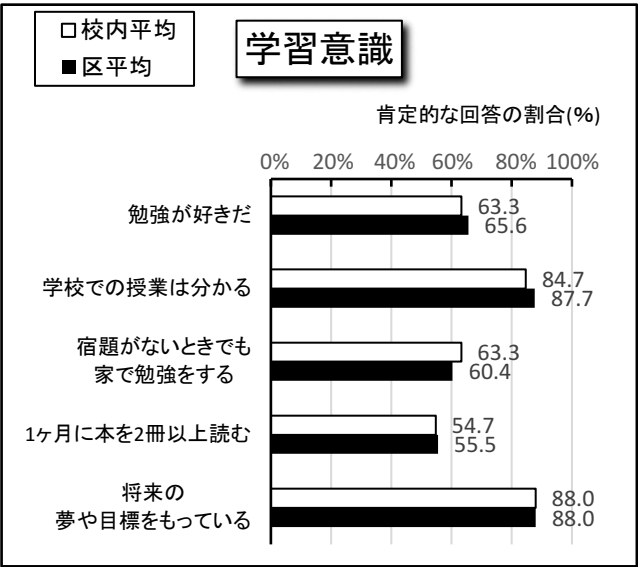
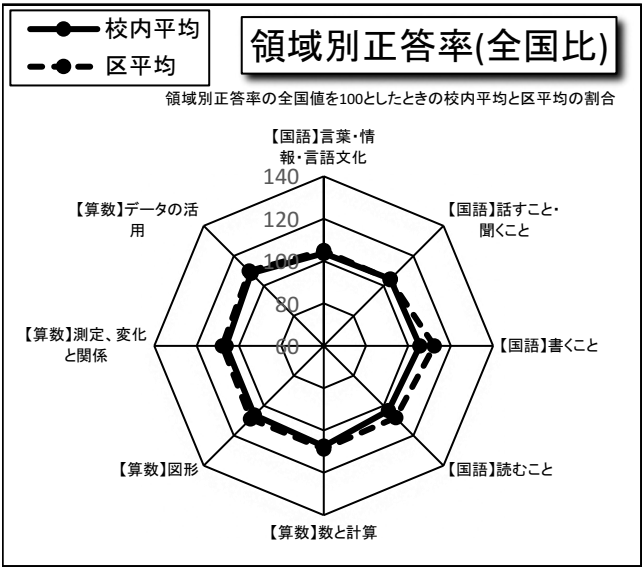
「学習定着度調査」分析結果

- 【国語】
- ・平均正答率は、令和5年度の77.7%に対して、令和6年度は72.9%と4.8ポイント下降した。
 - ・通過率は、令和5年度の81.1%に対して、令和6年度は78.5%と2.6ポイント下降した。
 - ・「言葉・情報・言語文化」の領域について、A Iドリルを活用したことが成果となった。日頃から言語化する機会を設けたことで領域別正答率が向上したと考えられる。
- 【算数】
- ・平均正答率は、令和5年度75.2%に対して、令和6年度75.9%と0.7ポイント上昇した。
 - ・通過率は、令和5年度81.6%に対して、令和6年度80.3%と1.3ポイント下降した。
 - ・補習教室(ゆうやけ教室)で年間を通して既習内容の復習を行った結果、平均正答率が向上したといえる。一方で平均正答率30%未満の児童が多いことから、定着度の二極化は課題となっている。習熟度別の少人数指導が行えなかったことが影響した結果となった。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・足立スタンダードに基づく、問題解決的な学習を取り入れた授業を行う。必然性のある問いを用意し、解決への意欲を高めたり、解決に向けての手段を選択し、友達と共有し合う活動を取り入れたりしながら、深い学びを達成する。
- ・「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指し、単元の中でグループで対話する場面を設け、自分の考えを言語化する機会を保障する。
- ・課題のある「言葉・情報・言語文化」の領域についてA Iドリルで週末に宿題を課したり、朝学習で取り組ませる。「漢字の書き」に関しては、熟語の意味を理解していないことも考えられるため、文章作りなどに取り組ませる。
- ・領域別学習状況一覧から学校としての課題を把握し、つまづきが予想される領域は補習教室(ゆうやけ教室)で扱い、丁寧な指導を行う。

足立小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	81.7	78.9	74.1	81.5	75.0	81.0	84.7	81.3	87.5	77.1	85.1	74.5
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	83.8	84.2	80.5	87.8	91.5	90.4	89.8	87.8	81.8	78.8	74.7	76.8
平均正答率(R6)	73.1	75.4	82.1	84.3	82.5	86.4	69.8	75.3	69.5	73.6	66.8	63.0
平均正答率(R5)	79.6	76.8	86.0	87.6	90.0	87.0	79.0	75.4	76.0	71.5	71.4	67.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【領域別正答率(区平均との差)】国語の「書くこと」「読むこと」が区平均を下回っており、全学年で同様の傾向がある。

【教科別の通過率】

(国語)学校全体の通過率は、昨年度から2.1ポイント低下している。4～6年生の通過率は80%を超えており、特に6年生は10.4ポイント上昇している。2年生と3年生の通過率は80%を下回っており、昨年度よりそれぞれ6.4ポイント、16.5ポイント低下している。

(算数)学校全体の通過率は、昨年度から5.3ポイント低下している。2～4年生の通過率は80%を超えているものの、5～6年生の通過率は80%を下回っており、全ての学年で昨年度の通過率を下回っている。

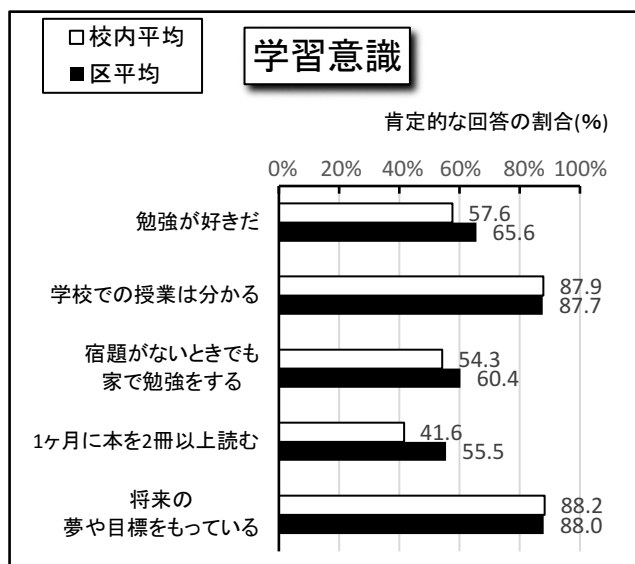
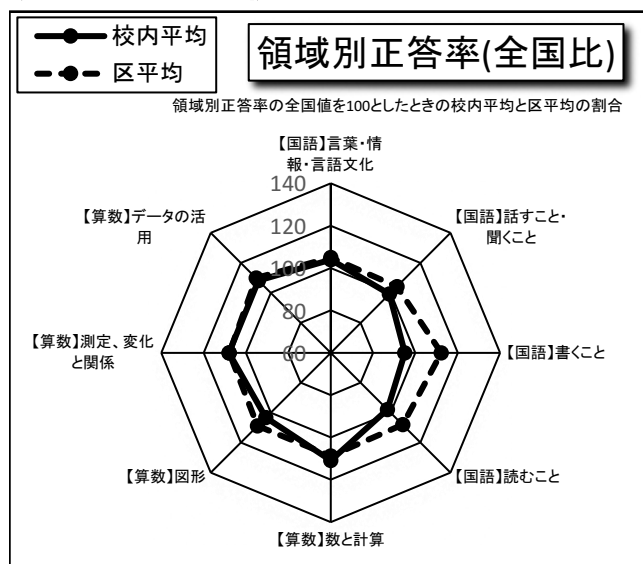
【学習意識】「宿題がないときでも家で勉強をする」「将来の夢や目標をもっている」以外は、区平均を下回っている。特に、「学校での授業が分かる」は、区平均を3ポイント下回っており、教員の授業改善が必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

「分かる授業」を全ての教員が行えるよう、「足立スタンダード」を基盤とした授業の定着と、ICT機器の積極的な活用を推進する。特に、課題である「書くこと」「読むこと」の領域の正答率を上げていくために、日々の授業において必ず自分の言葉で振り返りを書く活動を取り入れるなど、学校全体で取り組む。また、若手教員に対しては教科指導専門員を活用し、授業力の向上を年間を通じて図るとともに、他の教員も参観し、学び合う研修の機会とする。

その他、週4回のパワーアップタイムを活用し、月・木曜に漢字、火・金曜に計算を行い、AIドリル、プリント学習等を活用して定着を図る。水曜日には学力向上の時間を設定し、計画的に国語・算数のつまづきを解消する課題に取り組む。サマースクールでは、区学力調査の再テストで目標値未通過の児童を対象とする。最終日には区学力調査再テストで未通過児童の合格を目指し、個別指導を行う。学力向上の時間や補習等には、担任だけでなく副担任が入り込み指導を行い、全教員で指導に当たる。更に「家庭学習ぐんぐん週間」を年5回実施し、結果調査を行い、自己を振り返らせ、学習意欲を高めるようにする。

足立入谷小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	79.2	82.4	82.4	83.3	93.3	100.0	71.4	87.5	72.2	77.8	73.3	66.7
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	75.3	87.0	75.0	100.0	70.0	80.0	80.0	90.0	68.8	75.0	80.0	86.7
平均正答率(R6)	71.0	76.8	84.5	85.6	88.6	93.6	68.4	76.9	58.6	73.8	60.3	58.2
平均正答率(R5)	75.2	78.5	85.9	92.4	84.3	86.3	75.0	78.6	67.7	72.1	69.7	69.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

《国語科》 通過率は昨年度より3.9ポイント上昇したが、目標の80%には届かなかった。正答率は教科総合、領域別の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で区平均を下回り、特に、「書くこと」の課題が顕著である。全校で語彙を豊かにする指導の充実と、書くことの習慣化を図る必要がある。

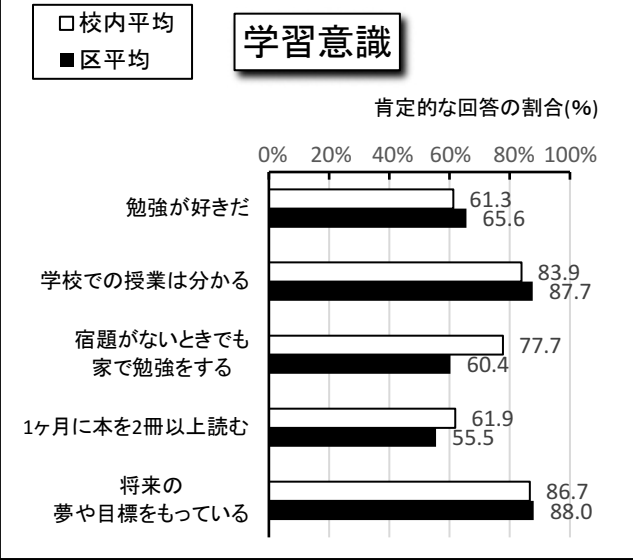
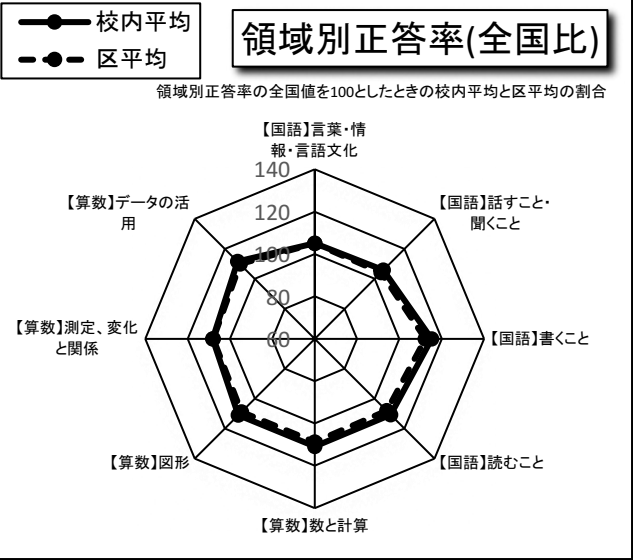
《算数科》 通過率は昨年度より4.6ポイント下がったが、目標の80%は達成できた。領域別正答率では「図形」で区平均との乖離がやや顕著だが、他の領域は区平均と同水準であった。また、高学年での平均正答率・通過率の低下が顕著である。個別最適な学びの充実を通して改善を図っていく必要がある。

《学習意識》 「宿題がないときでも家で勉強をする」は区平均を6.1ポイント、昨年度を1.0ポイント、「1ヶ月に本を2冊以上読む」は区平均を13.9ポイント、昨年度を16.9ポイント、「勉強が好きだ」は区平均を8.0ポイント、昨年度を16.9ポイント、それぞれ下回った。学びに向かう姿勢の向上と、学習習慣の定着が課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 毎週の「作文タイム」で低学年50文字程度、中学年以上100文字程度の作文に取り組みせ、書くことへの意欲と表現力の向上を図る。
- 1年生を対象に多層指導モデルMIM(毎月)と音読力チェック(年2回)を実施し、流暢な読みの定着を図る。
- 各教科でAIドリルやドリル教材を計画的に活用し、スモールステップでの反復学習を徹底するとともに、初期の段階、小さな段階でのつまずきの解消を図る。
- 一人一台のタブレット端末を活用した、調べる、まとめる、発表する、などの学習を積極的に取り組ませる。また、個々のICT活用力向上を確実に学習意欲の喚起につなげていく。
- 学校独自の漢字検定・算数検定(AI検定)を実施し、基礎的な内容の定着を図るとともに、満足感や達成感を味わわせる機会とする。
- 宿題とは別に自ら考えた課題についての家庭学習に取り組みせ、課題設定や課題解決の自主性・主体性の向上に努める。

綾瀬小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.6	84.5	81.5	90.1	82.9	90.1	83.1	83.8	85.2	79.5	85.6	77.3
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.2	83.6	91.0	97.2	86.9	84.6	78.9	78.0	87.6	73.6	85.8	82.7
平均正答率(R6)	76.5	78.5	86.4	88.1	86.7	90.2	71.4	75.6	69.1	74.7	69.2	65.6
平均正答率(R5)	81.2	78.4	90.7	92.6	87.3	84.5	75.5	75.1	78.2	70.0	75.5	71.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【平均正答率および通過率】学校全体の平均正答率は、昨年度と比較して国語が4.7ポイント下がり、算数は0.1ポイント上がったがほぼ横ばいである。通過率は昨年度に比べ国語は2.6ポイント下がり、算数は0.9ポイント上昇した。平均正答率、通過率の結果から、本校の児童は算数よりも国語に課題があることが分かる。

【国語】単元別正答率では、「漢字の読み」「漢字の書き」において、区平均より低い学年が多く、最大で8.5ポイント下回る結果となった。学年によってパターン判定ⅡかⅢ(いずれも「A層(上位層)」と「D層(下位層)」の差が50%以上)となっているため、まずはパターン判定Ⅲの改善を優先し、D層児に対しての補充的な指導が効果的であると考えられる。

【算数】多くの学年が教科総合において平均到達スコアより高いか、同等程度のポイントとなっている。単元別・領域別で見ると各学年の課題にばらつきがあり、4年生「重さ」5年生「立体図形」においては区の平均正答率に比べ5ポイント以上低い結果となった。昨年度に引き続き、ICTを活用した一層の理解の充実が求められる。

学校による学力向上への主な取り組み

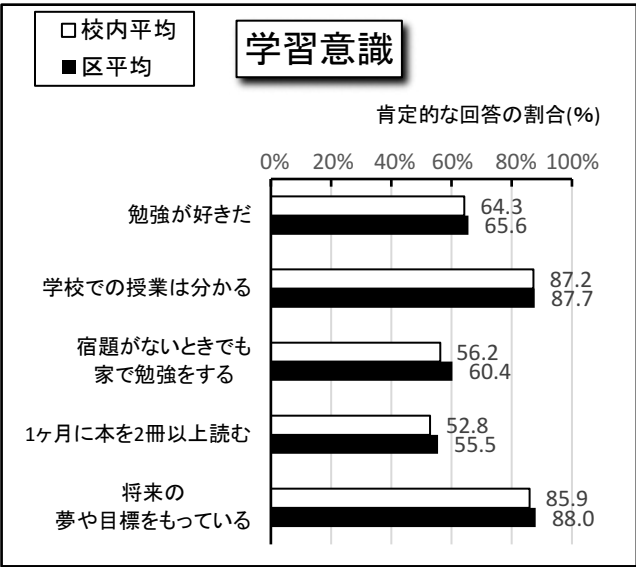
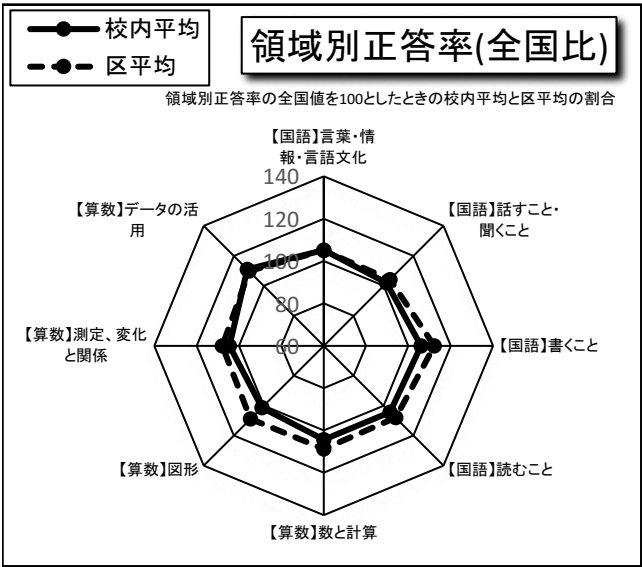
【AIドリル活用 朝学習】毎朝の学習として10分間のAIドリルの問題に取り組ませる。授業の進度や学年の実態に合わせ、各学年でワークブックを配信、結果を分析することで児童のつまずきを発見し、集中して漢字の学習に取り組む時間を設けるなど、早期解消を図る。

【読書活動】図書館利活用推進校として、中央図書館と連携し、図書館を使った学習に取り組む。教科全体で図書館活用ができる単元計画を作成し、年間を通して継続的に書籍に触れる機会を作る。

【教科担任制】中学年以上で実施している。担当教科(国・社・理・体)の授業を複数クラスで受け持つことで、教員にとってもより深い教材研究や指導法研究が可能になることで、専門性の高まりが期待できる。

【AAスタンダード】足立スタンダードを踏まえて作成したAAスタンダードを校内で統一し、指導を行っている。ノート指導、板書のユニバーサルデザイン化を進め、児童に学習の型を身に付けさせることで基礎的な学力の定着を図る。

伊興小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	81.3	77.3	82.5	85.6	78.2	79.1	87.4	83.9	74.4	72.9	83.8	66.7
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	80.8	75.1	70.8	84.0	88.4	86.0	80.0	72.9	85.8	66.4	80.0	67.4
平均正答率(R6)	73.9	73.6	86.3	86.6	83.3	86.0	74.3	77.3	62.7	68.3	66.3	55.7
平均正答率(R5)	77.6	73.0	83.3	84.7	88.2	84.8	73.7	70.0	75.1	66.9	70.8	63.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○令和5年度と令和6年度における正答率及び通過率の結果から

【国語】平均正答率は、高学年において70%を下回るなど、学校全体でも平均正答率の低下が目立った一方で、通過率では昨年度と同様80%を超えている。

【算数】平均正答率は、6年生が60%未満になるなど、低下率の大きい学年があるが、通過率では、2・4年が80%を、3・5年が70%を超え全体的な通過率の向上につながっている。

○領域別正答率の結果から

【国語】書く領域の平均正答率を区平均と比較すると、2・3年生が-5.2ポイントと大きく開いている。4年生は区と比較して+1.5ポイント、全国よりも+6.2ポイント高く、2年生時から続けている「週1回日記を書く」指導が効果を挙げていると考えられる。

○学習意識の結果から

【算数】「～諦めずにいろいろな方法を～」の質問への肯定的回答について、A-D層の差が学年が上がるにつれて大きくなり、活用問題の正答率の低下にも影響していると考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

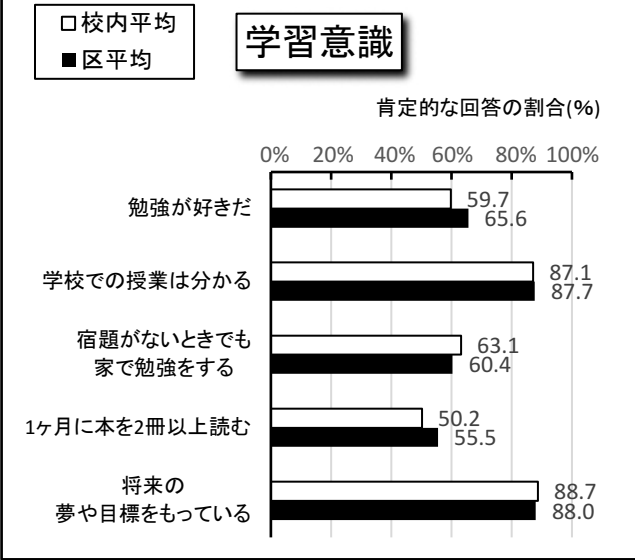
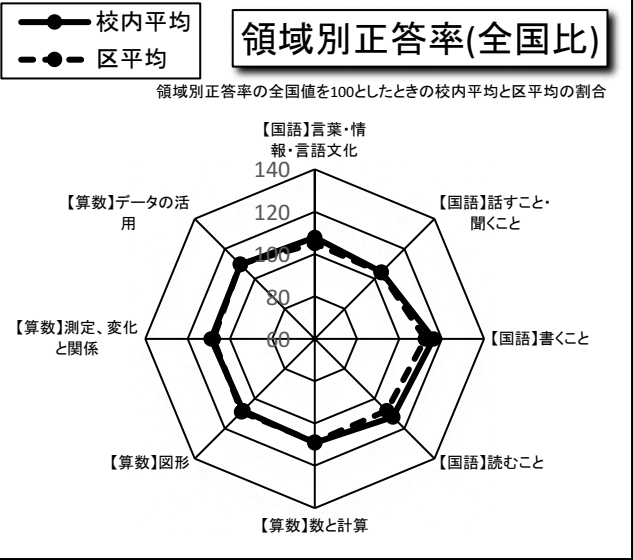
【国語】

- 週に1回以上、「日記や短作文を書く」指導を取り入れ、書くことへの苦手意識を軽減させると共に、語と語や文と文とのつながりを意識して、文や文章を整える技能を向上させる。
- 読書や「読む」学習の時間には、読んだ本、教材の内容について理解したことに基づいて自分の感想や考えをまとめる時間を設定し、「読む」力や表現力の向上を図る。

【算数】

- 授業においては、各時間に学習した内容を活用できる適用問題に確実に取り組ませる。
- 知識技能の活用を扱う教材では、どのような既習内容を用い、どのように組み合わせて考えれば良いのかを理解できるように授業を計画し実施する。
- 図形の学習では、学習した図形の敷き詰め模様を作るなど、図形のもつ美しさや日常生活に利用されている図形の特性が感得できるように指導し、図形に対する学習意欲を向上させる。

梅島小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	87.2	83.6	84.3	94.4	78.5	80.6	91.6	90.4	88.3	74.5	93.5	79.6
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.6	85.6	87.6	95.5	86.9	84.5	88.8	85.7	86.2	82.0	83.5	80.6
平均正答率(R6)	76.9	76.5	87.3	90.3	82.9	84.1	77.4	82.2	68.3	70.0	72.3	61.4
平均正答率(R5)	80.9	77.9	89.0	88.8	86.6	85.6	79.4	74.9	78.4	73.4	74.9	71.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

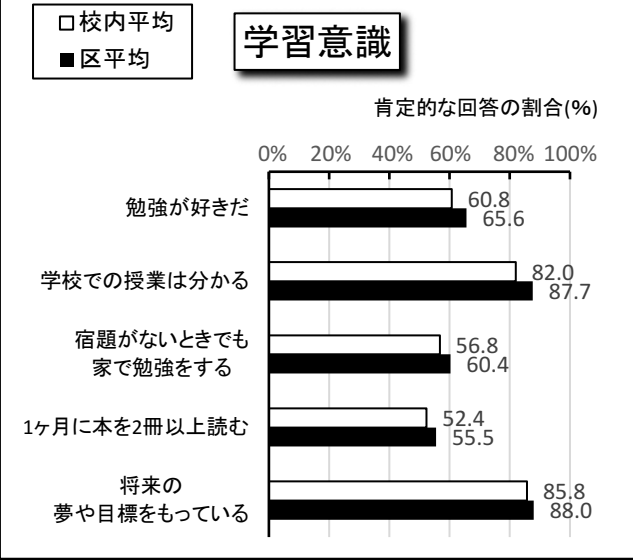
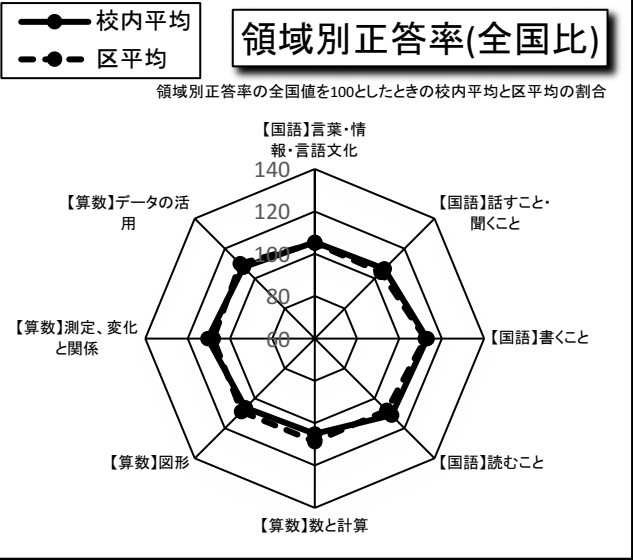
令和6年度の国語、算数の平均正答率は、令和5年度の同集団と比べるとすべての学年で割合が下がっている。しかし、通過率をみると国語は2年生、4～6年生が80%以上であることから、問題の難しさが平均正答率低下の原因であると考えられる。なお、国語では、全校での音読活動や漢字の練習を継続してきた成果が学校全体の通過率向上に表れている。算数は2年生と4年生が通過率90%を超え、基礎・基本の定着が見てとれる。ただし、5・6年生では、通過率が80%を切っており、学力の二極化からくる平均正答率の低下が表れている。これは、学習意欲の低下や下学年のつまずきが解消できないままの児童が多いことが原因である。

学年ごとに詳細に分析していくと、3年生では算数の平均正答率、達成率、中央値、平均到達スコア、教科の意識調査平均スコアの全てが、区内の他校との差がマイナスであり課題が残る結果となった。さらに、3年生の国語でも、中央値を除く各項目がマイナスとなっていることから教科を問わずに学力の定着を図る取り組みが必要であることが確認できる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 週に3日間のパワーアップタイムを設定し、現学年の漢字・計算などの基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を目指して全児童に取り組ませる。その際には、AIドリルの活用を促し、効果的に学びを深めることを推進する。
- 放課後タイム（放課後に実施する学習）では、学習につまずきの認められる児童に対して、現学年および前学年の学習内容の確実な定着を目指して個別指導を行う。
- 家庭学習の習慣化を目指し、「家庭学習週間」を設定する。「家庭学習カード（自己評価カード）」を活用し児童一人ひとりに目標をもたせて取り組ませるようにする。
- 足立スタンダードを取り入れた授業を展開し、振り返りの充実を図ったり、区学習定着度調査の分析を生かして定着度の低い単元は、指導計画を見直し重点的に指導する。
- 小中連携では、教科等横断的な視点から9年間の学習の連続性を高め、確かな学力の定着を図る指導を行う。

梅島第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	88.5	79.4	91.2	91.2	86.0	90.0	79.4	79.4	92.5	80.0	91.7	63.3
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	88.6	85.6	98.0	100.0	81.6	84.2	87.2	84.6	91.7	78.3	80.5	80.5
平均正答率(R6)	76.1	74.0	88.7	88.7	86.8	89.8	66.9	73.6	71.5	72.7	70.4	57.9
平均正答率(R5)	81.2	77.9	91.8	91.2	84.0	83.3	78.9	75.7	81.9	73.3	70.5	69.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

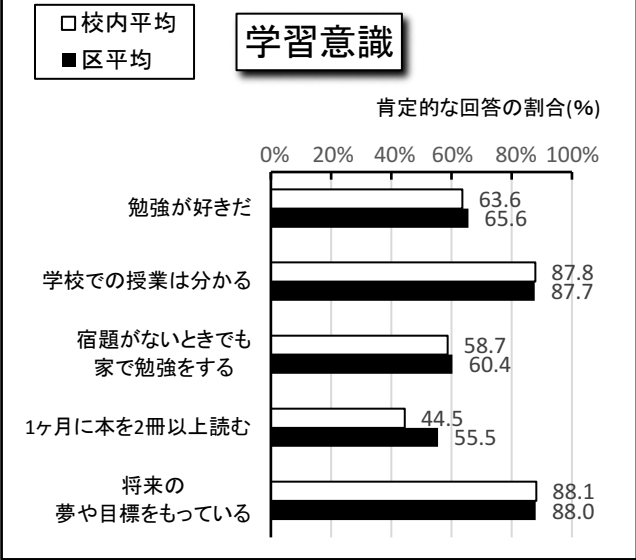
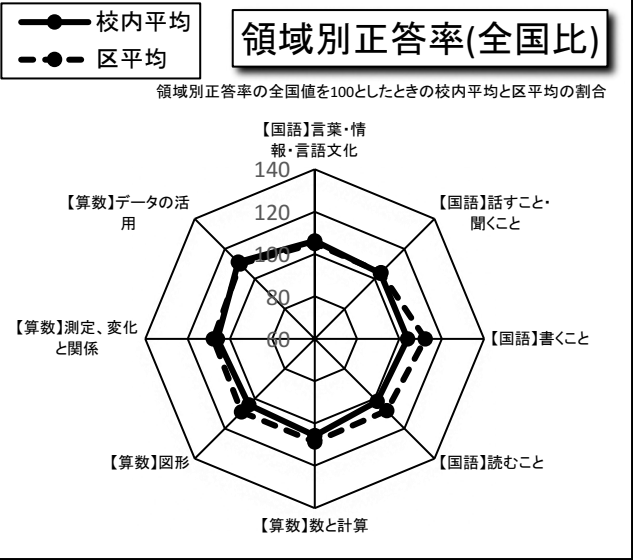
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の平均正答率は、令和5年度と比較すると、国語は－5.1ポイント、算数は－3.9ポイントであった。また、通過率を比較すると国語で－0.1ポイント、算数で－6.2ポイントとなっている。経年変化では、国語において伸びている学年もある。同学年比較では、全体的に下がっている学年・教科があり課題である。今後は、もう少しで目標値に達成できる児童に対して、今以上にきめ細やかに対応し「やればできるんだ」「こうすれば分かるんだ」という気持ちを醸成するとともに学力の向上を図っていくことが大切である。
- 国語を領域別に見ると、「言葉・情報・言語文化」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で、区平均とほぼ同値である。
- 算数領域別では、「測定、変化と関係」において、区平均を上回った。「データの活用」「図形」「数と計算」においては、区平均を若干下回る結果となった。
- 学習意識調査では、「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」「宿題がないときでも勉強をする」「1ヶ月に本を2冊以上読む」「将来の夢や目標をもっている」の項目で、区平均と比較して、最大5.7ポイント下回っている。 日常の授業が児童にとって「魅力的な授業」「分かりやすい授業」となるような授業改善が必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 校内OJTや管理職の授業観察等を通して、足立スタンダードに基づいた授業を徹底する。経験のある教員の講義や模範授業を観る機会など校内研修を充実させていく。
- 教科指導専門員制度を活用する。特に教職歴5年未満の教員に対しては、国語や算数の授業を行うにあたって、単元についての基礎知識を指導してもらう。また、その単元がどのように他の学年と繋がっていくのかなど、系統的な授業を行う意識をもつことを習慣化させる。
- そだち指導員による、3・4年生の対象の個別指導を行い、個々のつまづきを把握し、高学年に向けての苦手意識を軽減させるよう早期解消を図る。
- AIDドリルを授業内や家庭学習で活用し、各教科の学習内容の定着を図る。
- 金曜日の朝に読書の時間を取るとともに、読書月間を年2回設定し、読書の冊数やページ数の記録を取りながら読書を行う習慣をつけるようにし、読書の習慣を定着させる。

梅島第二小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	82.1	78.5	60.7	78.6	80.0	86.0	91.5	87.2	79.6	71.4	89.8	69.4
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.5	85.7	87.8	91.8	91.7	89.6	87.5	89.6	92.0	78.0	73.5	79.6
平均正答率(R6)	73.5	74.1	80.1	85.4	83.2	86.8	76.5	77.2	65.1	71.5	68.4	58.4
平均正答率(R5)	78.8	77.0	88.5	87.2	89.6	87.5	74.0	79.2	76.7	69.2	69.2	66.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体の通過率は、昨年度に引き続き国語は80%を超えた。今年度は、国語で4.4ポイント、算数で7.2ポイントの低下が見られた。国語においては、3・4・6年生の通過率が80%を超え、4年生は90%を超えた。課題であった5・6年生の国語科の通過率の伸びが、6年生で16.3ポイントと大きかった。高学年になっても通過率が高いまま維持できているのは、昨年度の校内研究や学力向上の取り組みの成果だと考える。しかし、同学年比較では伸びているものの、経年比較では下がっている学年・教科もあり課題である。
- ・領域別正答率は、全領域で全国値を上回ったが、区平均と比較すると、国語科も算数科もほぼ同等またはやや下回った。今後も引き続き学力向上に向けた取り組みを行っていく。
- ・学習意識の結果も肯定的な回答が多い。特に、「学校での授業は分かる」の回答でも区平均を上回り、9割近い児童が肯定的な回答をしている。足立スタンダードに基づく学習の推進、日常の授業の工夫・改善の取り組みの成果と考える。

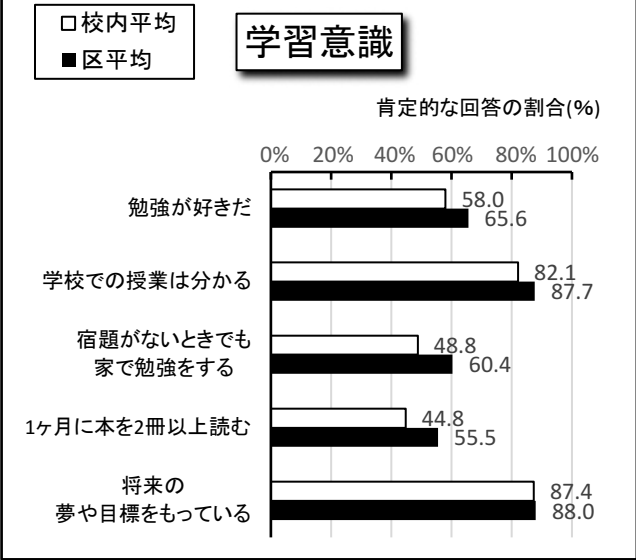
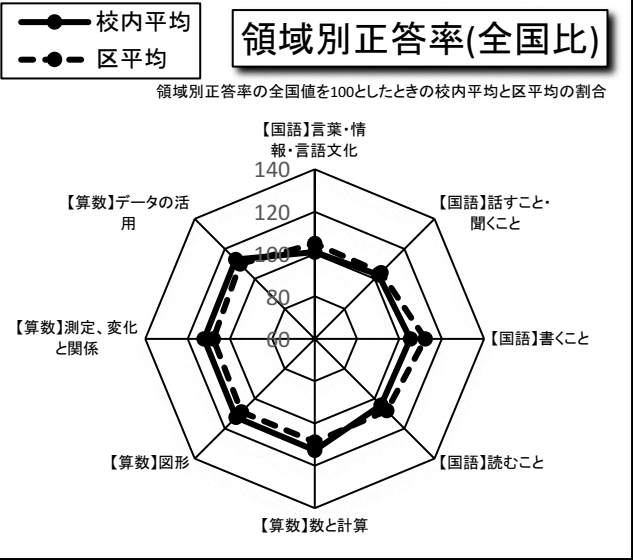
学校による学力向上への主な取り組み

【国語科】校内研で「言語能力の活用」を通し、知識を身につけさせる指導法を研究する。文字列を「語」として捉える、3分間視写、国語辞典の活用、「読み取る力」を身に付けさせる「αドリル」等に取り組む。低学年でMIM等を通し、文字の記号を意味言葉として捉えさせる指導を徹底する。

【算数科】既習事項を活用させるために、掲示物を工夫する。自分で問いを見つけ、そこから必要な情報を読み解く。アンダーラインを引く習慣から立式へつなげる。朝学習で「東京ベシックドリル」に取り組み、前学年までの既習事項を確実に定着させ、現在の学年の算数のつまずきを低減させる。

【その他】家庭学習がんばろう週間を設定し、家庭と協力をして、学年×10分の学習時間を定着させる。全校で、達成率を8割以上を目指す。全学年で「自主学習」の取り組みを行う。自分の興味関心のある学習をすすんで行き、学び方や主体的に学ぶ力を身につけさせ、学ぶ楽しさを実感させる。

桜花小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	79.9	86.8	87.2	97.4	93.9	95.9	83.3	83.3	63.6	73.2	73.9	89.1
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	77.1	83.7	85.1	97.9	81.0	91.4	78.2	78.2	75.6	80.0	66.0	71.7
平均正答率(R6)	71.3	78.5	89.1	94.8	88.6	92.9	69.9	77.4	59.2	70.7	60.3	65.4
平均正答率(R5)	75.3	76.5	89.5	93.3	85.1	85.9	69.6	73.9	70.9	69.8	65.8	64.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

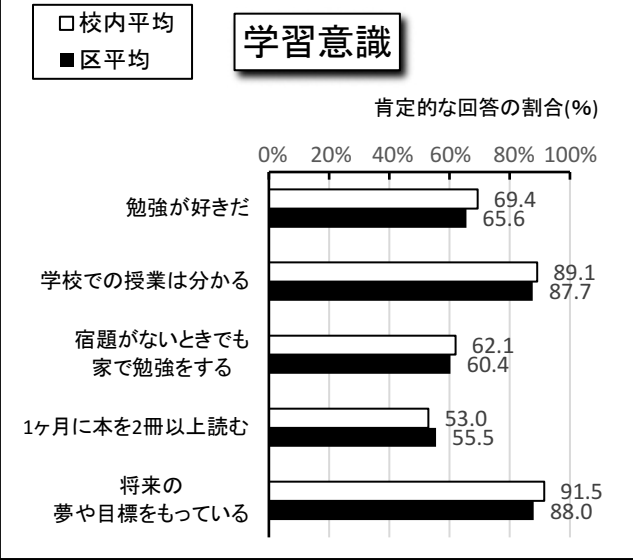
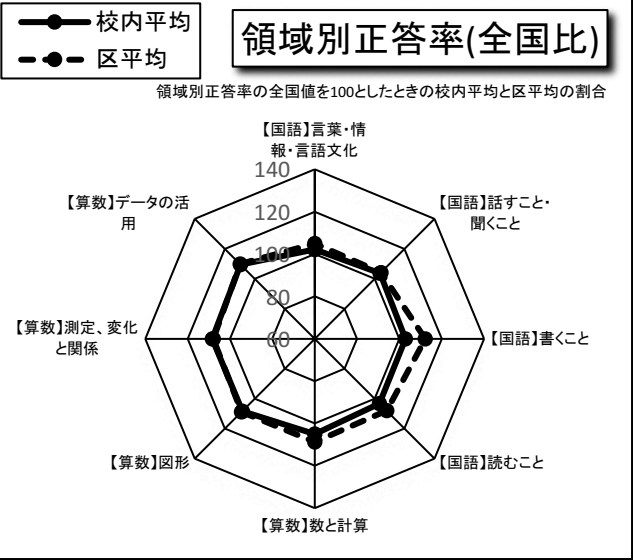
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は、対前年度比で、国語は2.8ポイント、算数は3.1ポイント上回った。平均正答率は、対前年度比で国語は4.0ポイント下回り、算数は2.0ポイント上回った。
- 学校全体の領域別正答率を見ると、国語の「言葉・情報・言語文化」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の領域に本校の課題がある。算数はすべての領域で区平均を上回っている。
- 学習意識調査では、「勉強が好きだ」が区平均より7.6ポイント、「学校での授業はわかる」が区平均より5.6ポイント下回っているため、学校全体の課題と考える。「宿題がないときでも家で勉強をする」は11.6ポイント、「1ヶ月に本を2冊以上読む」は10.7ポイント区平均より下回っている。主体的な学びへの意欲についても課題がある。
- 学年別では、2・3・4・6年生は、国語・算数の通過率が、対前年度比で概ね上回っているが、5年生は国語の通過率が対前年度比で12.0ポイント、算数の通過率が対前年度比で6.8ポイント下回っている。

学校による学力向上への主な取り組み

- 全教員が足立スタンダードを基に、統一した指導を6年間継続的に行い、児童がわかる授業を行う。校内研究は算数科で行い、児童が主体的に考え、まとめを導き出せる授業づくりをしている。指導力向上が児童の学力向上につながっていくと考える。
- 今年度から水曜日を除き、30分間の学力補充時間「桜花タイム」を全学年で実施している。算数科では、プリントやA Iドリルを使った日々の学習の振り返りや単元テストの振り返りを行い、基礎・基本の徹底を図る。国語科では、読解を主とした演習問題に取り組み、文章を適切に読み取り、設問に正確に解答できる力を育成する。
- 区学力調査や単元テストの分析をし、日頃の学習の様子から児童のつまづきを把握し、個や学級・学年集団に応じた練習問題を繰り返し行うことで、学習内容の習熟を図る。
- そだち指導員による指導は、後期から2～5年生に算数科で実施する。基礎・基本の定着を図り、学習内容を理解させ自信をもたせることで、次の単元への学習意欲向上につなげる。

扇小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	82.2	83.3	82.6	89.1	73.8	85.7	88.5	86.7	89.6	83.3	72.7	70.5
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	76.7	77.9	81.8	93.2	79.1	80.6	86.0	90.0	70.2	66.0	66.0	60.0
平均正答率(R6)	72.6	75.9	84.6	85.6	79.8	85.4	73.1	79.1	69.1	75.0	60.9	57.5
平均正答率(R5)	75.6	74.8	86.7	89.5	84.2	83.2	79.5	79.6	65.9	65.7	64.5	59.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

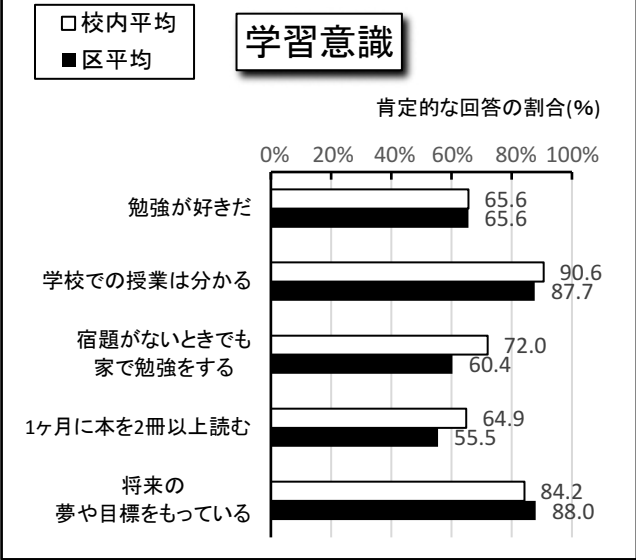
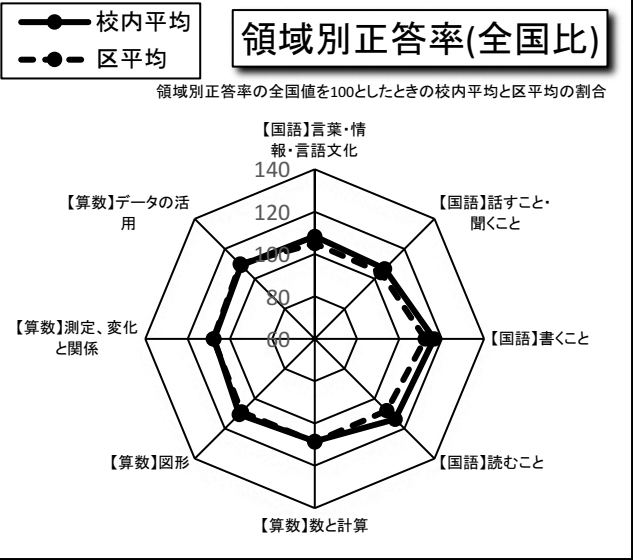
「学習定着度調査」分析結果

- 昨年度の結果と比較すると、全体の通過率が国語5.5ポイント、算数5.4ポイント高くなっている。授業改善、パワーアップタイム、補習教室の取り組みの成果が表れている。
- 領域別正答率を見ると、国語の「書くこと」の領域に課題があり、区平均を下回っている。解答を分析すると、無解答の箇所が目立つ。日々の授業で自分の考えをノートにまとめるなど、日常的・意図的に児童が「書く」機会を設定し、「書く力」の向上を図る。
- 全学年、基礎・基本の定着が必要である。全学年系統的な指導を行うことや家庭学習の取り組みについても学校全体で計画的に取り組む必要がある。
- 算数は計算の補習計画を立てて、四則計算の技能が確実に身につくようにする。
- 学習意識の全ての項目で向上が見られる。特に「勉強が好きだ」という項目では、昨年度より9ポイントも向上した。引き続き授業改善に取り組み、「できる・わかる授業」を展開する。

学校による学力向上への主な取り組み

- サマースクールの取り組み
 - ・区学力調査の結果をもとに、対象者を絞って補習を計画的に行い、基礎学力の定着を図る。また、サマースクールの期間は全校児童にも自宅学習を呼びかけ、基礎学力の定着に全校で取り組む。
- 週3回の始業前時間を使った朝学習の取り組み
 - ・引き続き、A Iドリルを活用し計算技能の向上を図る。
 - ・国語は短い文章の読解問題に取り組ませる。本文のキーとなる言葉を探してサイドラインを引くなど具体的に指導する。また、日常的に文章に触れることで、主体的に文章を読む力を伸ばし、読解力の向上を図る。
- 読書活動の推進
 - ・図書ボランティアによる読み聞かせ、読書記録カードの活用を通して、本好きな児童を育てる。

大谷田小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	89.7	85.3	91.9	93.5	98.0	96.0	88.2	90.2	88.2	72.5	78.9	68.4
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	89.4	83.2	94.4	96.3	92.0	88.0	88.7	84.9	86.8	73.7	84.0	69.4
平均正答率(R6)	78.5	78.5	88.6	90.2	91.8	92.1	74.4	77.8	69.9	72.0	67.0	58.2
平均正答率(R5)	82.6	77.6	92.1	90.3	90.3	85.4	79.5	77.8	79.5	68.0	73.6	67.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

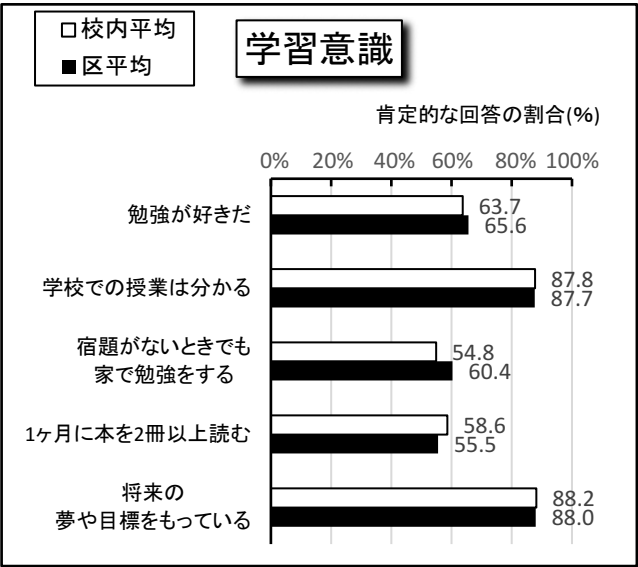
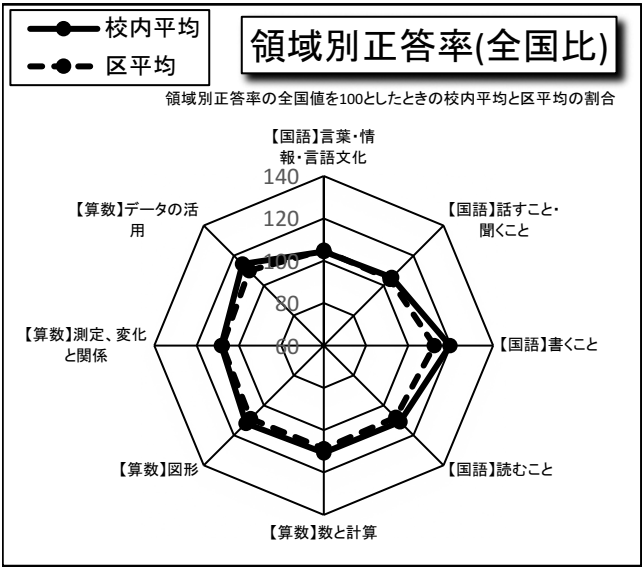
「学習定着度調査」分析結果

- (国語)
- 漢字の読みの平均正答率は、低・中学年は95%以上で区平均より上回っているが、6年生は86%と平均正答率が下がり区平均より4.2ポイント低い。
 - 「読むこと」は、どの学年も区平均より1～7ポイント高かった。昨年度の校内研究や読書の取り組みの効果が表れた。
 - 「書くこと」は、3年生は91%で区平均より10ポイント高い。他の学年も区平均より1ポイント程度高いがA層（上位層）は90%の平均正答率であるのに対し、D層（下位層）は20%以下の学年が多い。
- (算数)
- 「数と計算」は、1～5年生は区平均より高いが6年生が8.5ポイント低い。4・5年生から小数や分数の計算での誤答が多い。
 - 「平面・立体図形」は、どの学年も区平均より1～10ポイント上回った。
 - 6年生は「単位量あたりの大きさ」、5年生は「活用」でA層とD層の差が大きい。

学校による学力向上への主な取り組み

- (児童への支援)
- 都の時間講師を活用し、低学年の算数においても担任＋1のグループ編成をして指導する。
 - 授業内でICT端末を活用する。
 - 低・中・高の分科会を設定して校内研究を行い、全教員で課題を分析し授業に活かす。
 - 補充教室・サマースクールで学習の補完をする。
 - 低学年でMIM指導、中学年を対象にそだち指導を行う。
 - 学級文庫を設置し、記録用個別カードを活用して進んで読書をする環境づくりをする。
- (家庭、地域との連携)
- 家庭学習の習慣（15分×学年）が定着するように家庭学習カードを活用する。
 - 図書館支援員の活用と図書ボランティアの協力。

興本小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.7	86.7	86.2	87.9	85.5	90.9	83.9	93.5	84.1	82.5	83.9	78.6
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	87.6	90.1	83.1	93.2	96.7	98.4	92.5	88.1	85.0	88.3	80.6	83.6
平均正答率(R6)	75.5	78.6	88.1	87.7	86.1	88.9	73.5	81.1	67.9	74.0	66.9	65.2
平均正答率(R5)	80.8	80.2	87.0	90.5	90.4	90.2	79.4	78.3	77.8	75.5	73.6	71.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○正答率は、区平均正答率を概ね上回った。2年生の国語は1.8ポイント、3年生の国語は0.8ポイント、算数は0.1ポイント、4年生の国語は0.6ポイント、算数は3.4ポイント、5年生の国語は0.6ポイント、算数は2.7ポイント、6年生の国語は0.3ポイント、算数は2.9ポイント区の平均よりも高かった。一人ひとりのつまづきを明らかにして継続的に指導したことが学習の定着に結び付いたと考える。国語の漢字や言語文化については学年によって差がある。

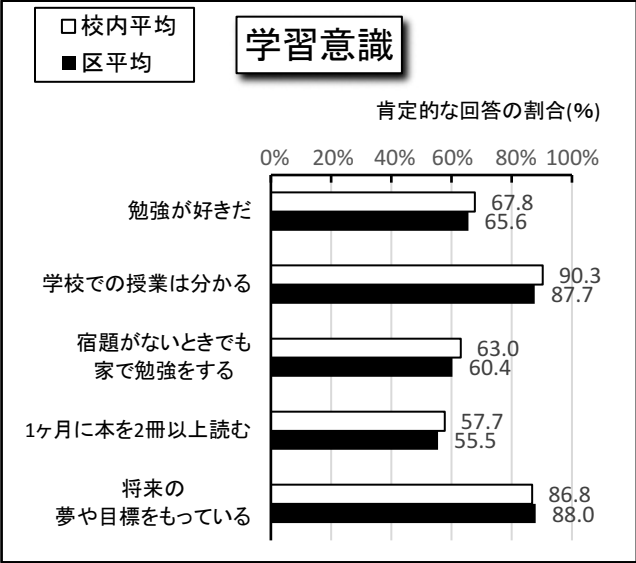
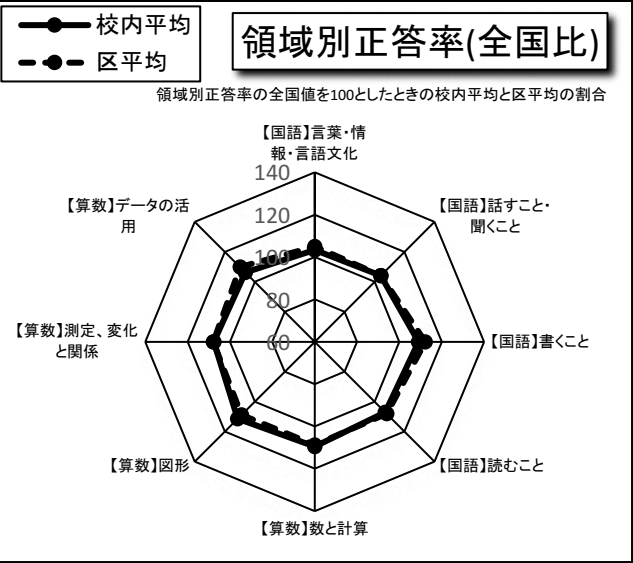
○2年生の算数の正答率は、区平均より0.8ポイント低かった。今後は、一人ひとりの課題を明確にして、個に応じた指導を充実させる。

○学習意識については、「学校での授業は分かる」「1ヶ月に本を2冊以上読む」において、区平均を上回り、学習への興味関心の高まりや読書習慣の定着がみられた。教員一人ひとりが教材研究を充実させたことやICT機器を有効に活用したこと、読書活動を充実させたことが学習意欲の向上につながったと考える。「宿題がないときでも家で勉強をする」については、区平均を下回った。家庭学習を充実させることが課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 小中連携研究において、ICTを活用した授業研究を年に4回実施し、主体的、協働的な学習を充実させる。
- 国語の授業では、読みの指導に重点を置き、言語活動を充実させ、思考力や想像力を高める。「興本扇の45冊」を選定するとともに、読書旬間を年に2回設定し、中学生による読み聞かせなどにより、本に親しむ習慣を付ける。算数では、自分の考えを表現する活動を多く取り入れる。
- 全教員が個別指導に当たる放課後補充教室を週に4回、放課後に実施する。
- 小中一貫教育校の特色を生かして、1年生から4年生までが中学生に年間6回の丸付けをしてもらい、学習意欲を高める。
- 1～4年生は朝の10分間、5・6年生は授業の始まりの5分間の「パワーアップタイム」で、音読・漢字・視写・計算などに取り組む。

加平小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	82.8	83.3	72.6	87.5	82.7	85.7	85.1	87.2	87.6	77.3	86.2	78.7
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	88.1	86.0	89.7	96.9	82.3	75.0	92.9	86.9	87.6	83.5	87.7	87.7
平均正答率(R6)	74.3	77.1	80.8	87.5	85.6	90.8	71.6	77.7	68.6	72.4	67.3	61.3
平均正答率(R5)	82.1	78.3	90.8	91.6	84.8	79.4	81.8	75.9	78.4	71.6	76.3	74.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]
◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

○国語の平均正答率は74.3%、通過率は82.8%、算数の平均正答率は77.1%、通過率は83.3%であった。学校全体の平均正答率を昨年度と比較すると、国語は7.8ポイント下回り、算数は1.2ポイント下回った。学校全体の通過率を昨年度と比較すると、国語は5.3ポイント、算数は2.7ポイント下回った。8割を超える児童が大体は理解しているが、1～2割近い児童が前学年の学習内容の定着が不十分であると考えられる。

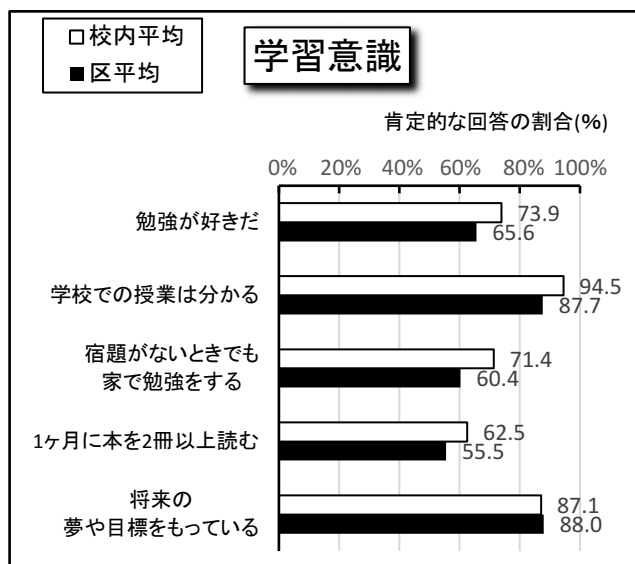
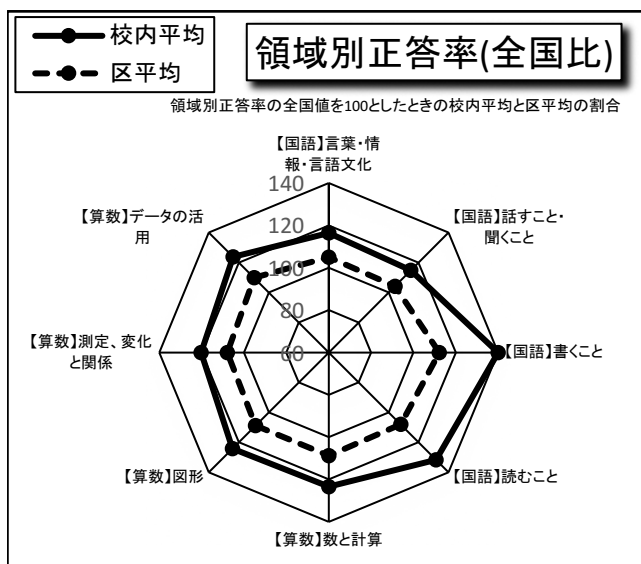
○国語の領域別正答率では、「書くこと」と「言葉・情報・言語文化」の領域が区平均に比べて下回った学年が多い結果であった。言葉の使い方や言い回し、表現の仕方を丁寧におさえて学び、自分の表現に生かす授業展開を行っていく。

○算数の領域別正答率では、「データの活用」「図形」「測定、変化と関係」の順に区平均に比べて下回った学年が多い結果であった。日常の事象をデータで捉えて考察することや、具体物やICT機器を操作して体験的理解につなげた授業を多く取り入れていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝学習では、国語と算数の基礎・基本の力をつける学習を中心に、国語では、1年生はMIM、2年生以上は新出漢字練習、算数はAIDリルを計画的に実施している。
- ・読書タイムを昼休み後の10分間実施し、本に親しむ時間と読書量を増やしている。
- ・放課後補充指導として、全教職員で指導にあたるパワーアップタイムを週に1回低学年40分間、高学年30分間行っている。区学力調査の目標値が未通過の児童を中心に、個別に定めためて達成できるようつまずきを補充する指導を行い、基礎学力の定着を目指している。
- ・算数少人数学習は1年生から4展開とし、レディネステストの結果を踏まえてクラス分けをし、指導を行っている。
- ・かけ算九九検定を年に3回行い、89点以下の児童に関して補充を行い、定着を図っている。
- ・年間3回以上言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する授業展開の工夫を行った授業公開を行い、年間6回以上各教員がお互いに授業を参観して、授業力の向上をめざしている。

亀田小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	97.1	98.4	96.2	99.0	100.0	100.0	100.0	98.9	95.8	95.8	94.4	99.1
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	95.4	95.2	100.0	96.9	98.9	100.0	96.7	97.5	94.6	96.4	89.4	88.0
平均正答率(R6)	85.6	87.2	93.6	93.6	93.3	95.1	86.7	88.6	80.3	84.7	79.3	78.4
平均正答率(R5)	86.2	85.5	94.8	93.8	95.0	93.5	85.4	86.6	82.7	82.4	80.4	78.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

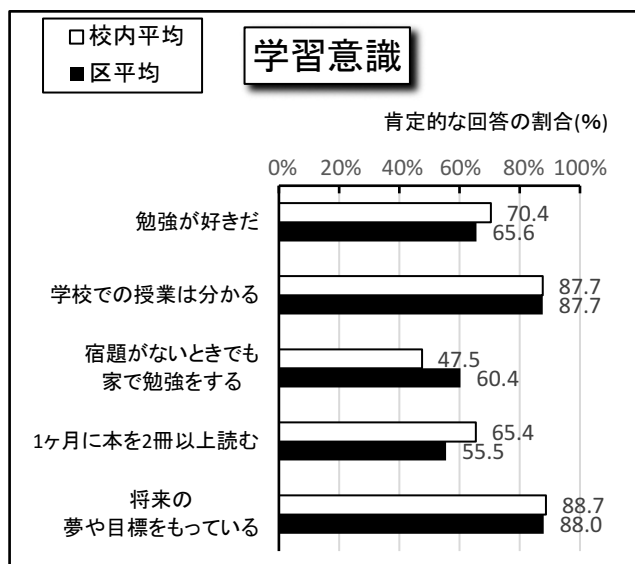
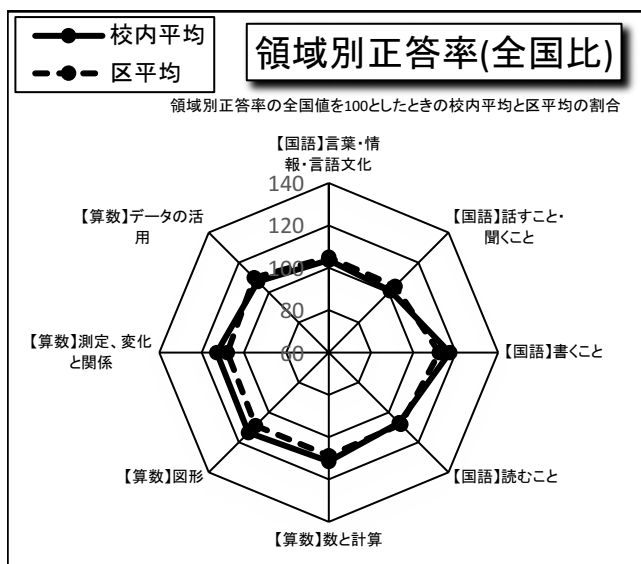
「学習定着度調査」分析結果

- 前年度の結果と比較すると、全校の通過率は国語 (95.4→97.1) 算数 (95.2→98.4) と、2教科ともにポイントが高くなっている。特に高学年の通過率が大きく上がっている。授業改善、パワーアップタイム、放課後補充教室、ステップ学習の取り組みの成果が表れている。
- 全校の平均正答率は算数のポイントは高くなったが、国語のポイントは下がっている。学年別に見ると、4年生以外の学年で前年度の正答率を下回っている。
- 国語は、領域別に見ると「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。話の内容の中でキーとなる言葉をメモする力を育成していく。また、設問別に見ると、全学年で「文章読解」、特に「記述式」の設問の正答率が低い (高学年は未記入も多い。)。問題で問われていることを的確に読み取る力、キーになる言葉やセンテンスを読み取れる力を育成していく。
- 算数は、文章問題の題意を的確に捉えられるよう、数字に印を付けたり、キーとなる言葉に線を引いたりする技能を定着させ、活用力を高める必要がある。
- 意識調査では、「1ヶ月に本を2冊以上読む」が前年度より5.9ポイント下がっている。また、「将来の夢や目標をもっている」が区平均を下回っている。

学校による学力向上への主な取り組み

- 週1回の放課後補充教室の取り組み (管理職含む教職員全員で取り組んでいる)
 - ・既習内容の定着が十分でない児童が対象。
- 週2回、始業前の時間を使ったパワーアップタイムの取り組み
 - ・A Iドリルの活用 (家庭学習でもA Iドリルを活用できるように授業内でも活用している)
 - ・初見音読や、短い文章の読解問題など、読解力を向上させるための取り組み。
- ステップ学習の取り組み (管理職含む教職員全体で取り組んでいる)
 - ・スキルの内容ではなく、発展的な内容に取り組ませしていく。
 - ・区学力調査の結果を基に、学年ごとに指導重点課題を分析し、学習材を選定する。習熟度別に指導を行い、当該学年の学習内容の定着率を高められるようにする。
- 全員が目標値を通過できるように全教職員が共通意識をもって日々の授業に取り組んでいる。
- 読書時間の確保 (年2回の読書旬間の設定、図書館を利用した調べ学習の推進など)

北三谷小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.7	88.9	90.5	95.2	85.3	94.1	86.5	90.4	83.3	77.8	80.4	89.1
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	87.4	86.5	87.5	96.9	93.6	91.5	90.3	93.5	85.4	68.3	82.1	85.7
平均正答率(R6)	72.1	77.0	86.5	91.5	83.2	90.2	74.2	78.6	65.7	71.4	63.5	66.3
平均正答率(R5)	79.3	79.0	89.8	90.6	87.3	86.8	81.1	80.9	74.0	69.8	72.2	74.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】通過率が昨年度より2.7ポイント下がった。領域別正答率は特に、「話すこと・聞くこと」が9学級中7学級において区平均を下回った。メモを取りながら聞く力を高めるなど日常的な取り組みを推進する必要がある。

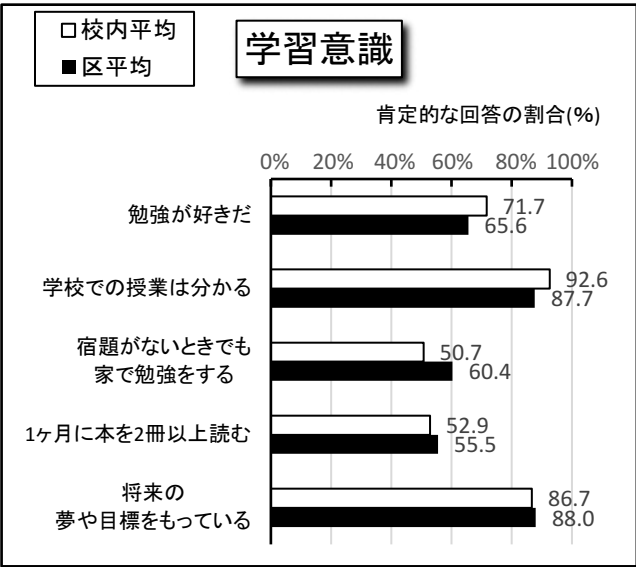
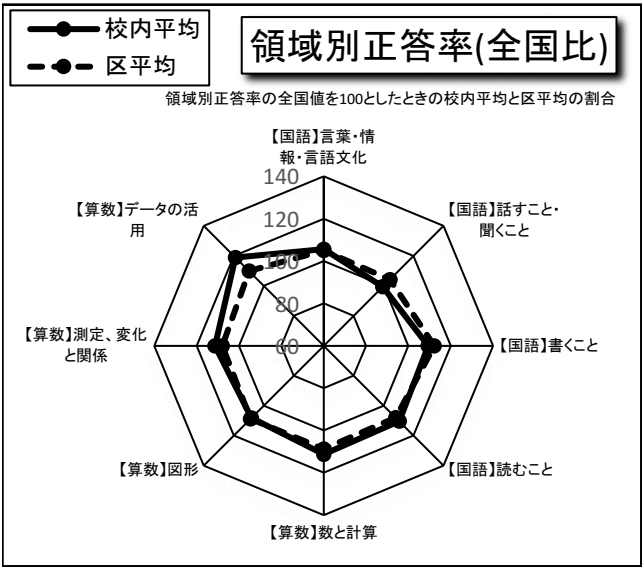
【算数】通過率は昨年度より2.4ポイント上がった。領域別では「データの活用」のみ区の平均を下回っており、既習事項の定着が不十分な児童へのフォローアップを徹底していく。

【学習意識】「勉強が好きだ」は区平均を上回り、昨年度からの経年比較でも学校全体で5.6ポイント上昇した。小中連携のテーマである「児童が学びたくなる授業づくり」の成果が表れている。その一方で、「宿題がないときでも家で勉強をする」は区平均を12.9ポイント下回っており、自主学習などの取り組みが今後の課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 管理職による授業観察、教科指導専門員制度の活用を通して、「北三谷スタンダード」に基づく授業改善と共通実践を徹底する。
- 各学力調査などの結果を分析し、全体的な傾向や個々の状況の把握に努め、定着の十分でない学習内容について、週4日間のパワーアップ2(放課後学習)を計画的に実施する。
- A Iドリルを授業内や家庭学習などで活用し、各教科の学習内容の習熟を図る。
- 1年生では、多層指導モデル(MIM)に基づく特殊音節の指導とアセスメントの確実な実施を通して、「流暢な読み」の確実な定着を図る。
- 3、4年生では、「そだち指導」を効果的に活用し、担当指導教員との連携を図りながら個別指導を徹底し、つまずきの改善を図る。
- 東京ベーシック・ドリルを年3回実施・分析し、算数の計算スキルの確実な定着を図る。
- 年間2回、家庭学習強化週間を設定し、家庭と連携を図りながら家庭学習の習慣化を図る。
- 個人面談期間の放課後を活用し、個に応じた指導の充実を図る。
- 読書活動の推進として、各学年目標数値を設定した上で、週4日間のパワーアップ1(朝読書)に取り組む。また、年3回の読書旬間においては本の紹介活動などに取り組む。

栗島小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.2	85.4	87.2	94.9	83.3	91.7	86.0	84.0	81.1	73.1	83.9	87.5
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	83.7	88.8	83.3	94.4	87.5	91.7	83.0	90.6	82.5	84.2	82.1	84.6
平均正答率(R6)	73.0	77.6	87.7	90.0	84.5	90.5	73.3	77.9	65.3	73.6	66.2	67.3
平均正答率(R5)	78.5	79.7	87.6	91.7	87.8	88.0	77.6	78.9	73.5	73.0	70.7	73.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- 区平均との差についての分析
- 区平均正答率と校内平均正答率を比べると、算数は区平均と同レベル程度であるものの、3・5・6年生の国語がやや低い。
- 自校の課題となる点・伸ばしていきたい点
- 算数の通過率が、昨年度比3.4ポイント下回った。どの学年でも図形領域のつまずきの解消が課題である。算数指導の重点領域とする。国語の読む力は昨年度よりやや伸びたが、話す・聞く力が弱く、特に2・5・6年生で区平均を大きく下回る。対話的な学びの充実を図る。
- また、学習意識では「勉強が好き・学校での授業は分かる」に肯定的な回答をした割合は増加したものの、自主学習の意欲が昨年度より6.5ポイント下回り、非常に低いことが分かる。児童の学びたい・もっと知りたいという気持ちを引き出したり、家庭と相談・連携したりして、学ぶ面白さを感じさせ、宿題以外の学習にも自主的に取り組む力を伸ばしたい。

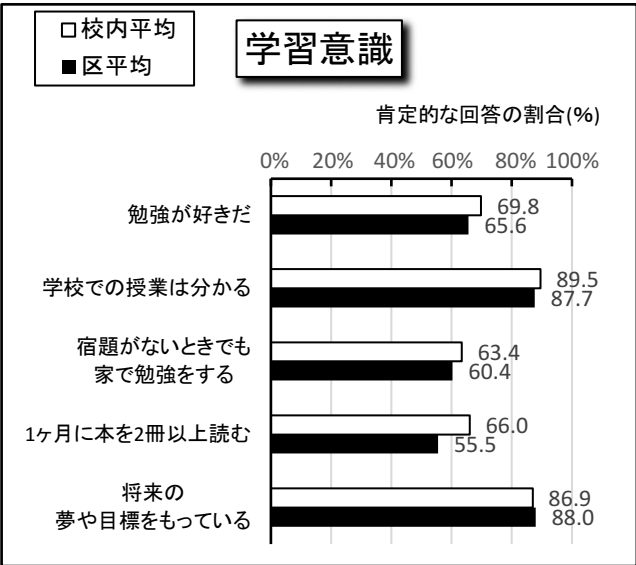
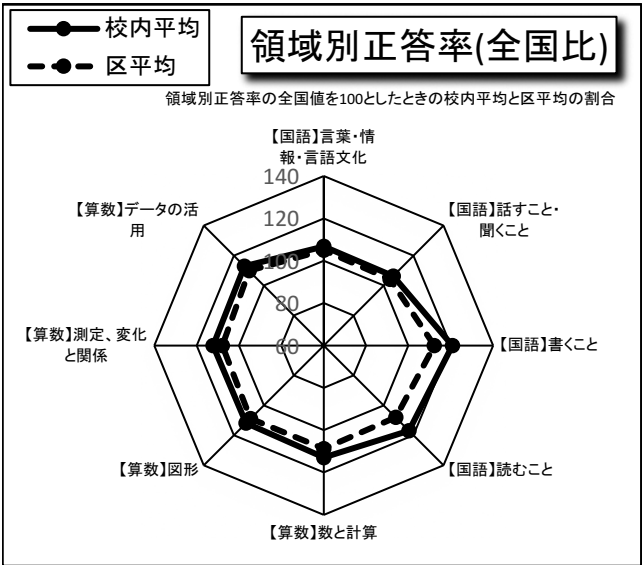
学校による学力向上への主な取り組み

【朝学習・昼学習・放課後補習の充実】国語では、詩の暗唱や読書を通し語彙力の向上を図り文章読解問題や漢字練習に取り組み、学力向上の充実を図る。算数では、A Iドリルに取り組む時間を確保し、知識・理解の定着を確実なものとしていく。放課後補習は全学年の対象児童が毎週水曜日に30分間行う。国語と算数の復習を基本に学力定着の基盤をつくる。

【教科学習、習熟度別指導、個別学習の充実】国語では、対話的な学びの充実を図る。授業展開においては実際の対話だけでなく、話題の設定や情報の収集、構成の検討など学習過程における児童一人ひとりの思考を大切にしていく。算数では、1年生からの習熟度別授業に加え、そだち指導がない学年は、学習支援員による個別指導を行い、下位層児童の学力向上をめざす。低学年のうちに個々のつまずきを把握し早期解消し、高学年に向けて苦手意識を軽減させる。

【家庭への啓発】「よくわかる栗島小学校」を各家庭へ配付し、家庭への啓発をしている。また、子どもたちには、規則正しい生活と家庭学習の習慣が身につくよう指導を続けていく。

栗原小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	86.0	87.8	88.1	91.5	93.0	96.5	88.2	88.2	78.1	81.3	83.6	81.8
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	87.6	89.9	93.1	100.0	85.7	85.7	81.7	86.9	89.3	82.1	88.6	95.5
平均正答率(R6)	77.7	80.0	87.6	88.6	89.1	92.8	77.3	77.1	67.5	74.2	71.5	70.7
平均正答率(R5)	82.1	82.2	92.8	95.0	85.8	84.4	78.5	78.5	79.5	77.2	75.3	77.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

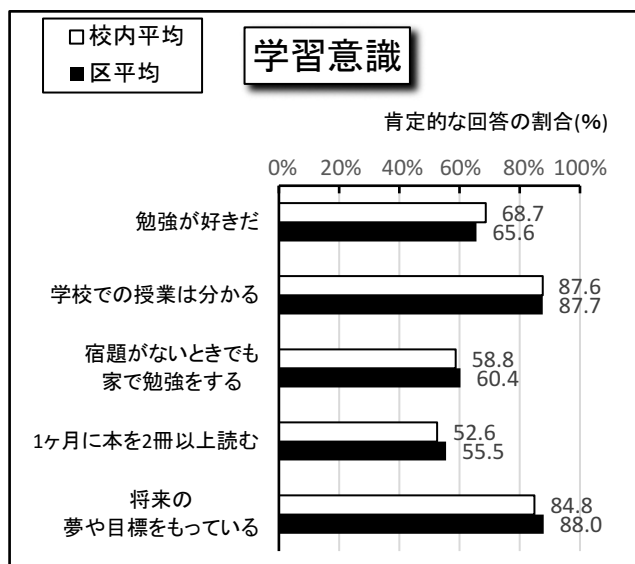
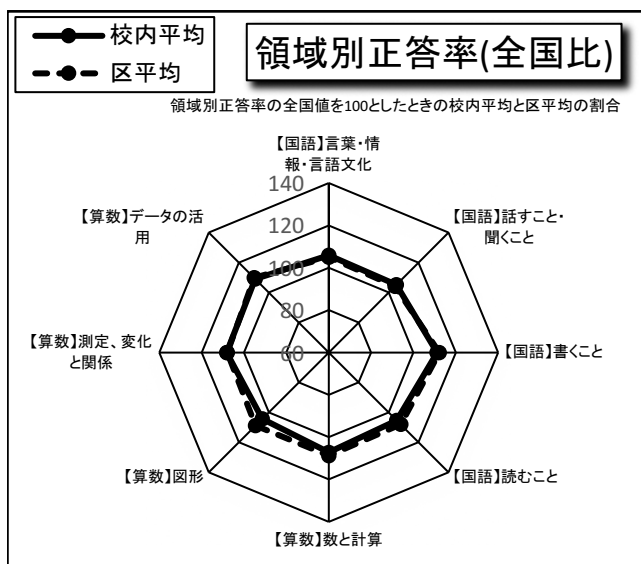
「学習定着度調査」分析結果

- ・本校の領域別正答率は、全領域で区平均を上回っているが、概ね同程度の数値が多い。
- ・学習意識も1項目以外で区平均を上回っている。特に読書については、10.5ポイント上回っており、昨年度から設定している、朝の読書タイムの成果が表れていると考えられる。一方で、将来の夢や目標をもっている児童の割合は、区平均を1.1ポイント下回る結果であった。(昨年度の自校の結果よりも1.6ポイント下回った。)
- ・通過率は、昨年度よりも低下している。学年ごとに見ると、2年生、5年生、6年生が国語、算数ともに低下している。
- ・平均正答率も、昨年度より低下している。学年ごとに見ると、8割に同様の結果が出ている。特に5年生の国語が12ポイント、2年生、6年生の算数が約7ポイント、大きく低下している。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・区調査の直し直しを行い、一人ひとりが自分の課題を把握できるようにする。それを基に、子どもたち自身がA Iドリルなどから問題を選んで家庭学習で取り組むようにする。
- ・放課後学習教室を計画的に行い、つまづきを早期解消するための補充学習に取り組む。その際、区調査やてんまるのデータを分析し、個に応じた内容で学習していけるようにする。
- ・基礎学力の定着をねらいとして、パワーアップタイムで毎週百マス計算を行う。また、百マス計算大会を年6回実施し、算数に対する興味・関心、学習に必要な集中力を高める。
- ・校内研究として自由進度学習を推進し、児童の意欲や自らの学習状況を振り返りながら学習を進める実践力を育てる。
- ・A Iドリルを活用し、児童の個別最適な学びや、つまづきへの早期対応を実現する。
- ・読む力を向上させるために、本を読む時間の確保や、環境の整備を行い、読書活動を充実させる。また、意識向上のため、学年ごとに一年間の目標冊数(ページ数)を設定する。

栗原北小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.4	79.9	91.2	93.0	86.5	88.2	82.2	71.7	77.3	72.0	86.4	76.7
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	85.3	78.3	86.5	94.2	74.4	72.1	89.3	88.0	90.2	67.2	82.4	69.1
平均正答率(R6)	73.9	74.8	89.6	89.0	87.6	89.8	71.7	73.4	64.2	68.9	65.8	61.8
平均正答率(R5)	78.5	74.8	89.5	89.6	80.5	80.2	79.8	77.4	75.9	68.7	72.4	65.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

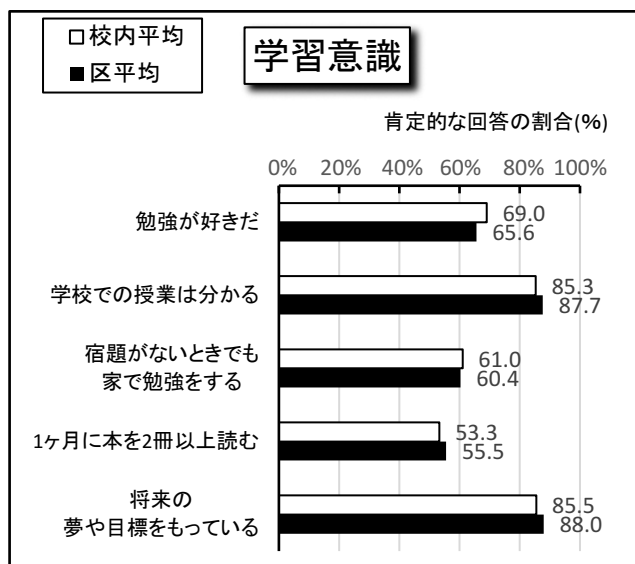
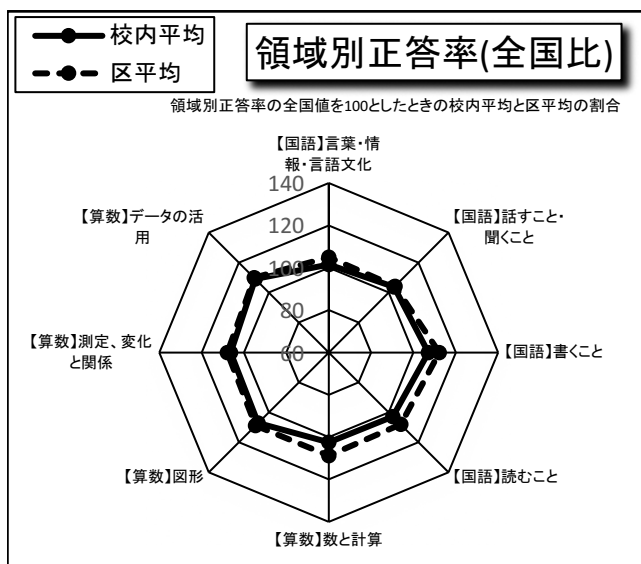
「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体では、算数の通過率が前年度より上がり、平均正答率は前年度と同じだった。しかし、国語においては、平均正答率と通過率ともに前年度より下がった。
- ・学年ごとに見ると、国語では2年生、3年生、6年生で前年度より通過率が上がった。特に2年生では90%以上の児童が目標値以上の正答であった。平均正答率が上がったのは、2年生と3年生であった。算数では3年生、5年生、6年生で前年度より通過率が上がった。平均正答率は3つの学年で下がっており、既習事項が定着していない児童が見られる。
- ・「勉強が好きだ」という問いに肯定的な回答をした児童の割合は、区平均を上回っている。しかし、「1ヶ月に本を2冊以上読む」「宿題がないときでも家で勉強をする」という問いに肯定的な回答をした児童の割合は、区平均を下回っている。自主的に学習する子や読書に親しむ子の育成が課題である。
- ・領域別正答率では算数の図形や数と計算、国語では読むことの領域で区平均を下回った。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・足立スタンダードを全教員が実施する。児童に「めあて」を考えさせ、めあてに正対した「まとめ」「ふりかえり」を確実にを行い、児童が主体的に学習できるよう授業改善を図る。
- ・普段の授業や家庭学習でA Iドリルを活用して、児童一人ひとりに応じた内容で自主的に学習できるように取り組んでいる。
- ・週2回、放課後学習を実施している。学力定着度調査の結果をもとに児童個々のつまずきを把握して、そのつまずきにに応じた内容で全教員が指導を行っている。
- ・週2回朝学習の時間を15分確保して、国語や算数の基礎的な内容の習熟を図っている。A Iドリルも活用して、できなかった問題は放課後学習で取り組ませるなど、理解が深まるようにしている。
- ・年間を通して「読書マラソンカード」に読書の記録を残す。また、年2回の読書週間を実施して、全校で読書に取り組む機会を設ける。
- ・夏季休業中にサマースクールを10日間実施して、国語や算数の基本的な内容の定着を図る。

弘道小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	74.3	74.2	84.6	81.5	60.5	76.9	82.9	85.4	67.9	62.1	76.1	65.2
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	75.3	80.6	70.3	89.2	73.3	84.4	83.3	83.3	79.1	76.7	71.4	69.4
平均正答率(R6)	71.9	73.2	88.1	87.8	74.7	84.8	73.7	77.0	66.1	66.1	65.6	59.5
平均正答率(R5)	77.0	75.5	81.9	87.4	80.8	83.1	80.5	75.2	76.4	71.3	67.4	63.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】昨年と比べると通過率は、学校全体で1.0ポイント下がったが、学年ごとの比較では2年生が14.3ポイント、6年生が4.7ポイント上回っている。領域別に見ると区の平均と比べて大きな差は無いが「読むこと」「書くこと」に課題が見られる。

【算数】通過率は、昨年度に比べると学校全体で6.4ポイント下がった。学年ごとに見ると、4年生が2.1ポイント上昇したがそれ以外の学年は4～15ポイント昨年度を下回っている。正答率は上昇している学年が多く学力の二極化がうかがえる。特に「数と計算」の領域に課題が見られる。

【意識調査】意識調査の5項目中「勉強が好きだ」「宿題がないときでも家で勉強をする」の2項目で肯定的な回答の割合が区の平均を上回った。「学校での授業は分かる」「1ヶ月に本を2冊以上読む」「将来の夢や目標をもっている」の項目ではわずかに区の平均を下回った。

学校による学力向上への主な取り組み

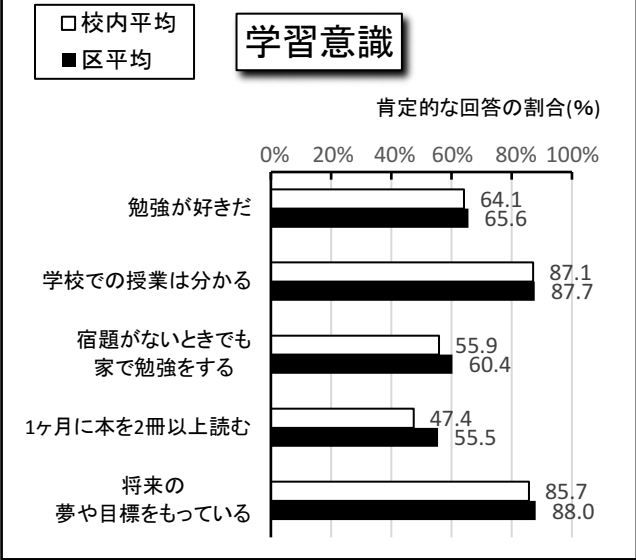
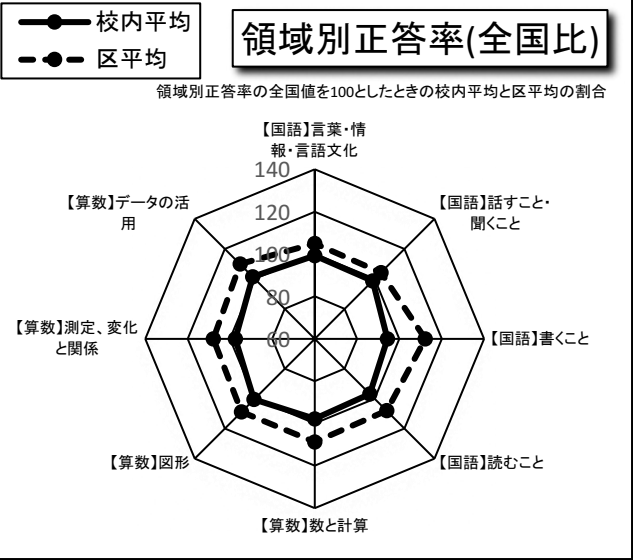
1 日常的な授業・取組の充実

- (1) 日常授業に重点を置き、校内研究、小中連携授業研究、教科指導専門員による教師の授業改善、足立スタンダードの効果的な活用に取り組む。
- (2) 東京ベーシックドリル診断テスト、A I ドリルを活用し、定期的な学習の診断を行う。
- (3) 日常の授業改善(校内研究会や学力向上会議を通して、全教職員で取り組む)
- (4) 手元に常に読みかけの本を携帯させ、年間読書目標達成率を70%以上などの取組を継続する。

2 始業前・放課後の活用・家庭学習の充実

- (1) 朝のパワーアップタイム、放課後補充教室でのテストやプリントの誤答の確実な直し、特に算数では課題がある学習内容についてA I ドリルなどを活用し、基礎学力の定着を図る。
- (2) 始業前や放課後の補充指導の充実(データに基づきA I ドリルを活用)
- (3) 「家庭学習の手引き」を全校配付し、休日の自主学習ノート1日×2ページを行う。
- (4) A I ドリルを活用した家庭学習の充実(弱点を分析し、補充を行う)

弘道第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	72.7	66.9	55.1	53.1	76.7	81.4	73.5	75.5	78.0	58.0	79.3	68.4
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	79.5	79.5	80.0	91.1	79.2	81.1	78.4	76.5	86.0	71.9	73.6	79.2
平均正答率(R6)	69.0	68.7	73.5	74.1	84.3	87.2	65.4	69.3	64.0	63.6	63.1	57.4
平均正答率(R5)	77.6	76.3	86.7	90.0	83.6	84.6	72.3	71.1	76.2	70.0	72.8	71.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

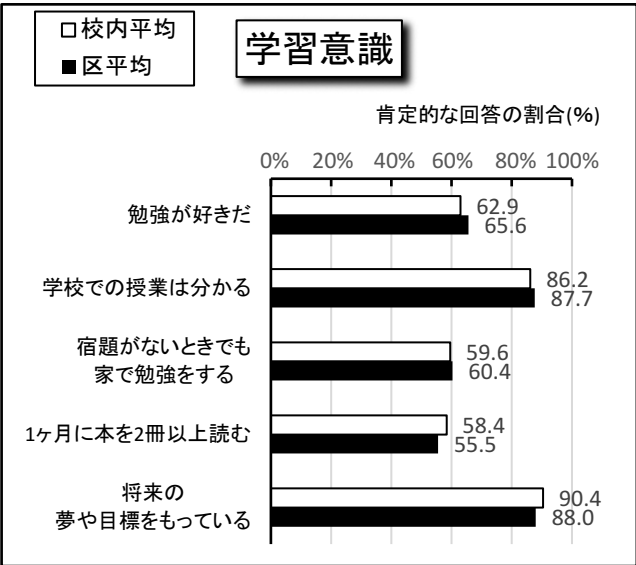
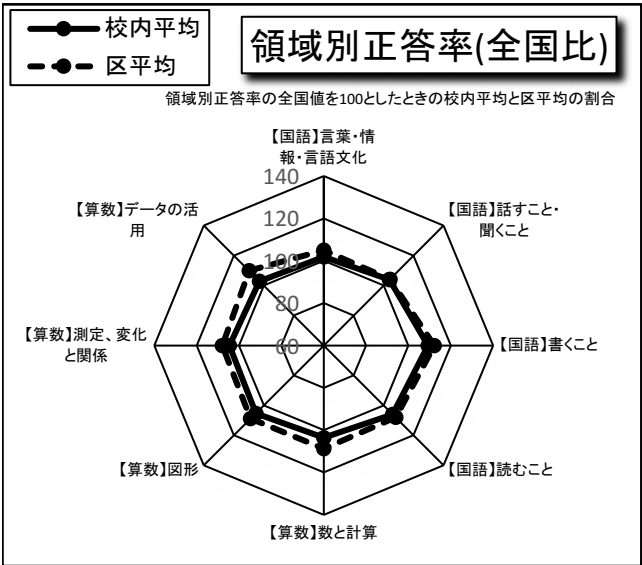
「学習定着度調査」分析結果

- 令和6年度の学力向上アクションプランの目標値である通過率80%に国語・算数ともに達することができなかった。国語の通過率72.7%、算数の通過率は66.9%という結果で、目標から大きく下回ってしまった。
- 通過率が80%を上回っているのは、3年生の算数81.4%のみであった。下回っている学年や教科について見ると、2年生の国語55.1%、算数53.1%、5年生の算数58.0%が区平均通過率との差が大きかった。また、各学年のデータから、学力が二極化していることが分かる。
- 意識調査においても区平均と比べてすべての項目で下回っていた。「勉強が好きだ」は1.5ポイント、「宿題がないときでも家で勉強をする」は4.5ポイント下回っている。学力だけでなく学習に対する意識の向上も必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 「指導力向上中核校」として国語科の「書く」指導について研究を行っている。文を書くことを肯定的に考え、「相手」「目的」「場」の意識を明確にし、伝えたいことをはっきりさせる指導を行っている。
- これまでの「学力ポートフォリオ研修会」で蓄積してきたクラス・学年・個に応じた課題をもとにし、効果的に解決を図る授業づくりや補習の仕方を探っている。
- 「パワーアップタイム」を火・木・金の朝学習で設定している。算数は東京ベーシックドリルを中心に既習事項をプリントで確認し、国語では漢字練習に取り組んでいる。
- 「読書量の向上」を目指し、読書通帳の活用や年2回の読書旬間、1～4年生は毎月の読み聞かせを行っている。学校図書館のレイアウトを変更することで、より機能的にタブレット端末と図鑑の併用などの利活用が図れるようにしている。
- 毎週月曜日に学力夕会を設置し、各学年からの学力向上に向けた取組やその成果と課題を日常的に情報共有し、学習内容の系統性も意識しながら授業改善を図っている。

江北小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	81.6	76.3	82.6	89.7	79.5	81.2	82.9	83.8	77.6	58.9	86.6	63.4
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.5	78.4	82.8	85.3	80.6	85.4	88.8	74.8	78.8	61.2	72.9	82.9
平均正答率(R6)	74.1	74.5	86.0	88.3	83.9	87.3	71.2	75.8	65.0	62.1	64.5	58.0
平均正答率(R5)	79.4	74.6	87.5	85.8	84.5	83.2	79.0	70.9	73.6	64.9	70.4	66.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

通過率は、多くの学年において区の値と差が見られたが、全国平均を上回った。

正答率で見ると、算数は区平均より低いものの、全国値と同等であった。また、算数の通過率は、区の値と大きな差が見られる学年が多かったが、2年生は区平均を上回っていた。国語・算数ともに応用的な問題への対応に課題が見られる。

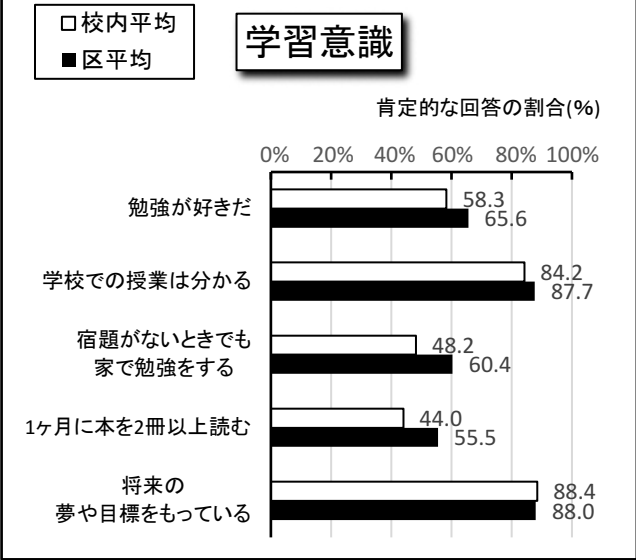
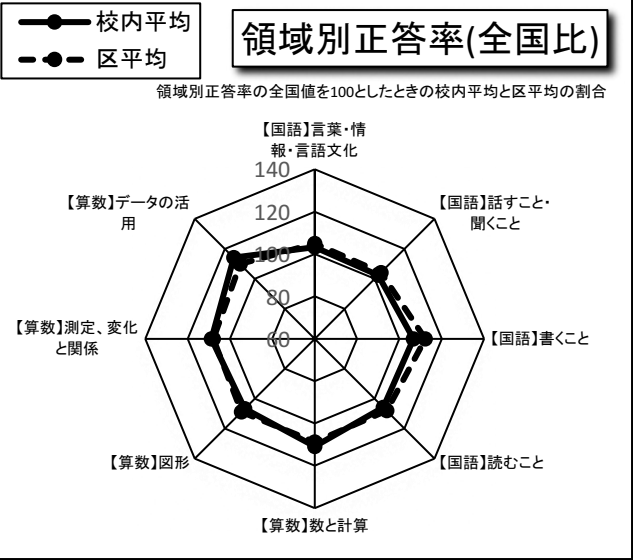
学力調査の結果から考察すると、国語では記述式問題の正答率が他の問題と比較して低く、書くことに関する力が低い。算数でも記述式の応用問題の正答率が低いなど同様の傾向が見られる。今後は、応用的課題への対応ができる理解力や表現力を伸ばしていくことが重要になってくる。

足立スタンダードに沿った授業実践、教科指導専門員による細かな指導、校内研究会による研修、タブレット端末などのICT活用の取り組みは、着実に成果として表れている。また、基礎学力向上のために行っている朝読書や漢字の小テストの確実な実施、全学年で定期的に実施する漢字コンテストや算数コンテスト、高学年を中心とした自主学習ノートへの取り組みなどが、児童一人ひとりの学力向上と学習意欲の向上につながっている。

学校による学力向上への主な取り組み

漢字コンテストを年間7回実施する。目的は基礎学力定着の一環事業として、当該学年で学習する漢字を確実に習得させることにある。毎回満点児童を全校朝会で表彰する。年間の平均90点以上の成績優秀者には、3月に校長賞を授与する。算数コンテストを年間7回実施する。単元の復習問題や学力調査の結果を受けて、問題を作成し、基礎力の定着を図る。毎朝、朝読書の時間を設定し、読書に親しむ環境を整える。また、読書記録を行い、1万ページ以上読むことができた児童を表彰する。自主学習ノートの取り組み、自分自身が興味関心をもったことに関する調べ学習や自分の得意なことや苦手な学習の復習、授業やテストの予習復習など、自分で課題を決めて取り組む。担任が一人ひとりのノートを確認し指導や助言を行い、学習の質や児童の意欲の向上を図る。MIMへの取り組みにより、文章理解力を向上させる。AIDリルを問題練習や宿題として活用し、基礎学力を向上させる。

古千谷小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.8	84.1	86.5	92.1	76.5	82.7	82.9	86.8	86.9	86.9	72.6	72.3
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	74.5	70.7	72.4	77.0	83.6	93.2	78.8	75.8	74.1	63.0	65.9	48.2
平均正答率(R6)	73.9	77.8	89.5	89.1	81.2	88.4	70.8	77.8	67.8	76.5	62.1	60.5
平均正答率(R5)	72.9	69.3	81.3	80.7	83.3	86.1	72.4	68.8	68.7	65.4	63.4	52.8

- ◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
- ◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]
- ◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学校全体としては、正答率・通過率ともに昨年度の値を上回ったが、昨年度とは出題や目標値も異なり、数値も平均であるという観点を留意しなくてはならない。

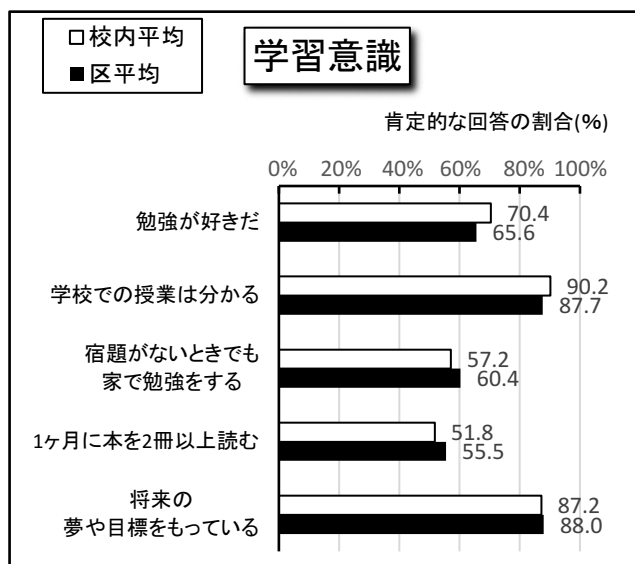
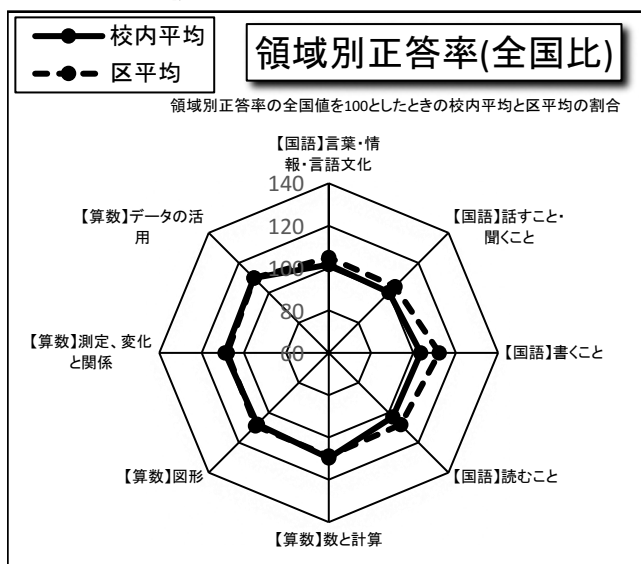
- ①「全体の平均であるという観点」
4年生は昨年度（3年生時）より国語・算数両教科において後退している。5年生は国語について正答率が下がった。6年生も国語の正答率が下がっている。
- ②「平均による全体と個別の観点」
5点が2名でも、10点と0点が2名でも平均は5点となるように、平均から見る全体の傾向と、平均を構成する個々という2つのアプローチによる分析が必要である。通過率が上がる一方で正答率が下がっていることから習得率の較差が生じていると考えられる。上位層には、より発展的な学習への伸びを目指す目標を設定しながらも、下位層への対応と個々の現状に合わせた到達目標の設定が求められる。

学校による学力向上への主な取り組み

学習成果からの考察は、各児童が学びの状況を確認できる機会であり、教員の指導が評価される側面もある。したがって、これを契機として児童は学習への再認識を行い、教員は更なる指導方法の改善に向かうことが重要である。そこで、次のような取り組みを行う。

- ①「S P表分析等によるポートフォリオ」
個々の学習状況（学力調査・単元テスト・小テスト等）を記録して個人データを残す。
- ②「補充学習の充実」
教育課程編成で時間割を改定し、週3回全校一斉でA Iドリルに取り組む機会を設定する。個人データをもとに状況に即した教材を提示する。放課後「古千谷塾」を実施する。
- ③「授業力向上への取り組み」
校内研究やO J Tによる授業力向上への研鑽を継続し、勉強が好き・授業が分かる児童の比率を上げられるように取り組む。

皿沼小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	75.5	80.8	93.1	100.0	73.3	83.9	91.1	95.6	64.8	75.9	64.8	61.1
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	71.6	79.8	75.0	90.6	71.7	89.1	71.7	79.6	65.5	63.8	76.6	83.3
平均正答率(R6)	67.8	73.3	91.1	95.4	84.8	88.3	74.7	83.0	56.0	70.2	57.7	52.6
平均正答率(R5)	72.5	71.6	84.4	88.2	79.9	86.1	70.4	70.8	66.4	59.6	69.6	66.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

<学習意識>

- 「勉強が好きだ」の項目の区平均との差を過去3年の推移で見ると、+1.5、+2.7、+4.8と着実に向上している。また「授業は分かる」については、-4.5、+1.7、+2.5とこちらも年々上がっている。これまで「主体的に取り組む態度の育成」に努めてきた成果である。特に「授業は分かる」の項目は9割を超えた。これは昨年度、国語と算数において授業改善の取り組みを具体的に進めた結果と言える。

<国語>

- 読解力の中でも、記述する設問への正答率は学校全体として非常に低かった。学年によっては、記述式の正答率が2割に満たない所もあり、性急にに取り組む必要がある。

<算数>

- 「数と計算」においては基礎的な計算力に課題が見られる。四則演算の中でも、減法と除法は正答率の低いものが多かった。

学校による学力向上への主な取り組み

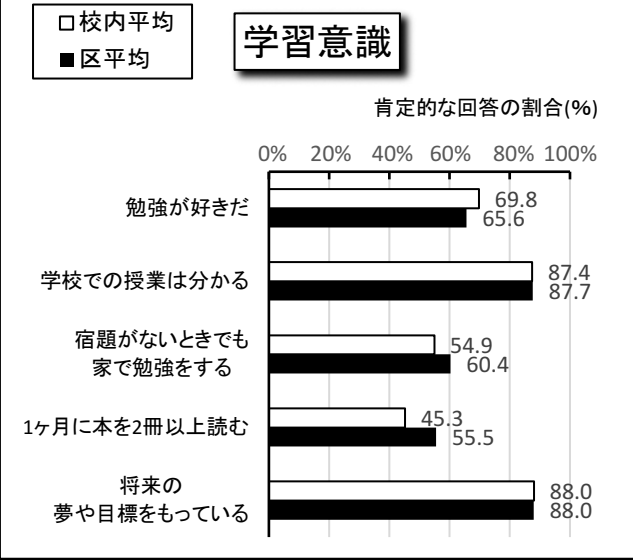
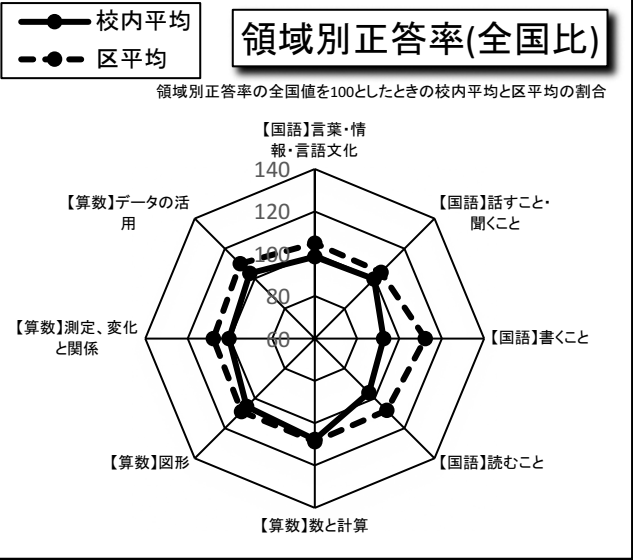
<国語>

- 毎時間の授業において、めあてに対するまとめを、自分の言葉で書かせる。これにより、自分の頭の中にあるものを、文章としてアウトプットする力を高め、記述形式の設問にも答えられるようにしていく。
- 国語科における読解力の系統的共通指導事項を作成し、それぞれの単元で身につけるべき学力を明らかにした。読解力における各授業レベルで育成する力を系統的に育んでいく。

<算数>

- 昨年から始めた「九九検定」に加え、今年度「繰り上がり」「繰り下がり」の検定も始めた。検定に合格しない児童は、個人面談中などの補習で徹底して覚えさせる。特に高学年の児童は卒業までに完全にマスターさせる。
- 算数は通過率8割を超えた。共通指導事項を各単元指導評価計画に明記し共通実践できているので、今後も継続指導する。

鹿浜五色桜小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	73.3	77.1	77.8	88.9	68.3	78.7	69.4	79.0	81.3	72.5	69.3	72.0
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	73.4	73.4	76.1	88.1	77.6	76.1	81.7	74.4	62.8	67.9	69.8	64.0
平均正答率(R6)	67.7	72.1	84.1	88.9	78.4	86.1	65.4	75.4	64.2	68.9	58.4	55.6
平均正答率(R5)	72.6	69.6	84.0	86.3	81.0	79.4	73.9	70.6	64.9	64.0	66.3	57.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]
◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】通過率は昨年度比で、0.1ポイント下降したが、学年ごとの通過率を比較すると、かなりばらつきがある。特に書くこと、読むことでの失点が大きいため、全校で読解力の向上を図ることを重要課題としていく必要がある。

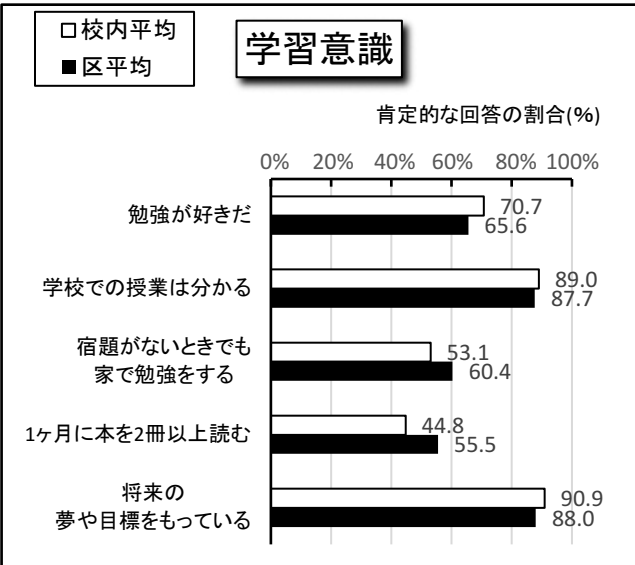
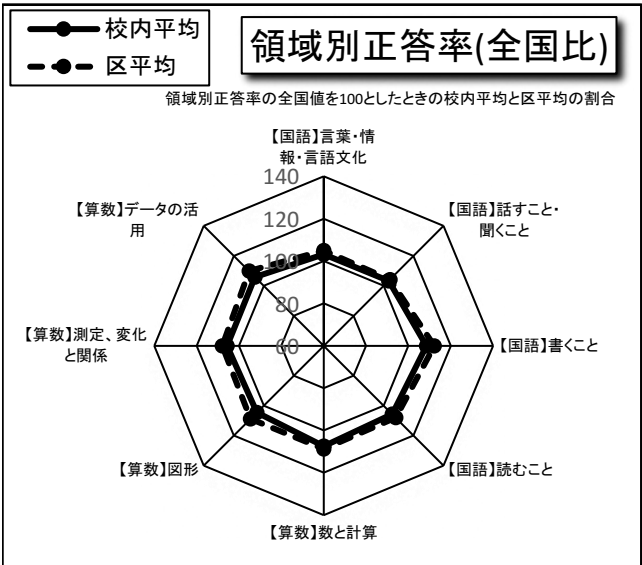
【算数】通過率は昨年度比で、3.7ポイント上昇した。数と計算の領域では、基礎計算を重点的に取り組んだ成果が見られた。依然として、図形と測定、変化と関係領域でのつまずきが多いため、今後も継続して重点的に対策を施していく必要がある。

【学習意識】勉強が好きだと答えた児童が区平均を超えた。これは、算数での授業改善や教員の意識の変化が大きく数字に表れている。授業の理解度も向上している。一方で、家庭学習への意識が変わらず低いことと、読書習慣の確立が今後の課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

- モジュール（朝学習）での、文章読解プリントの取り組み
毎週火曜日のモジュールは、全校で文章読解プリントに取り組む。説明文、物語文の読み方や、問題の読み進め方を指導している。その他のモジュールでは、新出漢字の練習や意味調べなどを行い、国語の知識の充実を図る。
- 放課後に週2回のさくら教室（放課後補習教室）を実施
学力調査やワークテストの結果からC・D層の児童を対象に少人数指導を行い、基礎・基本の徹底や弱点の克服を図る。
- 国語科の校内研究の実施
今年度と次年度の2年間で、説明文・物語文の指導方法について、校内研究を行い、授業改善を図る。
- 読書活動の推進と語彙力の向上
年2回の読書旬間の実施や、図書ボランティアや図書支援員による読み聞かせを行う。図書館を利用した調べ学習なども行い、本に触れる機会を増やし、語彙力の向上を図る。

鹿浜第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.7	80.7	83.5	84.7	85.7	89.4	80.5	84.4	75.0	71.1	77.6	72.4
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.6	84.7	83.3	91.1	76.9	84.6	88.0	88.0	82.9	77.6	76.4	80.6
平均正答率(R6)	74.0	75.6	87.9	87.0	86.3	89.7	70.5	76.2	63.9	66.6	63.5	60.7
平均正答率(R5)	78.1	77.3	86.7	87.1	84.0	84.0	75.7	78.3	74.5	70.5	70.7	67.7

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)] の平均値)

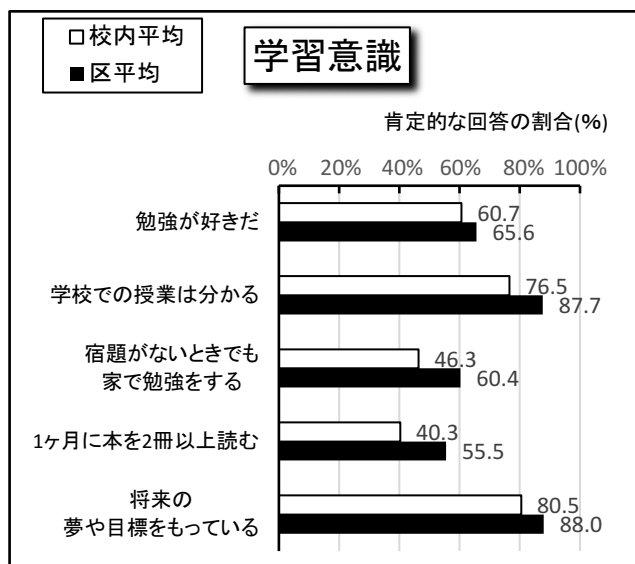
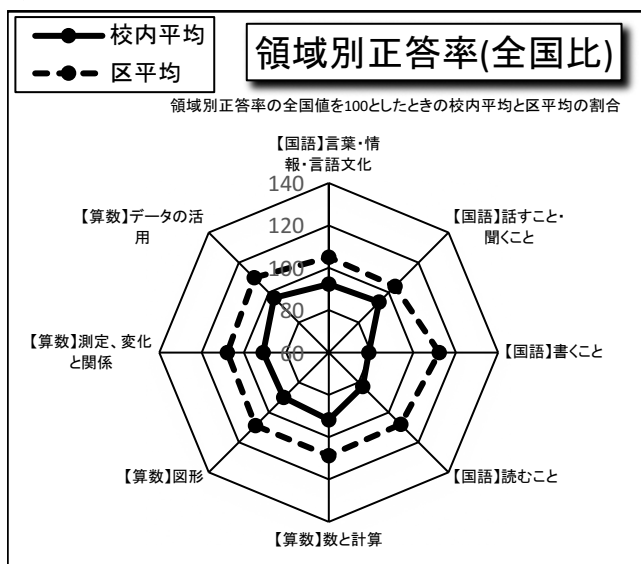
「学習定着度調査」分析結果

- 学習意識結果より：「勉強が好きだ」と回答した児童が5.1ポイント、「学校での授業は分かる」は1.3ポイント、「将来の夢や目標をもっている」が2.9ポイント区平均を上回っている。その反面、「宿題がないときでも家で勉強をする」が7.3ポイント、「1ヶ月に本を2冊以上読む」が10.7ポイント区平均を下回っている。結果より、学校での学習に対する意欲は高い。その意欲が持続できるよう、家庭学習の内容の精査や読書活動の充実が課題である。
- 通過率、平均正答率の結果より：2年生の国語、3年生の国語・算数では昨年度の平均正答率を上回っている。しかし、高学年においては、どの学年でも国語・算数ともに昨年度の平均正答率を下回っており、結果として学校全体の平均正答率、通過率がともに下がってしまった。学校において協働的な学びができるよう、ペアやグループ活動を意図的に取り入れていくことで、学力のさらなる向上を図ることができると考える。また、つまづきが補填されるようにグループ編成の考慮や個別支援を行い、より効果的に学習が行えるよう工夫する必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習「パワーアップタイム」：朝の時間を活用して基礎学力の定着を目的に、漢字・計算・読書を行う。年間を通して月毎の学習内容を決め、全校で同じ領域の学習をすすめる。
- 放課後学習「プレイバックタイム」：学習した内容の定着を図るため、月・火・木・金曜の放課後、支援が必要な児童は担任と教室で学習し、自主学習ができる児童は副担任と別室で学習する。
- 足立スタンダード授業の実施：「めあて」を明確にし、一人ひとりがしっかりと考え、児童同士で学び合う問題解決型の授業を実施する。
- ユニバーサルデザインの取り組み：全教室に統一された表記で「めあて」「振り返り」等のマグネットシート、日付（月と曜日は英語とのバイリンガル仕様）を使用。児童が教室を移動しても、どの教員でも、同じ環境で落ち着いて学習ができるよう整える。
- 家庭学習：漢字・計算ドリル・音読・A I ドリルを中心に取り組む。学年に応じて目安の時間を提案する。（低学年：30分、中学年：45分、高学年60分）

鹿浜未来小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	58.9	62.8	63.5	67.2	61.2	73.5	44.6	60.0	56.0	52.0	70.0	61.7
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	67.5	68.6	62.0	72.0	68.3	74.6	69.4	73.5	81.4	62.7	54.7	60.4
平均正答率(R6)	63.2	64.5	77.4	79.1	74.5	81.1	53.8	60.6	53.7	56.1	59.6	51.7
平均正答率(R5)	70.5	68.5	76.5	78.9	78.4	79.3	69.4	69.5	69.5	63.0	60.7	55.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

【領域別正答率(全国比)】では、すべての領域で区平均を大きく下回っている。特に国語では「読むこと」「書くこと」、算数では「数と計算」「図形」に課題がある。

【学習意識】では、すべての項目で区平均を下回っているが、昨年度と比較して、「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目は5.4ポイント上回っている。

【通過率】では、国語、算数共に、学校全体の通過率が65%を下回っている。学校全体として2年生の国語、6年生の国語と算数を除き、通過率が前年度より下回る結果となっている。

【上記から課題になる点】

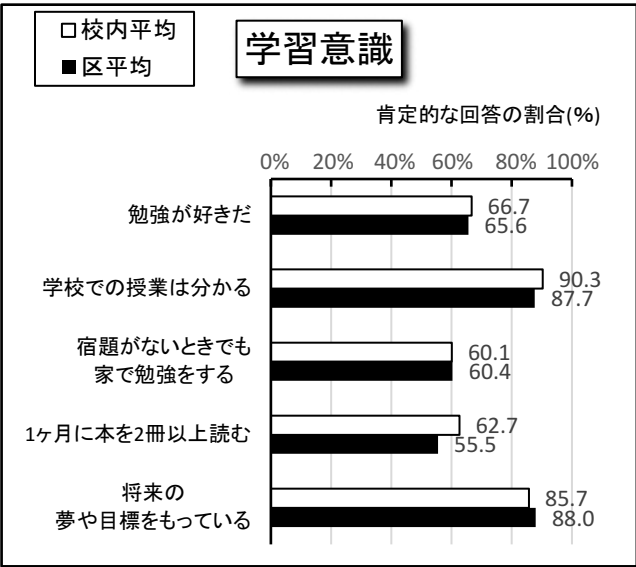
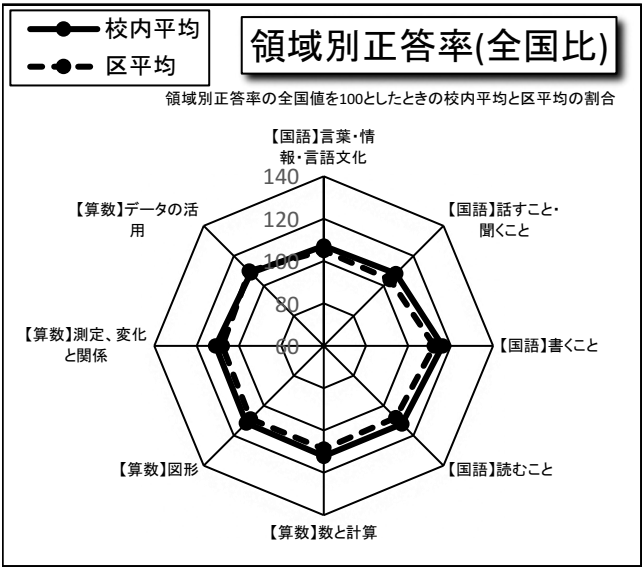
国語では、登場人物の心情に注目して読んだり、文の構成から筆者の考えを捉えたりすることに課題がある。

算数では、四則演算の定着、図形の面積の求め方の理解が十分と言えない。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・図書担当による図書館の活用の促進や読書月間の設定により、読書の習慣作りを継続し、読解力と知的好奇心の向上を図る。
- ・学力定着推進員の指導の下、全文掲示した教材文を活用した国語の読み取りの授業を展開し、物語文における登場人物の心情や、説明文における筆者の考えの読み取り方を身につけさせていく。
- ・朝の「パワーアップタイム」で毎回音読に取り組むことで、読解能力の向上を図っていく。
- ・算数の授業では、足立スタンダードの実践の中で、適用問題に取り組む時間を多めに確保することで、学んだことをその日のうちに身につけられるよう授業を展開していく。
- ・放課後学習の「未来タイム」では、国語の言葉や漢字、算数の計算や図形問題など、既習事項を復習する時間とし、授業外にも自力解決の時間を確保することで、学力の定着を図っていく。(A Iドリルの有効活用)
- ・校内でO J Tを行い、足立スタンダードに則った算数の授業展開、全文掲示した教材文を活用した国語の授業展開を教員間で共有する時間を設け、教員全体の授業力向上を図っていく。

島根小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	86.9	84.2	86.7	94.6	90.1	87.7	87.6	91.0	84.3	75.9	85.9	73.9
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	83.9	83.9	85.2	90.9	88.9	88.9	83.9	82.8	80.6	74.2	80.8	83.3
平均正答率(R6)	76.7	78.1	89.0	91.0	88.2	89.9	75.7	81.9	69.9	71.7	67.4	63.8
平均正答率(R5)	79.2	77.3	88.9	90.1	85.4	82.9	76.7	74.0	73.4	71.4	73.8	70.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

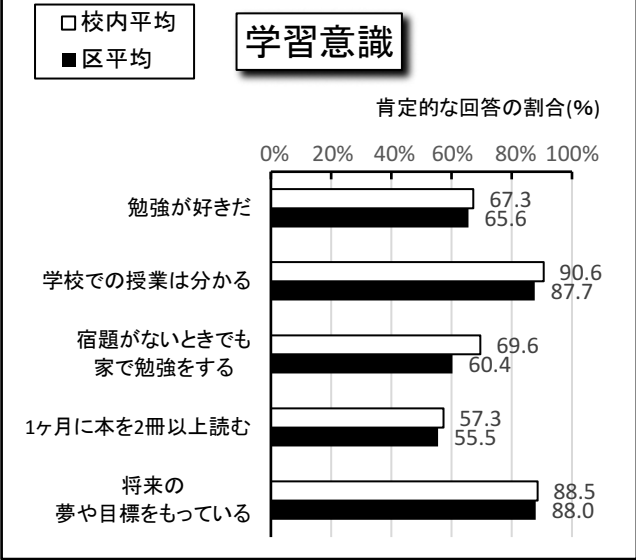
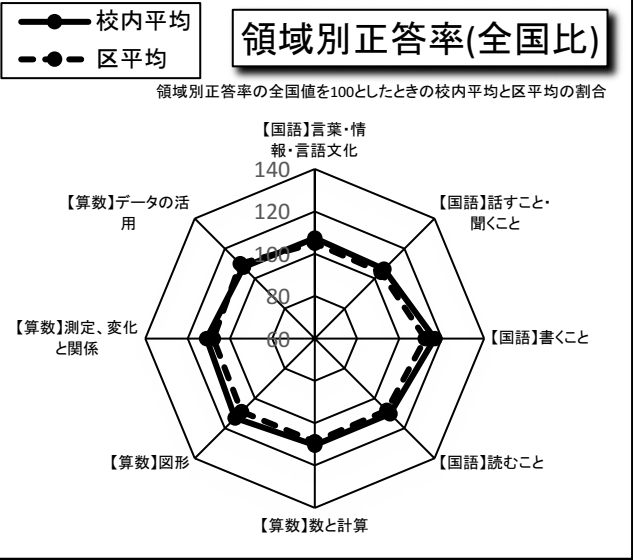
「学習定着度調査」分析結果

- 各学年において、平均正答率が国語・算数ともに区の平均を上回った。授業改善、朝学習、しまねっ子タイム、そだち指導などの取り組みの成果が表れている。
- 通過率は国語が全ての学年で80%以上となっており、基礎的な学習内容を多くの児童が身につけたと考えられる。ただし、高学年になるにつれて、国語の記述式問題の誤答や未記入が多い傾向にあり、初見の文章での的確な読み取りと問題文の理解、ポイントになる言葉や必要な情報を見つける力に関しては、今後も繰り返し指導していく。
- 算数は、「活用」に課題がある。文章問題を的確に捉えられるよう、半具体物や数直線図に表すことや言葉に線を引くなど解決の糸口を見つけてから答えを出すことを指導していく。また、発展的な問題にも取り組ませて活用する力を身につけられるようにする。
- 学習の意識調査では「将来の夢や目標をもっている」は、区平均より2.3ポイント下回っている。児童が頑張っていることや達成したことを振り返り、意味づけをして、次の目標につなげることをこれからも行っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 全学年の対象児童へ、毎週火・木曜日に30分間しまねっ子タイム（放課後補充教室）を行う。学習のつまづきを解消するために、対象児童に合わせた課題を準備し、国語と算数の復習を基本に学力定着を図る。
- 朝学習では、漢字学習、言語事項に関するプリント学習、算数はA Iドリルや東京ベーシックドリルを活用し、学力向上の充実を図る。
- 読書活動の推進として、各学年の目標数値の設定、年2回の読書旬間、おすすめの本カードを作成する。本に親しみ、幅広いジャンルの本を手にとり、本を好きになる児童を育てる。
- 児童の主体性を育てるために、児童がやってみたいと思う課題や導入を工夫し、「できた」「わかった」を実感できる授業を実践する。特に算数は、習熟度別指導で児童の実態に合った授業を展開し、学習の基礎基本の定着を図る。

新田小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	86.8	84.3	86.6	95.1	81.6	87.3	94.2	88.3	86.5	75.4	84.5	77.6
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	87.3	87.4	85.1	91.3	94.8	91.9	88.6	88.1	88.0	87.4	81.7	80.3
平均正答率(R6)	75.9	77.8	89.7	91.3	84.1	89.0	77.2	80.7	68.6	71.2	67.4	64.0
平均正答率(R5)	80.6	78.7	89.3	89.4	90.1	88.7	79.8	78.4	77.7	77.2	72.6	67.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

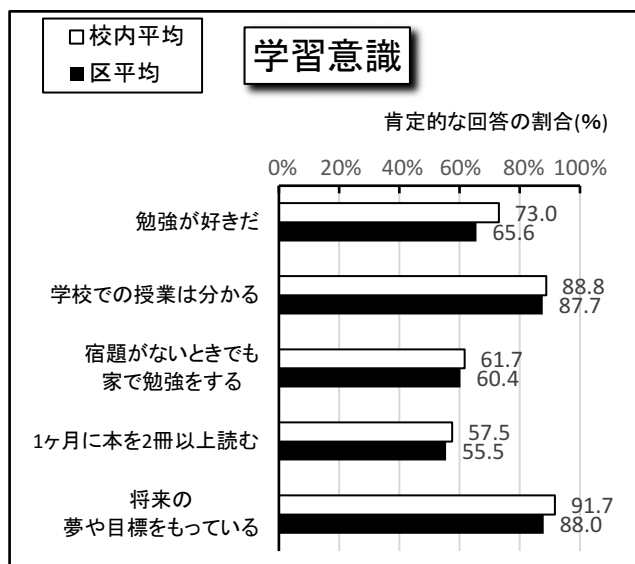
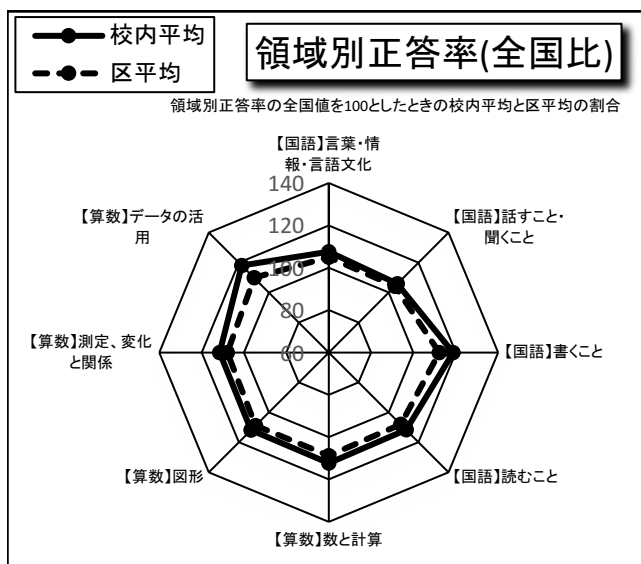
「学習定着度調査」分析結果

- 国語…全領域、区平均と全国値を上回っている。A層とD層の差では、高学年は「聞くこと」「漢字の読み書き」中学年は「説明的な文章」「文学的な文章」の単元において顕著に差が出ている。ただし、D層とC層にも差が見られるため、一部の児童が未定着と言える。
- 算数…全領域、全国値を上回ったが、データの活用の領域では区の平均を下回っている。問題の読解力や記述式の問題にも課題が見られるため、文章を理解しながら読む力と考えたことを文章で説明する力を育てる指導が必要である。
- 学習意識調査では全項目区平均を超えているが、「勉強が好きな児童」「読書をする児童」「宿題がなくても家で勉強をする児童」は7割に届いていない。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習において、国語・算数の定着度の低い内容についてプリント学習を行う。学習時間内に解答・解説を担当が行い定着度の確認を行う。また、高学年においては、教科コンテストを月に1回行い、単元ごとの知識や技能の定着を図る。朝のパワーアップタイム、放課後補充教室においては、授業でつまづいている学習内容について遡って取り組み、演習を中心に個別もしくは少人数指導を実施し、課題未達成の児童をなくしていく。
- サマースクールでは、平均正答率に満たない児童を対象者を絞るなど工夫をして、補習を計画的に行い、基礎学力の底上げ定着を図る。また、中学部の生徒が小学部の児童の学習を支援する、小学部の教員が中学部の生徒を指導するなど小中一貫教育校としての環境を十分に生かしていく。基礎的学力が定着していない児童に対して学年全体で補習体制を組み、定着度の低い学習内容について徹底的に指導する。学年全体での補習体制は9月以降も継続していく。
- そだち指導(3・4年生)を通して、つまづきレベルに合わせた教材を用いて、児童の学びの速度に合わせた指導を積み上げる。
- 家庭学習の習慣化を図る。1年生から6年生までの系統的な内容を考慮し、各学年ごと家庭学習の課題や実施方法を工夫し、取り組みの一層の徹底を図る。

関原小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	87.1	87.7	82.8	96.9	88.0	90.4	87.1	92.9	85.5	74.2	92.1	82.5
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	88.8	92.9	91.4	98.8	88.6	94.3	91.2	94.7	83.1	83.1	89.2	92.3
平均正答率(R6)	77.6	80.1	87.3	92.3	88.2	91.5	75.9	79.8	68.1	74.3	69.4	63.9
平均正答率(R5)	82.1	81.4	90.4	91.8	88.0	90.2	81.9	81.3	73.5	71.4	77.4	73.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体の通過率は、昨年度に比べ国語－1.7ポイント、算数－5.2ポイントであった。
- ・平均正答率も昨年度に比べ、国語－4.5ポイント、算数－1.3ポイントと下降した。
- ・昨年度と比べて通過率が下がったのは、2年生の国語－8.6ポイント、算数－1.9ポイント、3年生の国語－0.6ポイント、算数－3.9ポイント、4年生の国語－4.1ポイント、算数－1.8ポイント、5年生の算数－8.9ポイント、6年生の算数－9.8ポイントである。
- ・通過率が上昇したのは、5年生の国語＋2.4ポイント、6年生の国語＋2.9ポイントである。
- ・領域別正答率は、国語、算数ともにそれぞれの領域で区平均をやや上回っている。
- ・学習意識の肯定的な回答の割合はそれぞれの項目で区の肯定的な回答の割合を上回っている。特に「勉強が好きだ」の項目は、区平均に比べ、＋7.4ポイントで大きく上回っている。また、「宿題がないときでも家で勉強をする」の項目では、昨年度の校内平均58.6%に対して＋3.1ポイントとなっている。

学校による学力向上への主な取り組み

○指導力向上

- ・小中連携校3校で研究授業を行い、講師の指導助言や協議会から授業改善を図る。
- ・管理職や教科指導専門員による授業指導を行い、足立スタンダードの定着を図る。

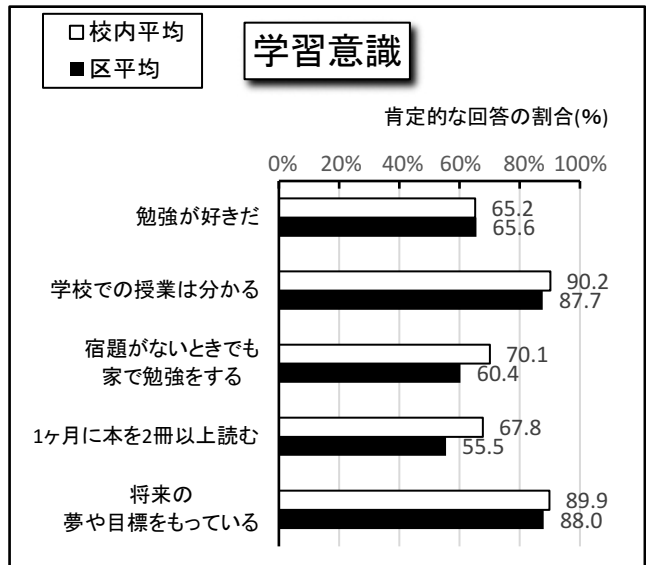
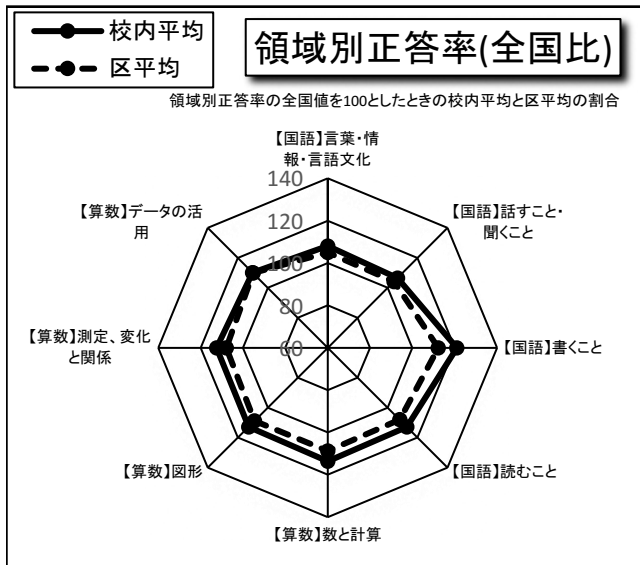
○基礎・基本の定着

- ・朝のパワーアップタイム(漢字練習、視写、文章読解、MIM、計算練習等)を実施する。
- ・区学力調査のSP表分析をもとに、関原個票を作成する。各学年、学級の課題を明確にし、個票分析結果から授業内や補習時間に個に応じた指導を行う。
- ・A Iドリルの活用により、個のつまずきの軽減を図る。
- ・MIMの練習プリントに取り組みせ、特殊音節の取得や読みの流暢さを育む。
- ・毎月全校一斉の漢字テストや、2～6年生対象の九九検定、5、6年生対象の区、都道府県名検定を実施し、学習意欲の向上や基礎学力の向上の定着を図る。

○家庭学習

- ・基準時間を(学年×10分+10分)とし、自分で内容を決める自主学習にも取り組んでいる。

千寿小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	86.0	86.8	85.3	93.8	88.3	89.0	83.7	88.6	81.8	77.0	91.4	86.3
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	88.0	87.3	88.4	91.1	89.9	92.3	86.7	88.0	93.4	87.6	80.9	75.6
平均正答率(R6)	77.4	79.9	88.0	91.7	88.7	90.3	73.6	77.0	68.8	74.0	72.5	71.5
平均正答率(R5)	82.7	80.9	90.8	89.5	89.5	90.0	78.6	78.1	81.2	77.3	74.3	70.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

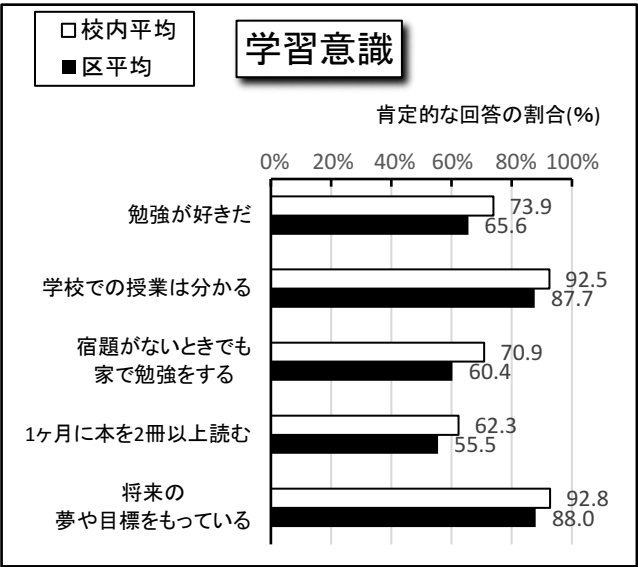
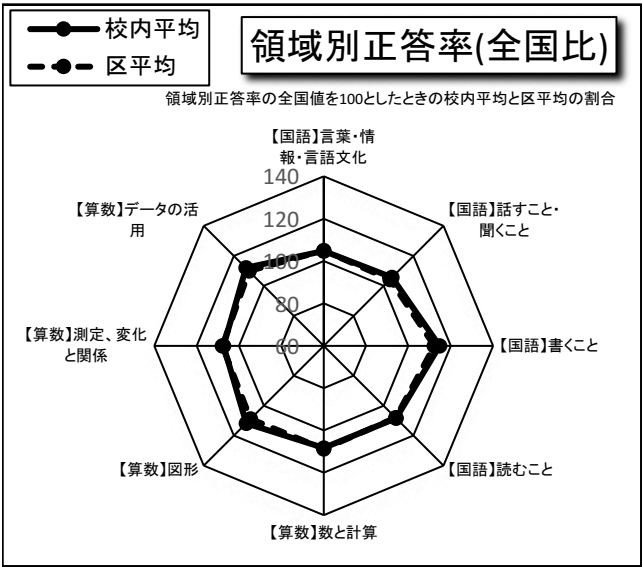
「学習定着度調査」分析結果

- 領域別正答率は全て区平均を上回っている。学力向上のために実施している取組の成果と課題を分析し、今後も改善を目指す。
【国語】書くことは3年続けて区平均を上回っている。毎月一回、全校で取り組んでいる作文による成果であると考え。
- 【算数】データの活用の領域は学力の伸びが見られない。足立区教育委員会指導力向上中核校として、研究している算数科の実践を日々の授業に生かす。
- 通過率が昨年度よりも上昇しているのが2年生算数、4年生算数、6年生国語・算数のみであった。また経年変化を見ると、通過率が下がっている学年も見られる。放課後学習教室やサマースクールなどの場面を活用し、学力の基礎・基本の定着を図る。
- 学習意識「1ヶ月に本を2冊以上読む」は、区平均を12.3ポイント上回り、「宿題がないときでも家で勉強をする」は、9.7ポイント上回った。読書と家庭学習の習慣を確立させるために学校で具体的な目標を設定して取り組んだ成果である。今後も継続して指導していく。

学校による学力向上への主な取り組み

- A Iドリルやドリル教材を計画的に活用し、反復学習に取り組ませる。また児童の取組状況を分析することで、初期の段階におけるつまずきの解消を図る。また、タブレット端末を使用し、一人一人が設定した課題を調べ、まとめ、発表する学習を計画的に取り組ませる。
- 100～200字程度の作文を書く活動を全学年で毎月一回実施し、視点を明確にした上で書く力の育成を図る。
- 1年生を対象に、多層指導モデルMIMを毎月一回、音読力チェックを年に二回実施し、児童が流暢に読めるように指導に生かす。
- 家庭学習の充実を図る。2年生以上の児童に週に一回以上、自主学習の課題を出し、実生活の中から問いを見だし、情報を集め、整理し、表現できる力を育成する。
- 学年に応じて冊数やページ数を具体的に示した読書の目標を設定し、読書週間の確立を図る。また週に一回、朝学習に読書の時間を設定している。
- 3、4年生の算数科において、そだち指導を実施し、指導の個別化を図る。

千寿桜小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.1	83.1	84.1	87.8	67.9	82.1	90.3	83.9	84.4	81.8	87.1	80.0
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.8	88.4	80.0	88.0	93.1	97.7	92.1	89.5	82.1	78.6	86.3	87.7
平均正答率(R6)	75.2	77.4	86.1	86.8	79.9	86.9	73.6	77.0	71.4	76.7	68.5	63.9
平均正答率(R5)	82.5	79.8	87.0	85.8	90.9	90.9	83.6	79.2	77.5	73.3	75.3	72.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

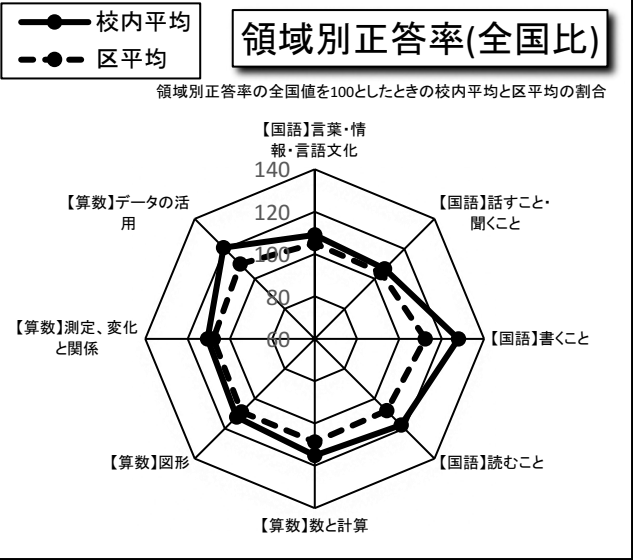
「学習定着度調査」分析結果

- 平均正答率・通過率からの分析
 - ①全学年で、各教科の平均正答率が目標値を上回り、これまでの学力向上策の成果が表れた。
 - ②3年生国語の通過率は、67.9%と低かったが、一問の差で未通過の児童が7名だった。
 - ③学校平均通過率は、昨年より国語で3.7ポイント、算数で5.3ポイント下がった。今後も基礎・基本の徹底を図っていく。
- 学習意識調査からの分析 ※三年間の数値と比較
 - ①「宿題がないときでも家で勉強する」(66.0%→67.3%→70.9%)「1ヶ月に本を2冊以上読む」(61.7%→61.8%→62.3%)の項目において、昨年度の結果から上昇した。日々の授業や家庭との連携、協力が結果として表れている。
 - ②昨年度の課題であった「将来の夢や目標をもっている」(87.3%→86.2%→92.8%)の項目が上昇した。授業改善やキャリア教育など、学校全体で取り組んだ成果と思われる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 基礎学力定着のための学力向上策
 - ①算数少人数習熟度別指導(1、2年生)
 - ②朝のモジュール学習(言語指導)(火・水・木・金 8:25～8:40)
 - ③「桜☆学習コンテスト」計算・漢字・都道府県等(長期休業明け年3回)
 - ④A Iドリルなどのタブレット端末活用
 - ⑤放課後補習教室(会議のない日の放課後)
 - ⑥サマースクールでの個別指導(長期休業中10日間程度)
- 読解力・思考力・判断力・表現力等の育成のための取組
 - ①読みのつまずきを解消するための取り組み「MIM(多層指導モデル)」フォローアップ
 - ②短作文(100文字程度)の実施(教科領域を問わずあらゆる場面で)
 - ③自学自習の取組(2年生以上:宿題とは別に自ら考えた課題で家庭学習を行う)
 - ④年3回の「読書月間」と「図書館を使った調べる学習コンクール」への参加奨励

千寿常東小学校



□ 校内平均

■ 区平均

学習意識

肯定的な回答の割合(%)

	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	87.8	89.4	89.0	92.7	86.7	90.7	86.4	83.8	89.4	89.4	87.2	89.5
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.0	84.6	87.0	96.1	91.8	80.8	89.0	89.0	80.5	75.9	83.0	81.9
平均正答率(R6)	78.6	81.1	89.3	90.5	86.5	89.3	76.7	78.4	74.4	82.0	70.3	69.4
平均正答率(R5)	80.5	77.7	90.2	89.2	88.3	83.1	79.3	78.8	75.2	70.0	75.4	72.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%))の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語科】 学校全体の通過率は昨年度より1.8ポイント向上した。学年別での通過率は全学年で85%を超えている。領域別正答率を見ると「書くこと」の正答率が高く、「話すこと・聞くこと」は他の項目と比べると低い。日頃から聞く力を伸ばすとともに、語彙を拡張し、言葉を適切に活用する取り組みを継続する必要がある。

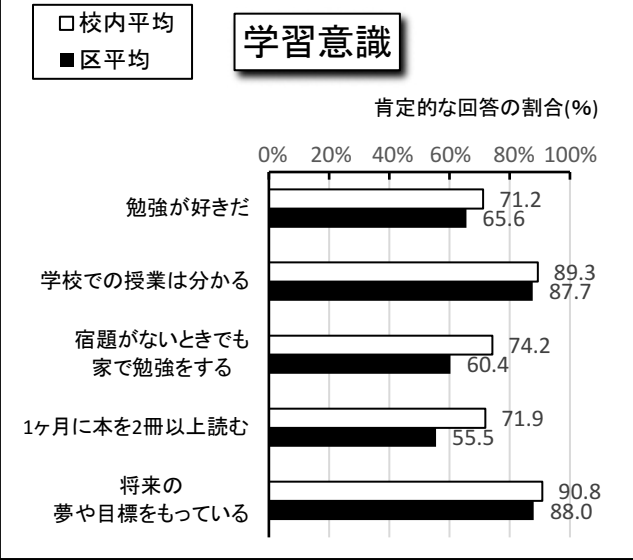
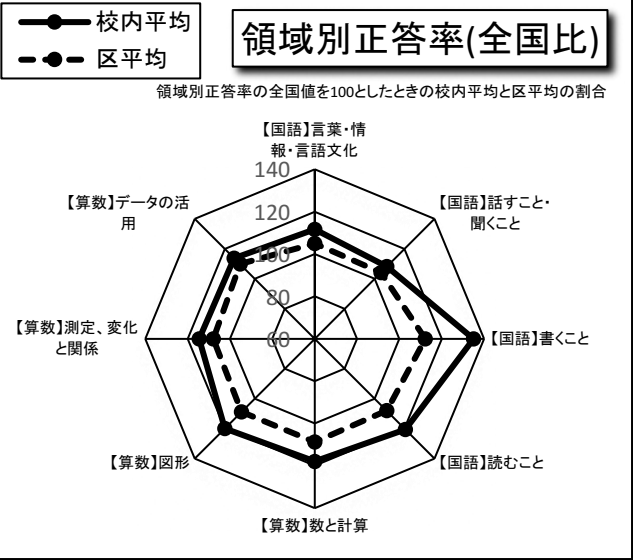
【算数科】 学校全体の通過率は昨年度より4.8ポイント向上した。学年別での通過率は全学年で80%を超えているものの、昨年度を下回った学年もある。領域別正答率を見ると「データの活用」の正答率が高く、「測定、変化と関係」「図形」は他の項目と比べると低い。定規を使用して丁寧に作図をしたり、変化を正しく把握したりする学習を重視していく。

【学習意欲】 すべての項目で区平均を上回った。特に「1ヶ月に本を2冊以上読む」は、区平均を15.2ポイント上回った。しかし、平成30年から90%以上を維持してきた「将来の夢や目標をもっている」の肯定的な回答の割合が、今年度わずかながら90%を下回った。キャリア教育をより推進していく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝の時間にパワーアップタイムを設定し、国語科と算数科を中心に課題となる学習を重点的に行う。A Iドリルも活用し、苦手な単元や実態に応じた学習を計画的に実施する。
- ・国語科「書くこと」「話すこと・聞くこと」の向上を目指し、2週間に1度以上書く活動を実施する。ミニ作文や聴書、視写を発達段階や実態に応じて計画的に取り入れる。
- ・読書活動を推進し、言語への知識や理解を深め、学習の基礎となる読解力を育成する。
- ・放課後学習教室で、算数科の学習で課題が残る児童に対して、個に応じた教材を活用し、学習理解の定着を図る。
- ・夏季休業中に3種類の補習教室を実施する。①全児童を対象として学習時間の確保を目的に学びの場の設定②学習内容が定着していない児童に対しての個別指導③5、6年生のつまずきの生じやすい単元に特化した、A Iドリル活用型の補充学習の3種類である。
- ・学力調査や単元テストなどから児童一人ひとりの学力の定着状況を日常的に把握し、そだち指導員などを活用しながら、個別最適な学びを実施する。

千寿第八小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	93.3	91.1	95.8	98.6	89.9	92.4	95.2	91.8	92.6	86.6	93.3	86.7
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	93.1	93.1	92.0	97.3	96.6	96.6	92.6	93.8	96.1	88.3	88.9	89.9
平均正答率(R6)	80.9	82.6	93.1	94.1	88.8	92.3	77.8	82.1	72.9	76.2	76.1	72.7
平均正答率(R5)	84.5	82.7	91.3	91.6	93.0	89.1	84.5	82.2	82.2	77.6	76.3	77.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]
◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】通過率は、昨年度に比べ学校全体で0.2ポイント上昇した。個別指導を丁寧に行っている成果が現れている。平均正答率は学校全体で3.6ポイント下降したが、「書く力」「読む力」は区平均を大きく超えている。音読や読書、詩の暗唱、読解問題、短作文の日常的な取り組みの成果が現れている。「話すこと・聞くこと」に課題がある。

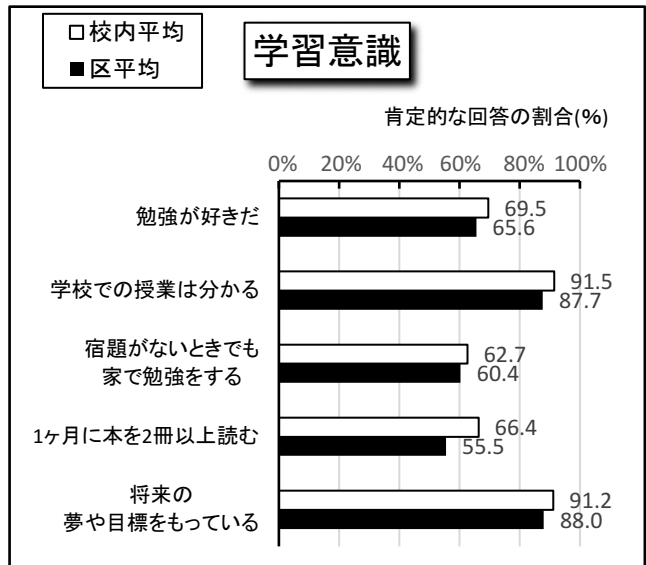
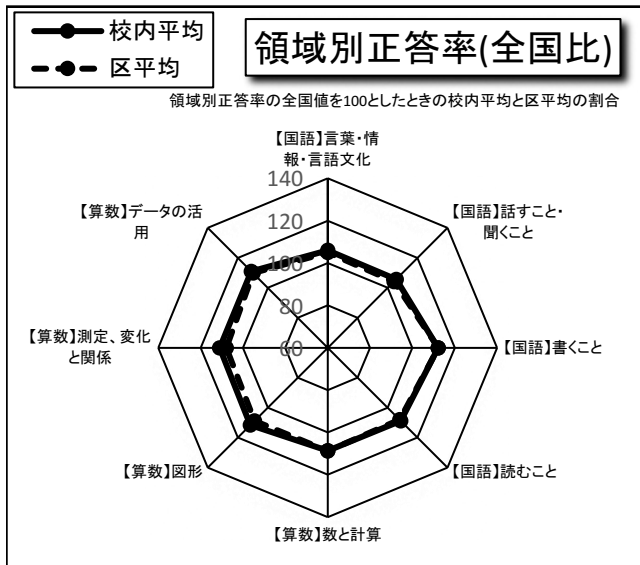
【算数】通過率は、昨年度に比べ2.0ポイント下降したが、学校全体では91%を超えるなど高い数値を維持している。5・6年生が、目標通過率の90%を超えることができなかった。2年生については95%を超えるなど高い数値を示した。学校全体の平均正答率は、昨年度とほぼ変わらないが、6年生が4.4ポイント下降した。習熟度別指導を一層充実させ、個々の力を伸ばしていく。

【学習意識】全ての項目において、区平均を上回った。毎月実施している学習がんばり週間や読書月間、年間読書目標の取り組みの成果が現れている。今後は、「学校での授業は分かる」「将来の夢や目標をもっている」の項目が向上するよう授業改善を図っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 「ジャンプタイム」…漢字・読解問題・100マス作文を実施し書く力と読む力の向上を図る。
- 「朝のチャレンジタイム」…発声練習・マス計算を実施し表現力と計算力の向上を図る。
- 「放課後補充教室」「夏休み補充教室」など…学力調査結果を基に定着が不十分な児童の個別指導の充実を図る。
- 「学習がんばり週間」…家庭学習(15分間×学年)を実施する。
- 「そだち指導」…そだち指導員による3・4年の個別指導を実施し基礎学力の定着を図る。
- 「読書活動の充実」…朝読書や年3回の読書月間、読書目標の設定等により本に親しむ機会を多く設ける。
- 「問題解決的な学習の充実」…算数を中心にして授業改善を図り、数学的な考え方等を一層高め、課題解決力、思考力・判断力・表現力を高める。
- 「体験的な活動の充実」…多様な体験的な活動によって、学びに向かう力を向上させ、自ら積極的に学ぶ意欲や態度を高め、将来への夢や目標を育んでいく。

千寿双葉小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.3	81.4	74.1	82.8	89.2	90.5	88.9	86.4	72.5	61.3	90.3	87.5
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	87.9	86.3	86.7	97.3	93.5	90.9	87.0	79.2	93.3	85.3	79.5	79.5
平均正答率(R6)	75.2	77.3	83.3	86.6	87.4	90.4	77.1	80.3	62.8	65.9	71.6	69.2
平均正答率(R5)	81.2	78.3	89.5	90.2	90.2	88.4	75.8	73.1	82.3	77.6	72.1	67.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

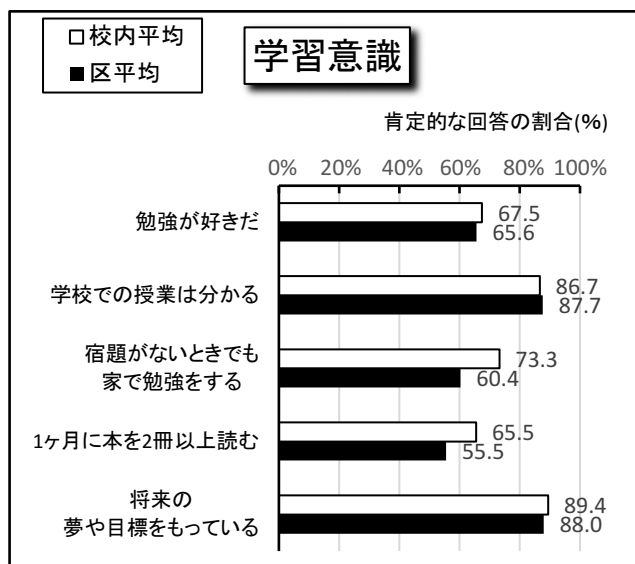
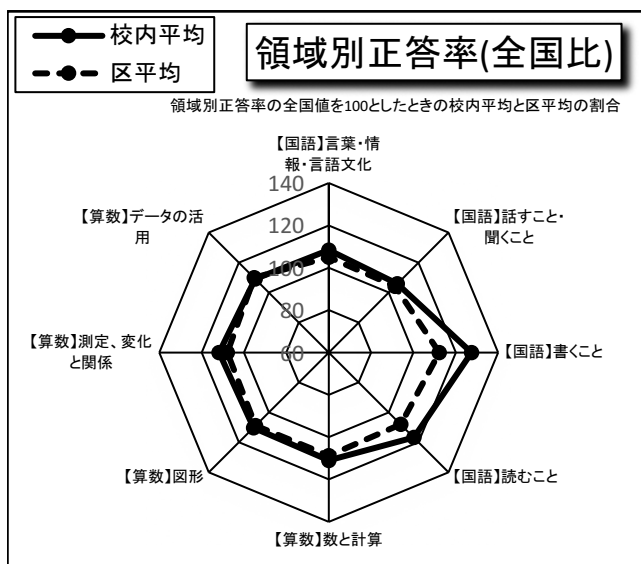
「学習定着度調査」分析結果

- 通過率は国語では83.3%で、昨年度の87.9%と比較して4.6ポイント下回った。算数では81.4%となり、昨年度の86.3%と比較して4.9ポイント下回った。領域別正答率は、国語の「書くこと」、算数の「数と計算」は区平均と同等程度である。今後の指導の重点とし、定着させていく。
- 通過率80%を下回ったのは、2年生国語74.1%、5年生国語72.5%、算数61.3%となっている。5年生の算数は、昨年度の4年生時と比較して通過率が17.9ポイント下回った。定着が不十分な分数の計算の改善を図っていく。6年生の算数は、昨年度の5年生時と比較して通過率が2.2ポイント上回った。指導の成果である。引き続き定着を図る。
- 学習意識では全ての項目で区平均を上回っている。「将来の夢や目標をもっている」では9割を超えている。一方「宿題がないときでも家で勉強をする」は区平均を上回っているが、62.7%と7割を切っている。この結果から自己肯定感はあるが、主体性を育てる必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習(15分間)を週3回実施する。
 - ・漢字:朝の時間に5問から10問のテストを実施する。前日までに範囲を伝える。
 - ・計算:東京ベーシックドリル、A I ドリルの前学年までの範囲を取り組む。
 - ・A I ドリル:ワークブックに取り組む。
 - ・聞き取り書き取りチャレンジ:児童朝会の校長講話を聞き取り、短作文にする。
- 家庭学習:音読、漢字、算数、自主学習(家庭学習の手引き)、A I ドリル
- 新聞活用
 - ・記事やコラムについて感想や考えを書く。
 - ・知れたい記事を選び、朝のスピーチで発表する。
 - ・読書の代わりに新聞を読む。
- 放課後学習
 - ・つまずきのある内容についてわかるまで取り組む。

千寿本町小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	86.8	80.4	81.5	75.4	81.4	84.7	88.5	82.0	90.9	77.3	91.7	83.3
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	89.0	84.9	79.4	87.3	88.5	78.7	93.8	89.2	98.2	84.2	84.9	84.9
平均正答率(R6)	78.8	78.6	86.7	84.8	83.6	84.9	77.1	80.6	76.7	73.9	72.2	71.3
平均正答率(R5)	83.7	79.6	87.1	83.6	87.0	83.1	82.7	80.9	82.7	76.8	79.9	74.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体としては、8割以上の児童が目標値を通過していること、約80%の平均正答率になっていることから、基礎的な学習内容の定着度は概ね良好であると考え。しかし、2～3年生については正答率・通過率ともに区平均を下回っており、課題が明らかとなった。
- 昨年度、3年生以上の算数科習熟度別指導を行うことができなかった影響が、通過率や正答率の低下に結び付いたものと考えている。今年度は、習熟度別指導の充実を図り、学習内容の確かな定着をめざす。
- 学習意識の項目で、「学校の授業は分かる」が、区平均を若干下回った。上位層(定着度が高い)と下位層(定着度が低い)の二極化傾向が見られることから、今後はより丁寧に、個に応じた指導を展開できるように努めていく。

学校による学力向上への主な取り組み

本年度は、以下の3点を柱にして、学力向上に向けた取り組みを進めていく。

○豊かな言語活動の充実

- ①月1回の俳句づくり ②暗唱発表会 ③季節の詩の音読・暗唱 ④百人一首大会
- ⑤学年ごとの暗唱発表会 ⑥月1回「天声子ども語」の書き写し(3年生以上)
- ⑦年4回の読書週間(1回2週間)

これらの活動を通して、語彙力や表現力を身につけていく。

○計算力の向上

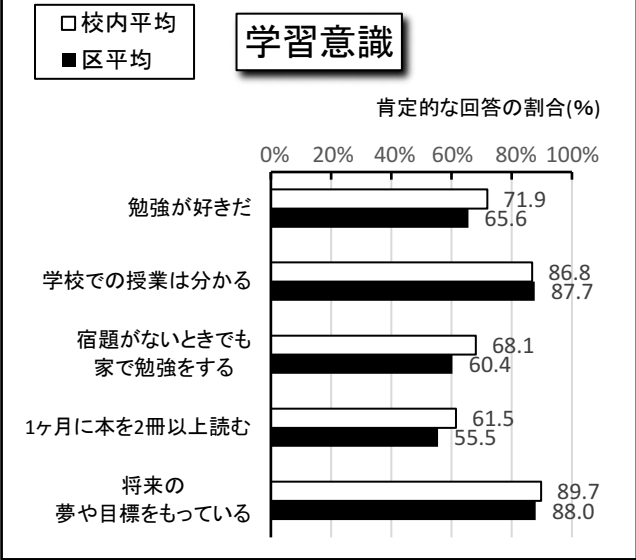
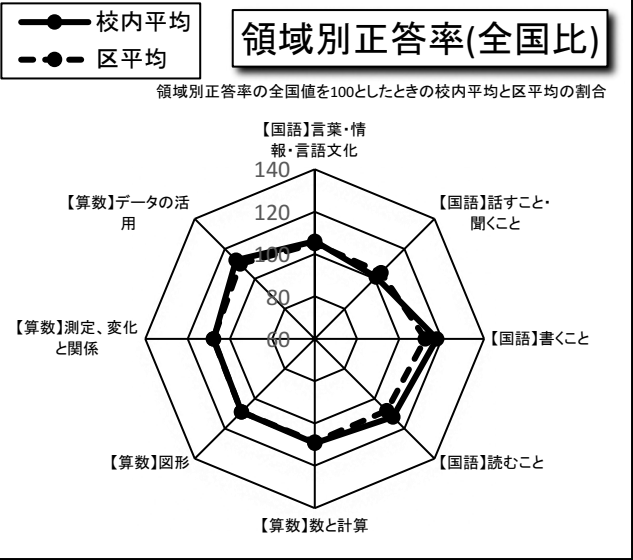
- ①「ミラクルタイム(補習教室)」:対象児童が月に2回程度、計算問題を反復練習
- ②「九九週間」:2年生児童が、12月に縦割り班の教員から九九検定を受ける
- ③「計算力の確認」:月末の朝の時間に、A Iドリルのワークブックに設定された計算問題を解き、これまでの学習を振り返る

これらの活動を通して、目標をもち、意欲を持続して学習に取り組めるようにしていく。

○児童が学習しやすい環境づくり

- ①足立スタンダードに沿った授業展開
- ②継続した「姿勢タイム」で、集中力の向上と体幹づくり

竹の塚小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.6	81.4	84.0	88.0	85.2	88.9	89.5	89.5	79.6	75.5	82.1	71.4
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	83.4	83.1	87.5	87.9	92.7	85.4	88.6	86.4	78.2	81.8	73.3	76.1
平均正答率(R6)	74.1	75.1	85.9	87.4	87.3	90.6	74.8	77.2	65.7	70.9	67.7	62.5
平均正答率(R5)	79.5	77.0	89.0	86.1	89.8	84.2	78.2	77.8	77.3	74.9	70.4	68.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%))の平均値

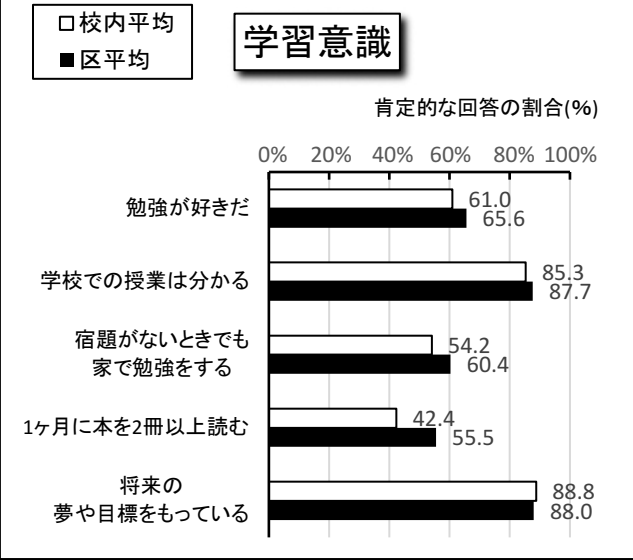
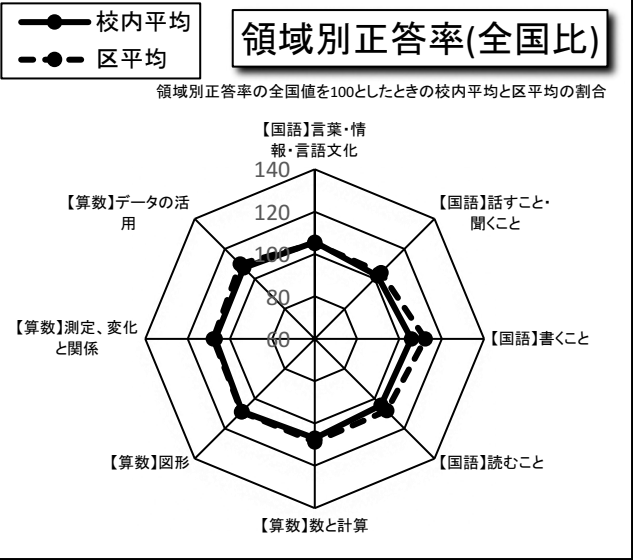
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は、国語が83.6%、算数は81.4%であった。国語・算数ともに80%を上回っており、学習内容の定着が図られているといえる。昨年度と比較すると、国語は0.2ポイント増で、パワーアップタイム、放課後補充教室（竹の子タイム）の成果が表れている。算数は1.7ポイント減となり、A Iドリルの活用が十分ではないことが課題としてあげられる。
- 学習意識の「勉強が好きだ」は区平均よりも6.3ポイント、「宿題がないときでも家で勉強をする」という項目でも区平均を7.7ポイント上回っており、児童の学習意識が高まっている。
- 「学校での授業は分かる」の項目が区平均より下回っているため、今後、児童が「分かる」と感じられるように、対話を多く取り入れ、授業改善を行っていく。
- 「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目は区平均を上回っており、校内の読書活動の充実により、児童の意識が高まっているといえる。
- 8つの領域のうち「書くこと」「読むこと」が区の平均を上回ることができた。読書活動をはじめとする国語を中心とした指導の結果が、読解力として表れたと考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 教師の授業改善
足立スタンダードに基づく問題解決型の授業を実践する。教員相互の授業観察、教科指導専門員の指導の充実と活用を図る。学力調査の分析で実態把握を行い個に応じた授業を行う。
- 個に応じた指導の充実
I C Tをスキル学習でも取り入れ、A Iドリルを積極的に活用し個に応じて活用する。放課後補充教室は、漢字や計算を担当と協力して他の教員も指導し、個別最適な指導を図る。
- 読書活動の推進
図書館支援員を活用し、蔵書の充実、図書委員会活動の工夫、図書ボランティアによる読み聞かせ、区立図書館などとの連携、学級文庫の充実、読書の時間確保を全校で取り組む。
- 小中連携教育事業を通した指導の一貫性の確保
連携小中学校とともに「自分でめあてを立てて主体的に取り組むことのできる児童・生徒」「自分の考えを積極的に表現できる児童・生徒」を目指し、共通の実践事項を実施していく。

辰沼小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.3	80.6	78.9	86.3	87.3	95.8	84.7	82.4	78.6	67.1	72.0	69.3
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.3	84.8	81.0	93.7	78.3	86.7	87.7	90.3	75.6	76.9	84.1	77.3
平均正答率(R6)	74.0	76.0	85.1	88.3	87.8	92.3	73.4	76.4	65.7	69.4	60.8	56.3
平均正答率(R5)	77.6	76.9	87.5	88.8	82.7	83.5	79.5	78.9	69.4	70.3	72.8	67.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学校全体での目標値の通過率は昨年度と比較し、国語では1ポイント、算数では約4ポイントではあるが減少している。5・6年生の国語・算数が共に進級前の通過率を大きく下回っているが、全体の目標値の通過率があまり変わっていないのは低学年の通過率の高さに相殺されているからだと言える。また、本校の課題として国語の「書くこと」が他の領域よりも低くなっているが、学年別の誤答分析からは以下の内容が課題としてあげられている。

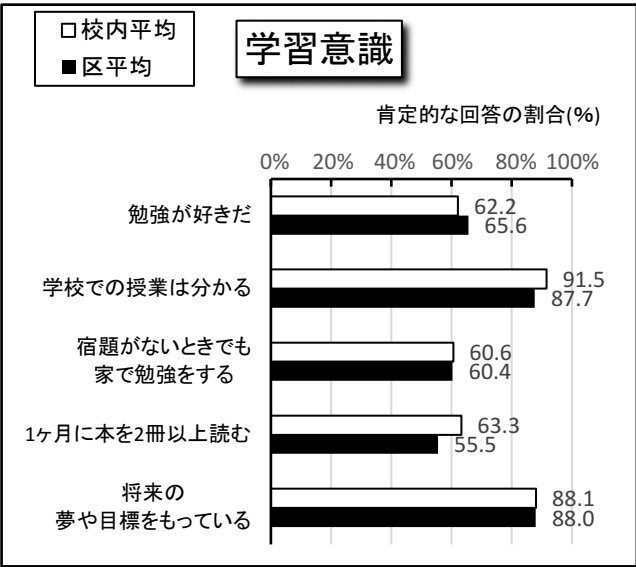
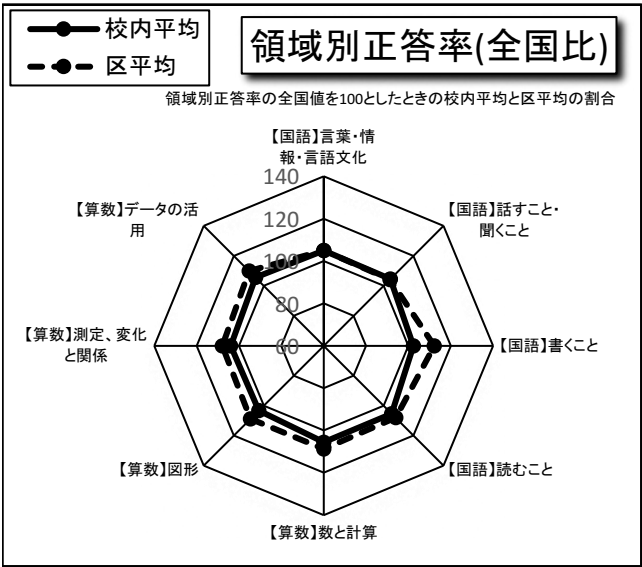
○5・6年生「条件に合わせて書く」 ○4年生「本文を読み取って書く」
○3年生「文章からの書き抜き」 ○2年生「本文からの書きぬき」「話の続きを書く」

以上の課題から、「書くこと」の領域の指導に重点を置き、書くための「読み」を習熟できる取り組みを見直し、継続して行うことが必要となる。また、1ヶ月に2冊以上本を読む児童が区の平均より約13ポイントも少ないので、読書の推進が課題の一つとなる。

学校による学力向上への主な取り組み

本校では、学力の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの力に即して学力向上プランを立てている。現在実施している取り組みとして、「漢字・計算・音読・読書を中心とした計画的な朝学習」「毎週のA Iドリルの算数での活用」「計算・漢字検定での基礎学力の定着」「思考力・判断力・表現力を育てるための授業改善」「放課後学習教室(辰塾)」がある。今年度の調査結果を受け、これまでの基礎的な知識・技能の向上への取り組みに加え、国語の「読む力」「書く力」の更なる育成に向け、朝学習の音読のやり方の改善や宿題の見直し、放課後学習教室(辰塾)の指導内容の精選を図り、自分の考えを文章に表したり、文章をもとに読み取ったことを書いたりような言語活動を多く取り入れていく。また、高学年の算数においては苦手な領域を明確にするために領域ごとに調査できるテストを活用して分析し、個に応じた指導や家庭との連携を図っていく。

寺地小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.7	76.6	78.7	80.0	83.0	86.8	81.7	80.0	81.6	55.1	91.8	78.7
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	84.0	79.9	86.0	89.5	84.4	84.4	87.8	79.6	84.1	69.8	78.7	77.0
平均正答率(R6)	73.9	73.6	81.7	84.8	86.3	89.2	73.0	74.9	64.8	64.0	68.2	61.6
平均正答率(R5)	78.8	73.2	89.6	85.5	85.9	85.4	77.5	74.6	73.6	64.6	71.1	61.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

区平均との差についての分析

- ・領域別正答率を見ると、区平均と比較して全体的に平均値が低い。
- ・学習意識調査を見ると、学校での授業はわかると感じている児童は区平均と比べて多いが、勉強が好きだと感じている児童は区平均と比べて少ない。

経年変化での分析

- ・児童の経年変化で見ると平均正答率は、3年生の算数を除いて、全ての学年で昨年度より下がっている。
- ・児童の経年変化で見ると、通過率は学校全体では昨年度より下がっている。学年別に見ると、昨年度より上がっているのは6年生のみである。

本校の課題

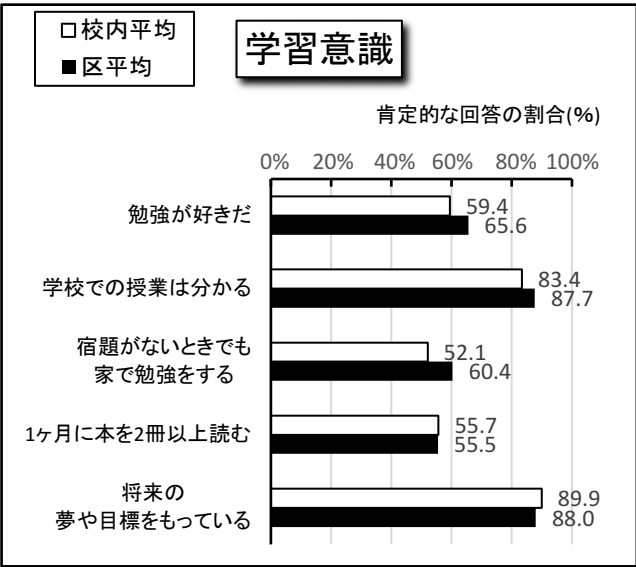
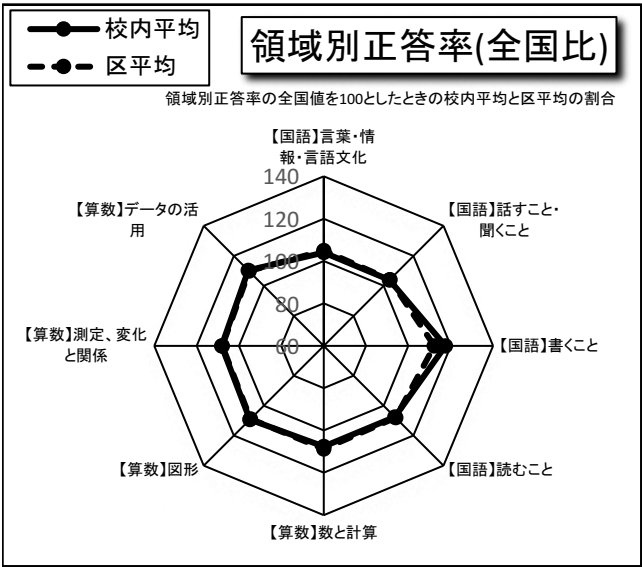
- ・基礎的な学習内容の定着と自ら学ぶ意欲の向上

学校による学力向上への主な取り組み

算数の基礎・基本の定着を軸に、教員の授業力向上を目指す。

- ・朝学習では、A I ドリルを活用し、自分で課題を決めて取り組む。
- ・ワークテストの間違い直しを徹底して行う。
- ・家庭学習で計算ドリルやA I ドリルでの復習に取り組む。
- ・O J Tや校内研究を通し、足立スタンダードを軸とした「児童が分かる授業」を全教員が確実に行うことができるようにする。
- ・学習では振り返りを必ず行う。児童が評価基準にそって、客観的に学びの行程や身に付いた力を振り返り、次時へのめあてをもって学習する習慣を身に付けることができるようにする。
- ・理解度の低い児童について、個別指導に力を入れたり家庭と連携したりして改善を図る。

舎人小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.5	81.4	78.7	83.6	85.5	88.0	90.1	93.0	79.8	67.9	83.1	77.5
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	84.4	81.2	89.3	97.6	87.1	87.1	88.0	80.7	77.3	68.2	81.0	73.8
平均正答率(R6)	73.7	75.4	85.7	88.5	85.2	89.7	75.9	82.6	65.5	65.3	64.8	61.3
平均正答率(R5)	79.2	76.1	91.5	93.6	86.9	87.6	77.2	75.2	73.5	65.9	72.2	65.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

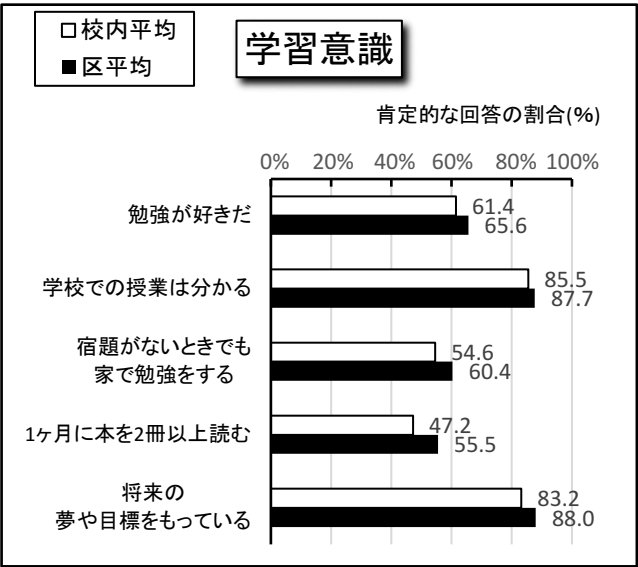
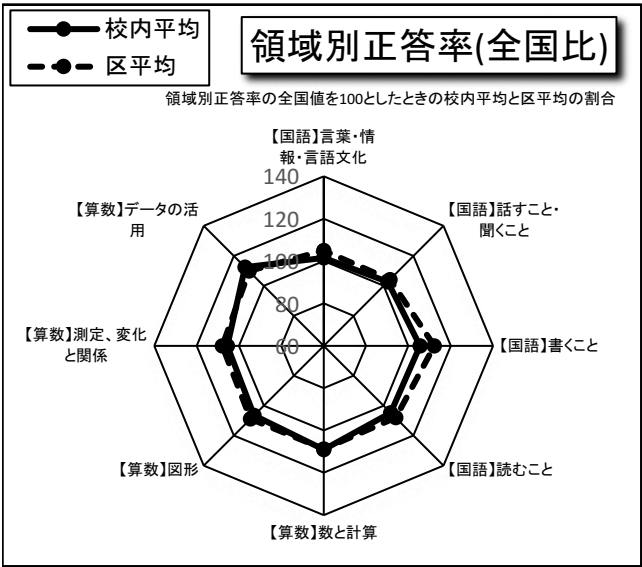
「学習定着度調査」分析結果

- ・国語：領域別正答率で見ると、「書くこと」は区平均を上回りそれ以外は区平均と同等である。通過率は昨年度よりもやや低下した。今後も個に応じた指導の充実が必要である。
- ・算数：領域別正答率で見ると、全ての領域で区平均と同等である。3・4・6年生では通過率が昨年度より上回っている。学校全体における昨年度との経年比較をすると、平均正答率は0.7ポイント下回っていたものの、通過率は0.2ポイント上回っている。今後も個々の児童の習熟度を踏まえた授業改善が必要である。
- ・学習意識調査：「勉強が好きだ」という項目では、59.4%の子どもが肯定的な回答をしている。区の平均からは6.2ポイント下回っている。学年が上がるにつれて勉強が好きという項目について下がる傾向がある。これは、学習の積み重ねができていないため今回の結果につながったと考えられる。基礎学力の定着につなげるために引き続き、子どもたちから「できた」「分かった」という言葉が出るような授業展開をしていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・「パワーアップタイム」：週2～3回、A Iドリル、国語読解プリント、音読を行うことで、正確に素早く計算する力や読む力・表現力の向上を図る。
- ・「M I M指導」：低学年では、年間を通してM I M指導を行い、読む力の向上を図る。
- ・「放課後学習教室」「サマースクール」：学習調査の結果を基に、つまずきの見られる子どもへの個別指導を行う。A Iドリルを活用し、学力の定着・向上に取り組む。
- ・「家庭学習チェックウィーク」：年2回、1週間家庭学習（10分間×学年+10分）の状況を調査し、家庭学習の定着と自ら学びに向かう力の育成を図る。
- ・「I C Tを活用した授業の充実」：子どもたちの考えを共有したりグループで課題を取り組んだりすることができるように「Google for Education」を活用した授業改善を図る。
- ・「読書活動の充実」：1年間で低学年は50冊、高学年は5000ページの読書目標を達成できるように、読書量調査を行い、子どもたちの「読む力」の育成を図る。

舎人第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	77.6	79.5	72.4	75.0	77.0	86.5	84.5	87.3	73.6	77.8	80.5	71.4
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	77.5	78.4	84.9	97.3	89.0	86.6	75.6	78.2	73.4	67.5	64.0	62.7
平均正答率(R6)	72.4	76.2	82.1	84.0	82.8	88.8	74.2	79.0	63.8	73.8	63.5	60.3
平均正答率(R5)	76.4	73.8	89.5	91.0	87.7	88.3	73.9	73.9	70.6	65.5	64.7	56.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学校全体の通過率は、昨年度より国語・算数共に若干上がった。特に、4～6年生の高学年での通過率が上がったことは、本校で学習を積み上げてきた児童が①落ち着いた学習環境の中で、②児童主体の学習を積み上げてきた結果が上の学年に現れてきたと分析できる。逆に、2年生と3年生が昨年度より通過率が下がってしまったのは、多様な児童の実態に対して個別最適な指導を徹底できなかったことが要因と考えられる。

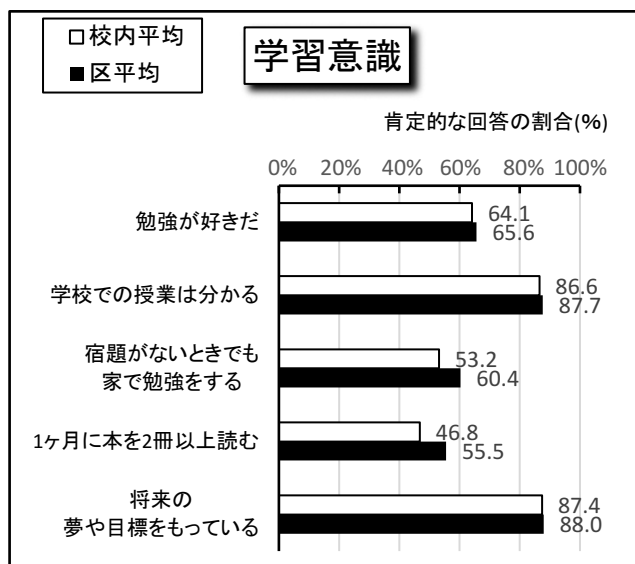
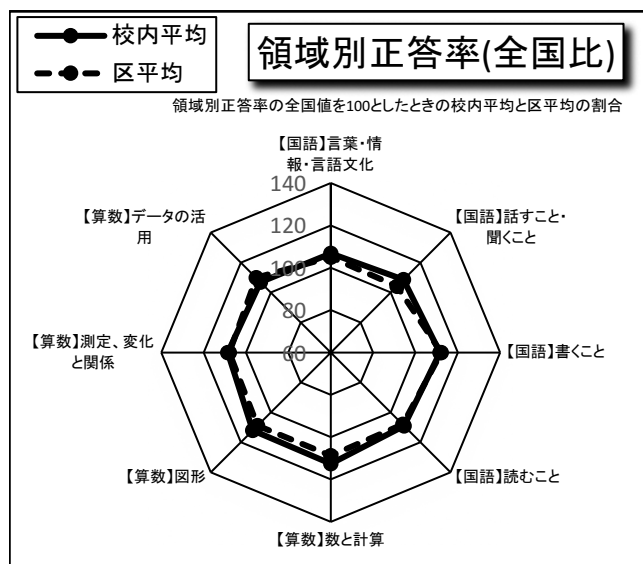
教科別に見てみると、2・3年生以外はその学年も算数が昨年度より通過率が上がっている。この要因としては、全教員が学年を見通して、毎時間に「基礎タイム」を取り入れ、基礎学力の定着に力を入れて指導してきた成果と考えられる。また、算数に比べて国語の通過率が各学年とも下がる中、6年生の国語は80.5%という高い通過率を出したところは注目していきたい。これは通常の国語の指導を大切にしてきたことと学級会においても一人ひとりが考えをもつことを大切にすることが要因と考えられる。

学習意識を昨年度と比較すると「勉強が好きだ」の肯定的な割合が60.1%から61.4%と1.3ポイント上がり、「宿題がないときでも家で勉強をする」子の割合が49.1%から54.6%と5.5ポイント上がった。「授業がわかる」子の割合が88.8%から85.5%へ3.3ポイント下がったことは、授業改善に向けて課題を分析し取り組むことが必要不可欠である。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・授業時間の中で最初の5分間を「基礎タイム」とし、前時までの既習事項についてできるようになっていることの確認タイムを設け、忘れてしまったことを何度も思い出す時間を設定する。
- ・週2回の朝学習(15分間)時に国語の漢字や言語事項と算数の計算の基礎定着を行う。
- ・授業の「たしかめ」として、できるようになったかの確認をA Iドリルを用いて行う。
- ・学校図書館を活用し、調べ学習を通して、新たな自分たちの考えを創り出す学習活動を行うことにより、思考力を高めていく。

中川小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.8	88.5	92.3	100.0	85.7	90.5	74.4	86.0	92.9	87.5	74.1	81.5
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	80.3	85.9	67.4	97.7	86.7	84.4	87.7	93.0	85.2	81.5	72.7	75.0
平均正答率(R6)	75.1	77.1	90.3	90.3	88.0	87.8	73.4	78.9	71.7	77.4	63.2	61.4
平均正答率(R5)	77.5	77.2	82.7	88.0	86.5	85.0	80.9	78.5	74.8	74.0	68.2	67.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

【国語】

学校全体の通過率が83.8%と3.5ポイント上がった。前年度は区平均に対して「書くこと」の項目が下回っていたが、今年度は区平均と差がなくなり学習定着度の改善が見られた。学年別で見ると3・5年生は前年度から大きく改善した。4・6年生では通過率が前年度を下回った。領域でみると4年生では「言葉・情報・言語文化」、6年生では「書くこと」への手だてが必要である。

【算数】

学校全体の通過率が88.5%と2.6ポイント上がった。各領域とも区平均と同程度という結果だった。2～5年生では区平均を上回った。6年生ではほぼ同程度であり、領域別で見ると「データの活用」について手だてが必要である。

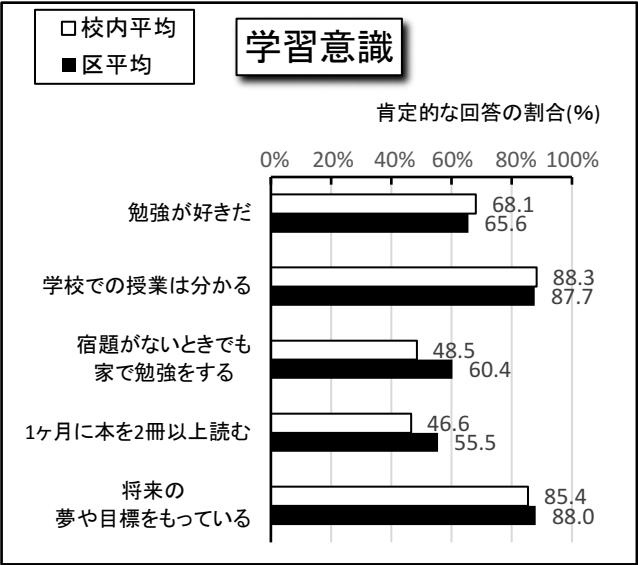
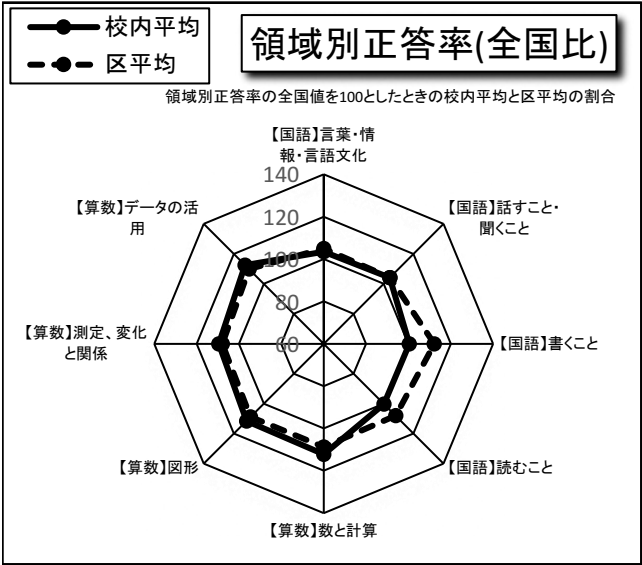
【意識調査】

「1ヶ月に本を2冊以上読む」という項目が今年度も区平均を下回っているので学校として取り組みを行う必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝学…読解・計算・漢字の基礎学習を行う。
- ・補充学習 (放課後・長期休業) …児童のつまずきにポイントを絞った個別指導を行う。
- ・漢字キング…前期は前学年、後期は現学年の漢字プリントで検定を行い合格者は表彰する。
- ・読書…読書時間の設置。図書委員会の児童や図書ボランティアによる読み聞かせを行う。
- ・マスプリント…15・30・50字のマスプリント作成。4教科で活用する。
- ・ニュース見つけた…要約する、自分の考えをまとめることをねらいとして、新聞の興味ある記事を選び、内容と自分の意見をまとめる (高学年)。
- ・自主学习…1年生後期からノート1ページを自分で内容を決め取り組む (週4回程度)。
- ・校内研究…「表現を高める指導法の工夫～書くことの学習を通して～」をテーマに年4回の研究授業を行い、表現力を育てるための授業展開や指導方法を研究する。
- ・共通理解…授業規律や板書などを足立スタンダードを基に共通理解する。

中川北小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	79.9	88.3	83.6	96.4	83.1	92.2	82.5	84.4	74.6	84.7	74.6	83.3
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	80.0	86.3	81.0	93.7	82.2	82.2	83.3	90.0	79.4	85.7	74.7	80.3
平均正答率(R6)	72.9	79.5	85.6	90.2	86.1	90.8	70.7	79.9	61.3	73.7	62.6	65.1
平均正答率(R5)	77.2	78.7	86.4	89.5	83.9	85.4	77.0	78.8	72.3	74.5	69.0	68.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

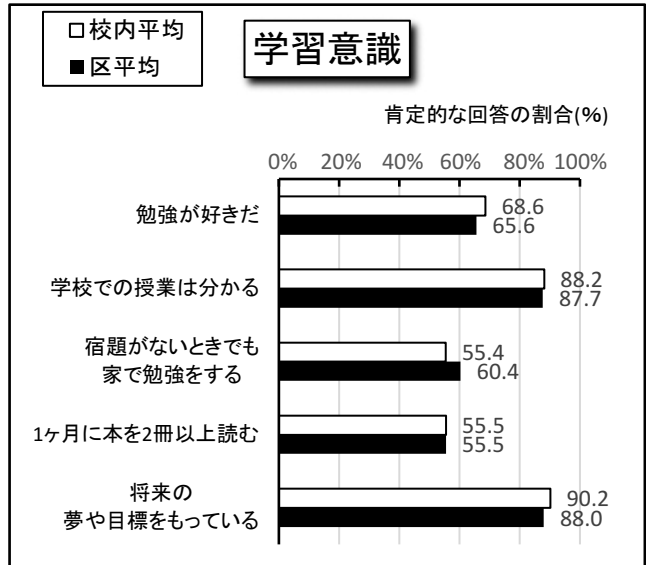
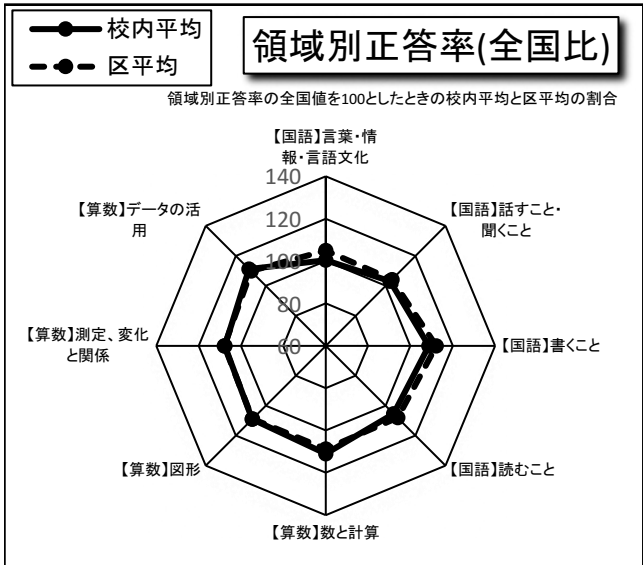
「学習定着度調査」分析結果

- 【国語】全学年で、書くことに課題がある。
- ・記述式の正答率は、C層D層は50%前後、5年生は、A層が35%であった。
 - ・漢字は、書き順と漢字を書く問題の誤答が多い。
 - ・低学年は説明的な文章、高学年は説明的な文章と文学的な文章の読み取りの正答率が低い。特にC層D層は、正答率が40%を下回っている学年が多い。
 - ・高学年になると時間内に問題を読めないためか、無回答が増える。
- 【算数】
- ・2年生は、時刻の読み方に課題がある。
 - ・2年生と3年生は、ほとんどの単元でA層B層C層の正答率が90%である。
 - ・3年生の箱のつくり、4年生の平面図形の作図、5年の折れ線グラフの見方と作図など、条件に合った作図に課題がある。
 - ・5年生と6年生は、B層の正答率が単元により不安定で30%～80%が多い。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・国語では、「書くこと」の取り組みにおいて、ワークシートやノート、作文など学年に応じて書くまでの手順を工夫する。校内研究のテーマとして授業研究を行い授業改善に活かす。
- ・漢字の書き順を正確に書くこと、各学年の漢字の習得を確実にを行うこと、各教科で既習の漢字を使用することを徹底する。
- ・算数では、基礎的な学習内容が定着している児童には、応用的な問題に取り組ませる。習熟度による教材開発を加配教員を中心に行う。
- ・昨年度は、四則計算の定着を重点的に行い、定着が見られた。今年度は、図形やグラフの定義や作図を重点的に行い、三角定規やコンパス、分度器が有効に使用できるようにする。
- ・学習意識調査では、家庭学習に取り組んでいない児童がいるので、学年によって自主学習を取り入れるなど、家庭学習の内容を見直す。タブレット端末による学習が定着しているので各教科や総合的な学習の時間では、進んで調べる習慣を身につける。
- ・毎週の読書の時間と年2回の読書月間を通して、読書量を増やし、読み取る力を養う。

中川東小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	77.9	86.0	69.6	87.0	87.5	100.0	70.8	93.8	85.4	82.9	78.7	68.1
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	83.3	89.3	82.6	95.7	87.2	91.5	93.2	100.0	76.1	76.1	78.4	84.3
平均正答率(R6)	71.9	77.1	81.0	85.4	87.7	93.4	66.8	80.2	70.0	78.1	60.0	55.6
平均正答率(R5)	77.8	78.7	88.1	91.0	86.4	85.8	82.4	83.5	66.7	65.9	70.5	71.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- 【意識調査】「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」「将来の夢や目標」は区平均を上回り、「学校での授業は分かる」「将来の夢や目標」については約9割と高いことから、学校生活が充実していることが窺える。本校の課題は自主学習と読書量の向上であると考え。
- 【国語】2・4・6年生が通過率8割を超えられておらず、2年生は正答率は81%だが通過率が69.6%と低い。1問1問丁寧に確実に取り組む力を育てることが課題と考える。領域別正答率は全て区平均と同等か若干下回っている。言葉の領域についてはA Iドリルを活用し、書く・読むにつなげていく。
- 【算数】学校全体の通過率は昨年度より3.3ポイント減だが86%で3、4年生は9割以上と高い。また、平均正答率も昨年度と同等である。校内研究で算数に取り組んだ成果が表れていると考える。今後は、平均正答率8割を超えられるよう基礎学習の定着を継続して図っていく。
- 【全体】国語の通過率、平均正答率が算数より低く、学年ごとの差も大きいことが課題である。今後は国語に重点を置き、組織的な取り組みをしていくことが急務である。

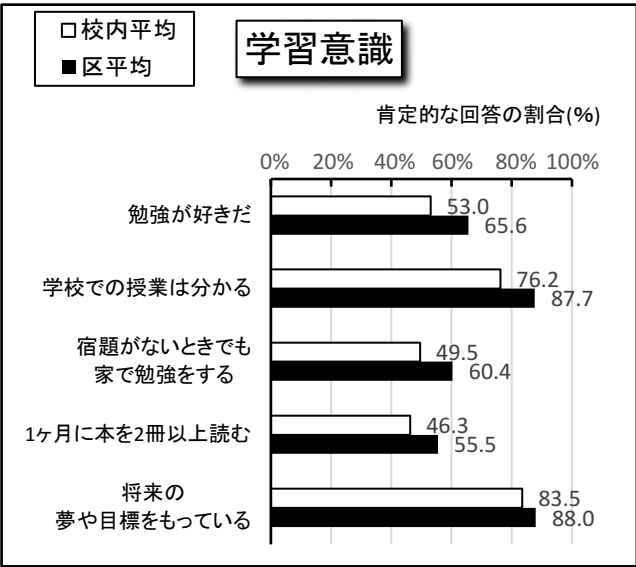
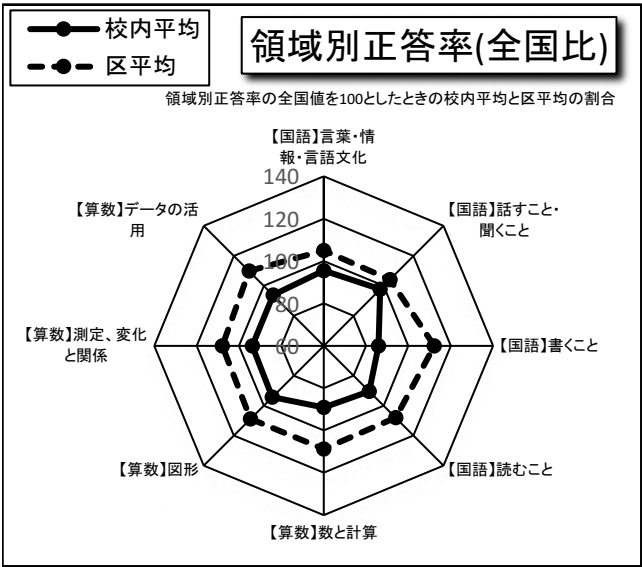
学校による学力向上への主な取り組み

【基礎学力定着に向けた学力向上施策】

学年、学級間の差がなくなるよう学校として組織的な指導に取り組んでいく。

- ①パワーアップタイム(国・算・読) 週3日 朝 8:20～8:35 15分間
- ②花丸教室(放課後補習教室) 週2日 放課後 15:15～15:45 30分間
→ 区学力調査や単元テストのポートフォリオを活用し、未習熟の児童を抽出して実施
- ③がんばろう家庭学習週間(家庭との連携) 毎月1回、宿題+自主学習の推進
- ④読書月間 年3回(6月・10月・2月)
- ⑤ICT機器を活用したオンライン学習
→ A Iドリル・デジタルMIM・キーボー島などの学習ツールを活用
- ⑥サマースクール(夏季補習教室) 土日を除く10日間 各学年60分
→ 区学力調査で目標値に達しなかった児童を対象に、全教員体制で実施
- ⑦「図書館を使った調べる学習コンクール」への参加推奨(3～6年生)

中島根小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	68.1	57.1	61.0	70.7	71.4	62.8	74.4	65.1	64.3	41.9	68.9	49.2
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	65.5	58.6	60.5	88.4	74.4	69.8	74.4	60.0	72.1	49.2	49.2	37.3
平均正答率(R6)	65.3	62.6	79.6	83.3	77.9	78.1	67.3	66.9	55.5	53.3	56.6	46.0
平均正答率(R5)	68.9	61.3	79.1	84.4	82.4	78.3	70.9	63.4	66.2	56.0	57.0	42.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語では、学校全体の通過率が2.6ポイント増加した。しかし平均正答率が3.6ポイント減少した。特に5年生は、令和5年度の正答率と比べ、約11ポイント減少して、前学年までの取り組み方に課題が見られる。領域別正答率では、全ての領域で区平均を下回り、特に国語の「書くこと」の正答率が区平均の約8割ほどに留まっている。

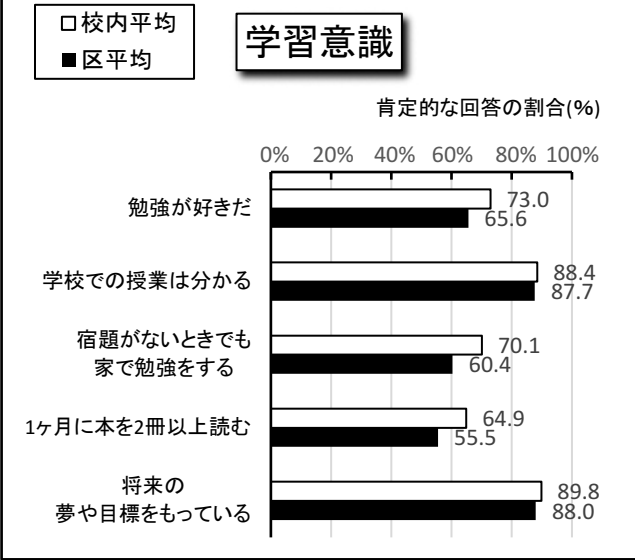
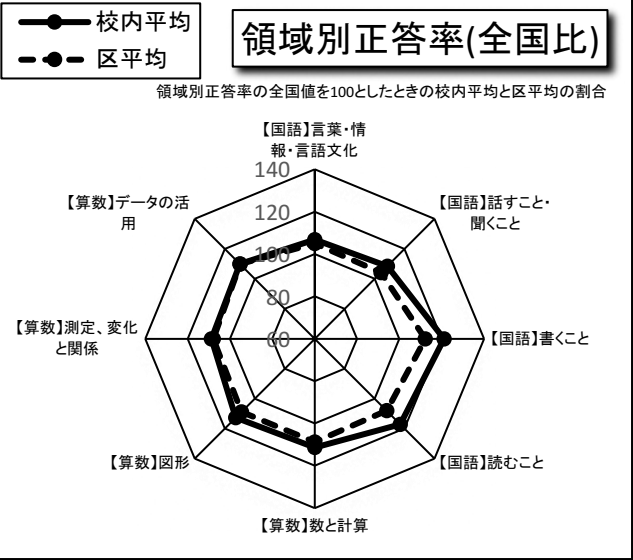
算数では、学校全体の通過率が1.5ポイント減少した。しかし平均正答率は1.3ポイント微増した。5年生は、令和5年度の正答率と比べ、2.7ポイント減少しており、前学年までの取り組み方に課題が見られる。領域別正答率では、全ての領域で区平均を下回っており、特に「数と計算」の正答率が区平均の約8割に留まっている。

学習意識に関しては、全ての項目で区平均を下回っている。「勉強が好きだ」の項目では、12.6ポイント下回っており、学習自体に苦手意識をもつ児童が多いことがわかる。また「宿題がないときでも家で勉強をする」項目も10.9ポイント下回っており、自ら進んで学習しようとする意識が低いことがわかる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 授業力向上…年間を通して、全学級担任等を対象にした教科指導専門員による授業観察を行い、国語と算数の授業改善を行っている。また、特に算数授業研修会を設定し、年間4回実施することで、指導技術の向上を図っている。また、小中連携研修により、低・中・高学年・専科等において系統立った指導法の追究を行うことを通じて、授業力の向上を図っている。
- 朝学習の充実…朝の20分間（パワーアップタイム）に①区学力調査に向けての練習問題②既習学習の問題などの取組を主として実施している。
- 補習教室の充実…放課後補習教室（ハッピータイム）では、区学力調査や単元ごとのワークテストの結果を基に抽出した児童に補習学習を行っている。指導時間を30分間とし、全教員での指導体制を整え、未定着の学習事項を中心に学習に取り組んでいる。長期休業中の補習教室でも抽出児童を対象に基礎的な学力の定着を目標に45分×2回の補習を行い、学力の向上を図っている。

長門小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	89.4	86.2	90.3	93.5	92.5	92.5	85.4	100.0	89.2	67.6	89.7	76.9
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	85.6	87.6	78.6	88.1	95.0	100.0	84.2	81.6	78.0	73.2	91.7	93.8
平均正答率(R6)	78.0	78.0	89.3	90.6	88.5	90.7	75.0	83.8	72.5	71.3	69.8	59.8
平均正答率(R5)	82.1	79.9	88.2	87.3	93.3	91.9	77.7	78.0	75.5	69.6	78.6	76.6

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]
◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の平均正答率は78.0%で、前年度よりも4.1ポイント下がっている。通過率は89.4%で前年度比+3.8ポイントである。全ての学年が通過率が80%を超えており、2・3年生は90%を超えている。しかし、高学年になればなるほど、上位層と下位層の差が広がり、通過率は高まっても平均点は下がる傾向にある。

■全学年で「知識技能」の定着を図り、「話すこと・聞くこと」の領域の学習の充実を図る。

【算数】学校全体の通過率は86.2%であり。前年度よりも－1.4ポイントである。現4年生の通過率は昨年度に引き続き100%で全員通過しているが、現5年生は前年度比－14.0ポイントで前年度よりも大幅に下がっていることから、中学年での指導領域について指導の見直し、復習などが必要である。

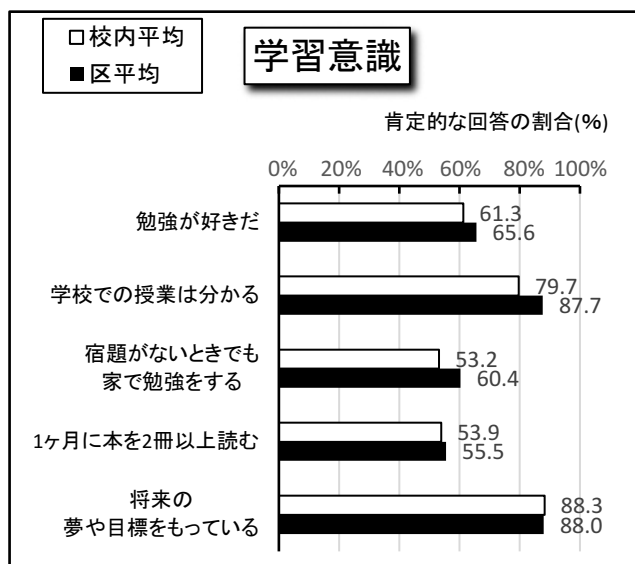
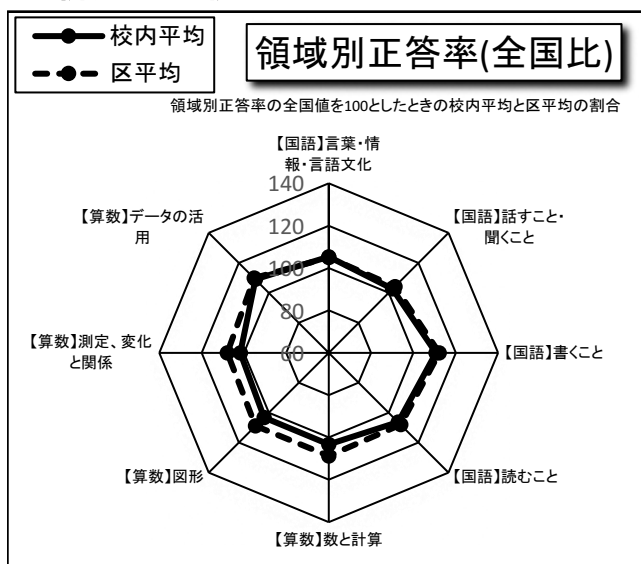
■学校全体として、どの領域も平均正答率が下がっていることから、基礎・基本の定着度合いを調査し、指導法改善に繋げていく必要がある。

【意識調査】「学校での授業は分かる」の肯定的回答が88.4%であった。今後も「分かる授業」を目指して日々の授業改善に取り組んでいく。また「宿題がないときでも家で勉強をする」の項目は前年度より6.1ポイント上がっている。家庭学習の充実を図るための指導の成果が少しずつ出てきていると考える。

学校による学力向上への主な取り組み

- ◇授業力向上：教科指導専門員の指導、校内OJTを通して教員一人ひとりの授業力向上に努める。また、基礎・基本の定着と読解力の向上を図るため、全校で授業改善に取り組む。
- ◇基礎・基本の定着と個別指導の充実：MIMの結果、学力調査の結果分析により児童の実態を的確に把握し、意図的計画的に補充学習を実施する。また、そだち指導とも連携を図り、中学年でのつまずきの解消ができるよう日々の授業改善に努める。AIDリルにおいて児童の実態に合わせたワークブックを作成し、課題に取り組ませることで効果的な支援を行う。
- ◇読書指導の充実：読書パスポートを作成し読書への意欲を高めるとともに、朝読書の時間を設定し、月に1度は全教職員の読み聞かせ指導を行い読書に親しませ、語彙力、読解力を高めていく。

西新井小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.9	76.1	77.4	83.5	82.4	83.8	82.7	78.3	81.6	72.4	80.7	62.7
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	83.0	81.1	86.3	92.5	83.8	82.5	88.5	82.1	84.3	69.9	74.2	79.4
平均正答率(R6)	74.2	73.2	85.6	86.1	85.1	87.2	72.2	74.0	67.1	69.1	65.4	55.4
平均正答率(R5)	78.3	75.2	88.9	89.1	84.9	82.8	78.0	73.9	75.5	70.3	70.2	66.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

領域別正答率では、「言葉・情報・言語文化」「話すこと・聞くこと」の領域で、区平均値と同等である。また「書くこと」「読むこと」も区平均値とほぼ変わらない。国語科の通過率も80%を超えており、本校が計画した目標に到達している。一方で、算数科では、「データの活用」の領域の正答率が区の平均値とほぼ同等であるが、その他の領域では区の平均値を下回っている。学校全体の通過率も目標とする80%から3.9ポイント離れている。算数科において、基礎的・基本的な内容の定着をさらに徹底することが必要である。特に「数と計算」「図形」の領域における知識・技能の定着が課題である。

意識調査では、「将来の夢や目標をもっている」の質問において、区平均を上回った。本校の教育活動を通して、児童が前向きに学ぼうとしている。一方で「学校での授業は分かる」「宿題がないときでも家で勉強をする」では、区平均を大きく下回った。教員の授業力向上と、家庭と連携しながら児童の学習習慣を確立させていくことが課題である。

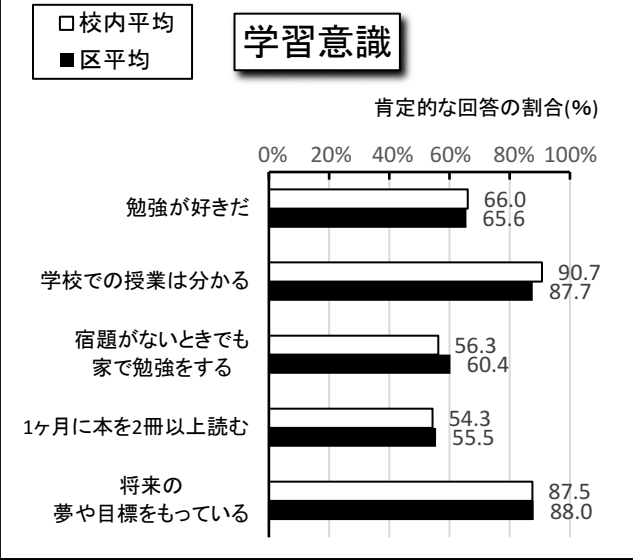
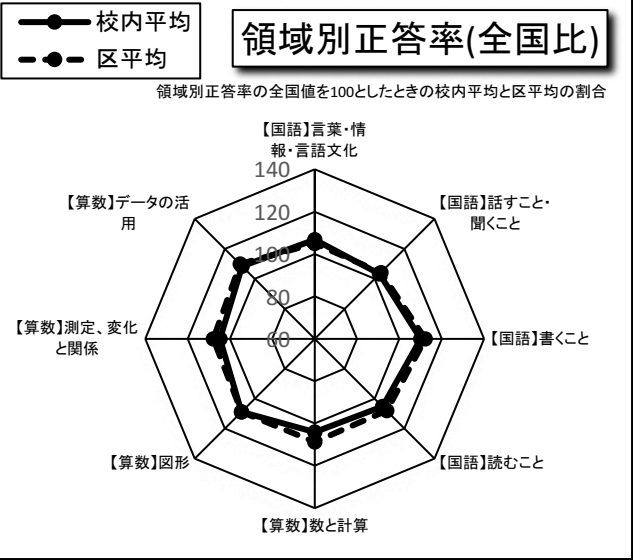
学校による学力向上への主な取り組み

算数科では、学習内容の未定着児童を生まないように、単元テストのポートフォリオに基づいて、定着が十分でない児童を対象に放課後学習教室を実施する。また、朝学習を中心にA Iドリルの活用を強化し、「数と計算」領域を中心に反復学習を行い、確実な定着を図る。「図形」や「測定」領域については、実体験を伴う学習が不可欠である。作図や測定の方法を学ぶ時間を授業の中で十分に確保し、教師が児童の学習を適切に把握、支援する。

国語科では、「読むこと」領域の向上を目標に読書活動の充実を図る。また、主に高学年においてN I E (新聞活用学習)を充実させ、自分の考えを表現する活動に継続して取り組む。

本校では、高学年の教科担任制を継続するとともに、今年度からはI C Tとクラウド環境を活用して「児童が主体的に学ぶ時間の確保と教師による個別最適な支援」をテーマに授業方法の変更に取り組んでいる。児童が自らの力で知識・技能を獲得し、思考力・判断力・表現力を働かせて、自力で問題解決を図るという新しい学習スタイルを確立させ、学力向上と生涯にわたって学び続けようとする主体性の育成に重点を置いている。

西新井第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	81.9	78.1	75.0	77.1	87.0	81.5	83.3	89.6	84.0	84.0	80.0	61.7
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	85.3	87.9	76.8	92.9	89.4	91.5	91.8	93.9	83.1	72.9	87.1	90.3
平均正答率(R6)	74.8	73.8	82.0	83.1	85.3	87.6	73.5	77.5	72.7	75.9	65.4	53.7
平均正答率(R5)	79.8	78.1	84.8	88.3	90.5	88.0	80.1	79.9	74.6	67.4	74.3	73.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%))の平均値

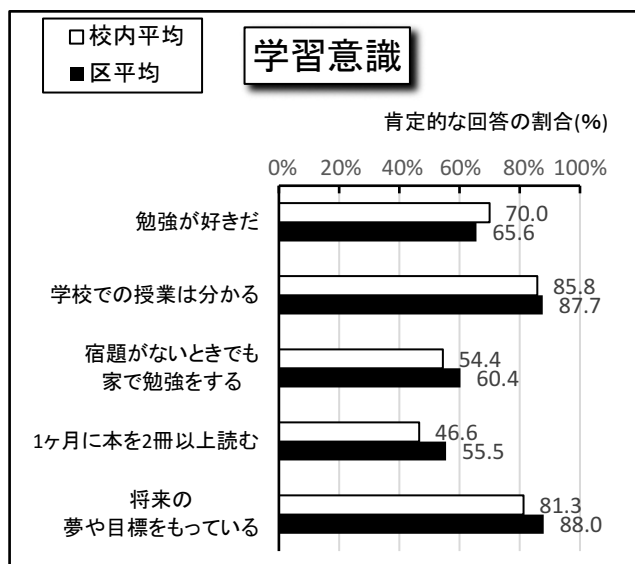
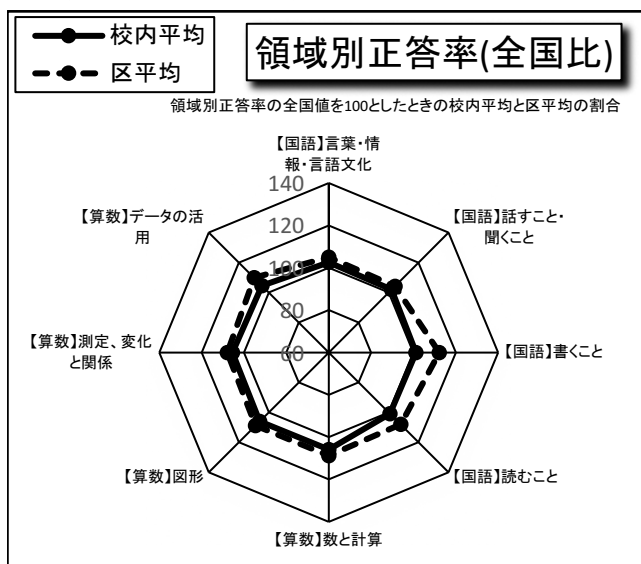
「学習定着度調査」分析結果

- 国語：昨年度と比較すると、平均正答率は5ポイント、通過率は3.4ポイント下回った。領域別正答率で見ると、区平均とほぼ同水準であるが、全体的に「書くこと」「読むこと」に課題が見られる。メモや表など様々な形式で書かれた文章から必要な情報を読み取る力を伸ばすために様々なジャンルの読書を推進している。また、読んだり聞いたりしたことや自分の考えを短くまとめて人に伝える活動を全教科的に行い、学力向上をめざしている。
- 算数：昨年度と比較すると平均正答率は4.3ポイント、通過率は9.8ポイント下回った。中でも領域「数と計算」「測定、変化と関係」は、前年度より課題として挙げられており、継続して個に応じた指導が必要である。基礎学力の定着にむけて繰り返し練習問題に取り組み、思考力を伸ばすために多くの応用問題に触れさせるなど、授業を通して学力を高められるよう努める。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習の取り組み
 - ・毎週火曜日「A I ドリルタイム」とし、前学年に学習した算数の内容を行う。
 - ・毎週水曜日は「西一タイム」とし、当該学年の国語・算数の復習を継続的に行う。
 - ・毎週金曜日は「読書タイム」とし、読書通帳を活用する。(月6冊、年間80冊を目標)
- 1年生はM I Mを、2年生は音読、3年生から6年生は辞書の活用を通して語彙の習得をめざしている。
- 学力調査対策として、12月、2月の年2回、学力予備調査を行い、児童の定着度を調べ、未定着内容を確認し、次なる課題解決に向けて取り組む。
- 前期後期に分けて漢字のベーシックテストを行い、定着度を確かめる。新出漢字の正答率80%をめざす。
- 問題解決型授業を推進し、知識を習得し、課題を解決する力を育成する。

西新井第二小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.4	81.3	80.0	90.0	86.0	93.0	76.9	76.9	71.7	66.0	85.2	82.0
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.5	82.3	81.0	94.8	92.5	77.5	73.6	73.6	81.7	81.7	81.7	81.7
平均正答率(R6)	71.6	73.4	84.4	88.2	88.0	90.4	65.0	70.9	58.3	65.7	68.5	62.6
平均正答率(R5)	77.7	75.8	88.6	91.6	85.5	83.5	70.4	70.1	76.5	70.1	72.3	69.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

国語については、学校全体の平均正答率は71.6%で、前年度より－6.1ポイントである。通過率に関しても前年度より－1.1ポイントである。各学年低下傾向にあるが、特に5年生の通過率が大きく低下している。また、領域別正答率では、「書くこと」において区平均を大きく下回っている。全学級が足立スタンダードに則った授業を進め、読み取ったこと、わかったことを書いて表現する活動を充実させる。

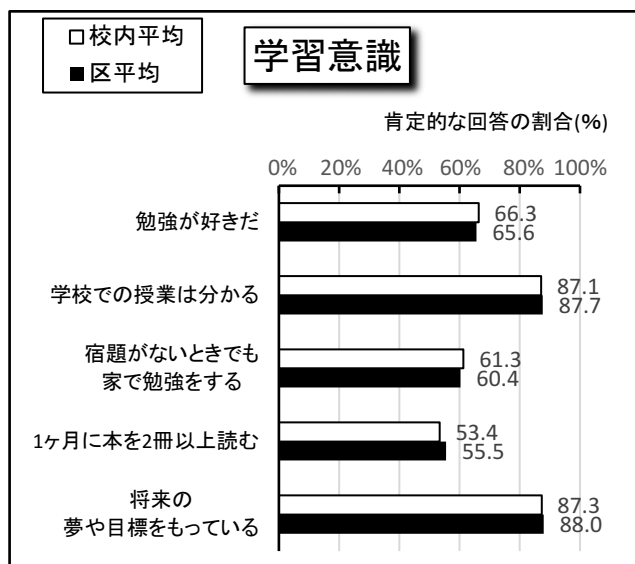
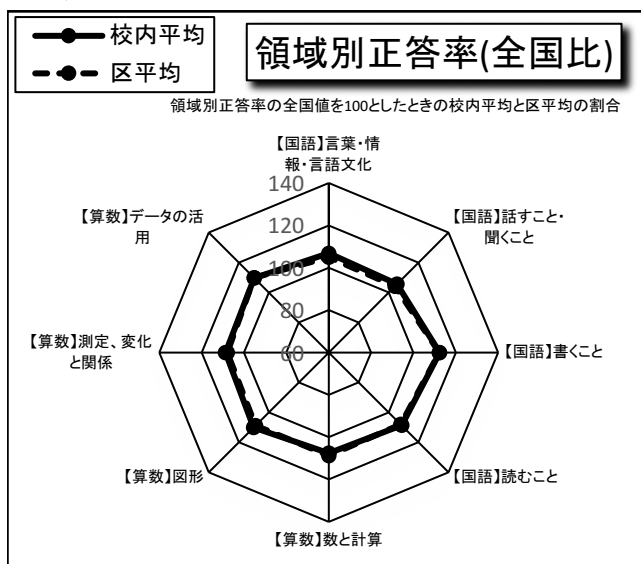
算数については、学校全体の平均正答率は73.4%で、前年度より－2.4ポイントである。通過率に関しても前年度より－1ポイントである。全体的な底上げが急務であるが、特に「数と計算」「図形」領域の向上を図る必要がある。

意識調査については、「勉強が好きだ」に関しては区平均を超えているが、その他の項目で区平均を下回っている。「学校での授業は分かる」は85.8%であるが学習定着度調査の結果を見ると定着には至っていない。学習の振り返りを大切に、学習内容の確かな定着を図っていく。また、図書館利活用推進校として読書活動に力を注ぎ、読書量が増えるような取り組みを行う。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・ 足立スタンダードを基に授業展開をし、問題解決型の学習を実践する。
- ・ 朝学習、放課後学習(国語・算数)の充実 ※東京ベーシック週間の充実・改善
- ・ 図書館利活用(年3回読書月間の実施、委員会や図書ボランティアの読み聞かせ、調べる学習コンクールの参加「調べる・読み取る・考える学習の展開」)
- ・ 校内研究「進んで自分の考えを表現する児童の育成」(算数科)をテーマに年間3本の研究授業を行い、「振り返り」を重点に置いた授業展開や指導方法を研究する。
- ・ ICTを活用した効果的な授業の充実(AIドリル)
- ・ 開かれた学校づくり協議会やPTAとの連携による漢字検定の取り組み
- ・ キャリア教育の充実を図り、将来への夢や目標を育むとともに、体験的な活動(〇〇教室)の充実を図る。

西伊興小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	85.8	82.3	79.8	84.5	90.3	93.5	85.9	83.8	86.7	73.3	85.9	74.1
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	90.0	90.7	89.7	96.9	91.3	93.3	91.8	89.0	86.0	78.5	92.3	96.9
平均正答率(R6)	76.2	77.3	86.8	87.7	88.4	91.1	72.8	77.3	68.8	71.8	66.7	61.5
平均正答率(R5)	82.9	81.4	91.2	92.2	89.2	87.1	81.2	78.6	76.1	72.1	76.0	76.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

目標にしていた通過率80%以上を達成できた。一方、通過率は、昨年度から国語4.2、算数8.4ポイント減少、平均正答率も、国語6.7、算数4.1ポイント減少している。結果、昨年度よりも下位層の正答率が下がっている。上位層も、活用の問題で正答率が低下している。特に、B層においては、基礎的な学力の定着が見られるが、多くの文章の問題で、誤答や無回答が見られる。

別の課題として、低学年の学習に対する意欲が低い。調査結果から、「学校での授業は分かる」は、区の平均と同等である。一方で、「1ヶ月に本を2冊以上読む」の数値が区の平均よりも下回っている。その傾向が顕著に見られるのが低学年の意識調査の結果である。特に低学年の場合は、学習習慣を身につける視点から家庭の協力が必要不可欠である。授業改善を図るだけでなく、家庭にも協力を仰ぎ、宿題ではなく家庭学習として実施していく。

学校による学力向上への主な取り組み

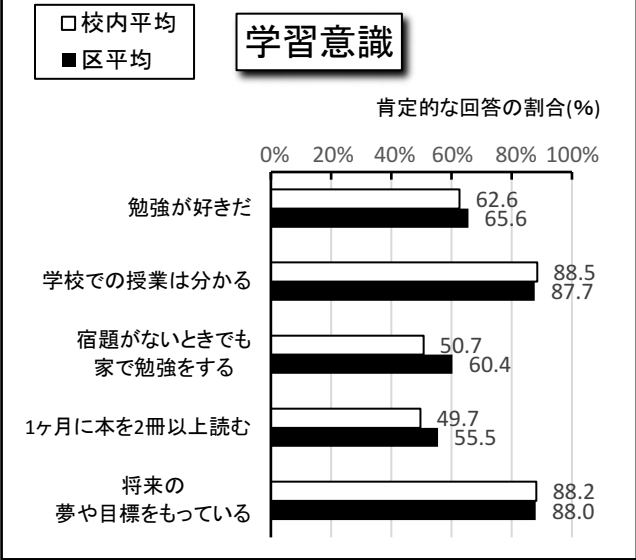
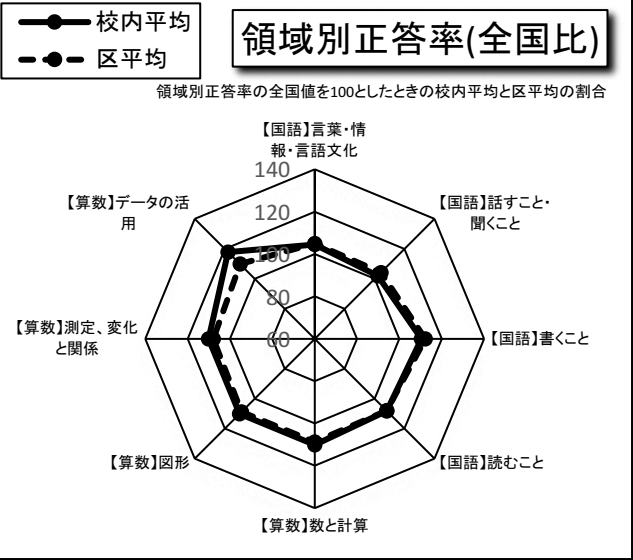
朝自習や家庭学習の充実を図り、ICTの活用を行う。基礎的・基本的知識習得のためにAIドリル、デジタルMIMを活用し、全学年で朝自習や家庭学習に積極的に取り入れる。

主体的な学びに向けて児童に「委ねる」時間を設定する。体育健康教育推進校として体育科で、1時間の授業で、見通しやふりかえりを重視し、単元の導入は、「何ができるようになるか」、「どのように学ぶのか」を明確にした授業に取り組む。この学びの方法をもとに各教科の特性に応じた見方・考え方を授業で働かせる。

今年度は、児童に課題や資料を選択させる「自由進度学習」や「課題選択学習」などの児童に委ねる時間の充実を図り、必要な情報や課題を選択し自力解決する力を育成していく。

低学年段階から、自分や他者との関わりから、学びへのメタ認知を行う。学習の中で、友達と話し合う場面や学級全体で意見を交換する時間を意図的に取り入れる。自分の考えをもつだけでなく、他者との関わりを通じて、自分の考えを再思考、再構成する。「自分がどのようなことを学んだのか」、「友達との話し合いで何がわかったのか」など自分の学びをメタ認知できるようなカリキュラム・マネジメントを行い、各教科・領域で学びへの自己調整を行う。このような取り組みを実施することで、上記の課題を解消し、学力向上をめざしていく。

西保木間小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.1	82.3	86.4	100.0	67.9	71.4	84.6	96.2	94.1	70.6	87.1	74.2
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	85.6	85.5	80.8	80.8	96.6	100.0	89.5	89.5	81.8	68.8	80.0	92.0
平均正答率(R6)	74.0	77.9	86.8	90.2	81.8	86.3	76.3	83.0	68.4	72.5	63.0	63.8
平均正答率(R5)	78.2	76.7	88.7	86.7	90.8	89.4	78.7	72.2	68.3	67.7	70.2	70.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語について】本年度の通過率は83.1%で、前年度と比較すると2.5ポイント下回った。経年変化では、現5年生は+4.6ポイント、現6年生は+5.3ポイントと上昇した。課題である「書くこと」「読むこと」については、説明的文章の読み方、自分の考えの理由や根拠を記述する機会を増やすなど指導の工夫が成果をあげ、ほぼ区平均と同じである。

【算数について】本年度の通過率は82.3%で、前年度と比較すると3.2ポイント下回った。領域別でみると、課題であった「図形」は、工夫や繰り返し学習・課題型学習の指導の工夫が成果をあげ、前年から引き続き区平均を上回った。「データの活用」は区平均を大きく上回った。

【学習意識について】本年度は2つの項目が区平均を上回った。項目ごとに前年度と比較すると「授業は分かる」は+4.1ポイントであったが、他の4項目はいずれも2から8ポイントの範囲で肯定的な回答が減少した。今後も足立スタンダードを軸にした、一人ひとりの児童がわかる・できる授業を展開するように努めていくと共に、児童が自信をもって意欲的に生活が送れるよう指導・支援していく。また、読書環境を整え、児童の読書に対する意欲を高めていく。

学校による学力向上への主な取り組み

学力推進委員会を中心に、指導改善を組織的に行う。また、家庭と連携し児童に家庭学習の習慣と自主的に学習に取り組む力をつける。

【日々の授業改善】①足立スタンダードによる授業の実施②学習規律の定着③ICTを効果的に活用した授業の実施④習熟度別指導の充実⑤ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくり⑥A I ドリルの積極的な活用⑦算数「用語カード」の活用⑧管理職・教科指導専門員による授業観察と指導・助言⑨月1回の西保O J T研修会の実施⑩相互授業参観

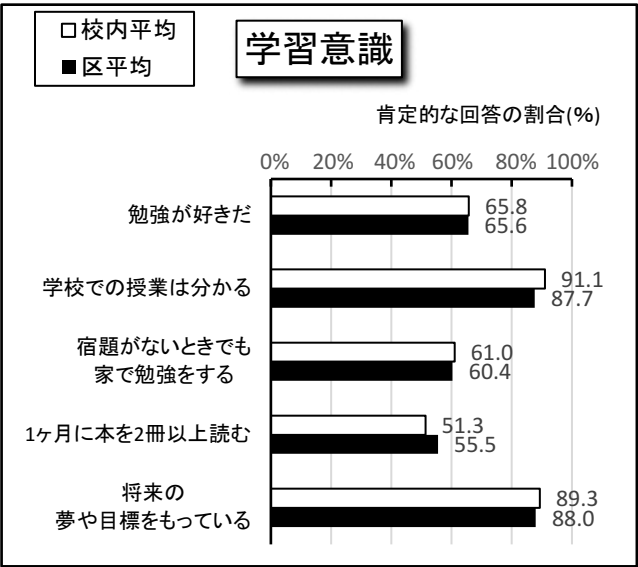
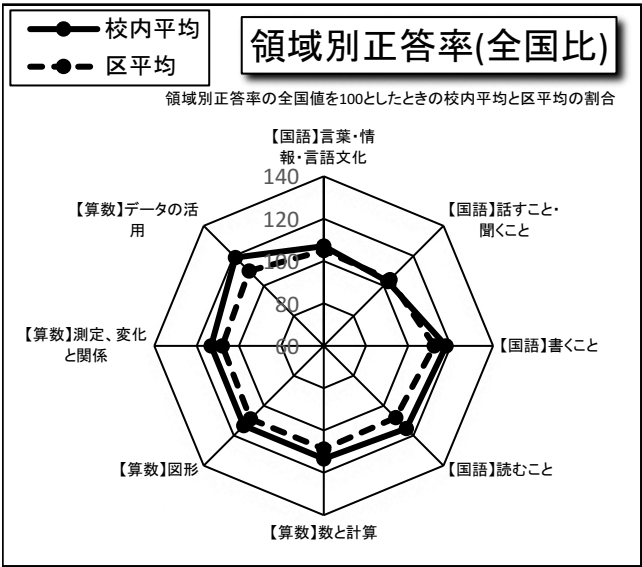
【補充学習】①月1回補充学習の実施(学年全体のつまづきを解消する時間)②週1回程度の放課後補充教室の実施(副担任も指導)③夏季休業中のサマースクールの実施(10日間)

【朝学習】①週3回の朝学習(A I ドリル2回・読むこと1回)

【家庭学習の充実】①年間3回の家庭学習週間②A I ドリルの活用

【小中連携】研究主題「自分の考えをもち、表現する力の育成」①年2回の研究授業の実施(小・中学校各1回)②分科会による指導案作成と授業分析

花畑小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	87.9	90.1	100.0	91.9	83.3	80.0	79.5	90.9	89.1	93.5	90.2	96.1
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	92.0	90.8	92.3	98.1	86.4	81.8	100.0	97.8	94.4	92.6	87.3	83.6
平均正答率(R6)	76.2	80.6	92.2	89.6	85.5	87.2	72.7	80.0	68.8	78.2	68.1	72.1
平均正答率(R5)	80.9	80.3	89.9	90.5	85.5	84.5	82.9	83.2	78.4	76.3	72.6	71.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【通過率および平均正答率】国語は、学校全体で前年度比、通過率－4.1ポイント、平均正答率－4.7ポイントである。3年生以上の通過率について経年比較すると全学年で前年度を下回っている。算数は、通過率－0.7ポイント、平均正答率＋0.3ポイントと同程度である。通過率は90%程度まで達しているが平均正答率は低い。目標値周辺の正答率の児童が多い。目標値に到達しなかった児童だけでなく、目標値周辺層の児童への指導も充実させる。

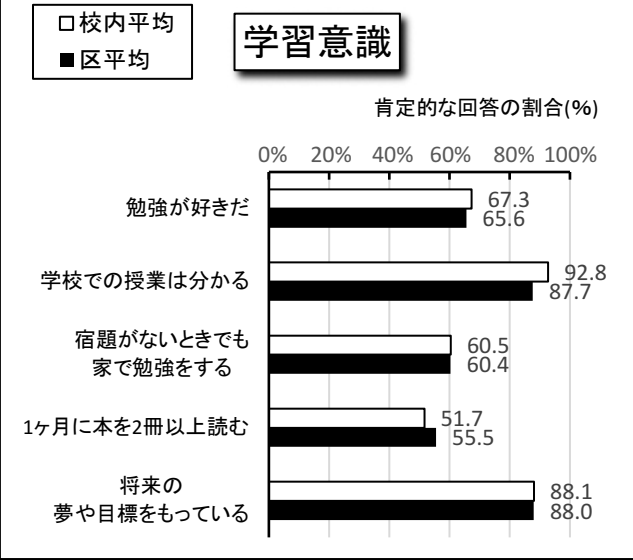
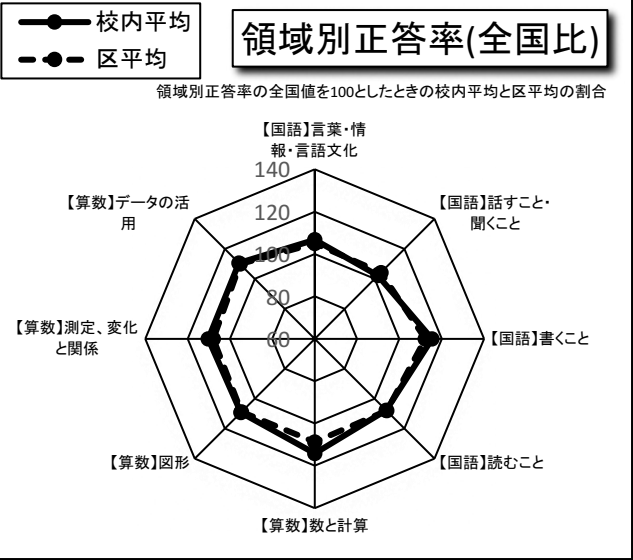
【領域別正答率】国語「話すこと・聞くこと」「言葉・情報・言語文化」の正答率が、区平均同等に低い。話し合い活動や協働的な活動を積極的に行い、自分の考えを分かりやすく伝える力や、友だちの考えや気持ちを理解する力を高めていく。また、漢字の反復学習や国語辞典・漢字辞典の活用、慣用句やことわざに親しむ機会を多く設定し、児童の語彙や知識を増やす。

【学習意識】「1ヶ月に本を2冊以上読む」以外の項目で区平均を上回っているが、「宿題がないときでも家で勉強する」は前年度と比べて－10.5ポイントと大きく低下している。読書や家庭学習の習慣が定着するよう、授業における学校図書館の活用強化や、児童が自分に合った学び方を見つけ実践する力の育成に取り組む。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習（15分間）…水・金曜日は、プリントやA Iドリルを用いてつまずきの多い内容についての通り学習や反復学習、音読、マス計算などを行う。月曜日は読書に取り組む。
- 補充学習（放課後・長期休業）…学習内容の定着が不十分な児童を対象に、A Iドリルなどを活用して個別指導を行い、つまずきの早期解消を図る。
- 読書活動…年間目標冊数やページ数を低・高学年で設定し、児童自ら記録する。6、11月を読書月間とし、学校図書館ボランティアなどと連携して推進活動を行う。
- 学びタイム…1～3年生は週1時間、4～6年生は月2時間、自身の課題克服のための学習や調べ学習などに一人ひとりが取り組む。
- 「ニュース見つけた」…4年生以上の児童が新聞から興味のある社会時事を見付け、記事を要約し、自分の意見・考えをまとめ、朝の会などで発表する。
- 家庭学習…1～3年生は30分、4～6年生は「10分×学年」の学習に毎日取り組む。

花畑第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.4	88.7	82.4	96.1	86.7	98.3	76.5	80.0	85.7	84.5	90.0	88.6
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	87.4	89.7	89.7	98.3	86.5	90.5	85.9	87.2	85.9	84.7	89.8	89.8
平均正答率(R6)	74.5	78.2	86.7	90.3	88.1	92.4	67.8	76.2	70.1	75.1	68.1	66.7
平均正答率(R5)	80.4	79.6	91.0	92.1	87.6	87.2	79.8	77.7	74.5	73.0	72.7	72.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]
◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】全体の平均正答率は、74.5%で、昨年度比で5.9ポイント下回り、区の平均値よりも0.1ポイント下回った。また、通過率も昨年度よりも3.0ポイント下回ったものの区の通過率より1.6ポイント上回った。言葉・情報・言語文化の領域において、どの学年も未定着の児童が一定数見られる。読み取ったことを基に考えを記述する問題では、問題に対して正対することに課題があり、誤答が目立った。パワーアップタイムなどで、何を問われているのかを考えるキーワードなどを押さえ、語彙力や読解力の向上に一層努めていく。

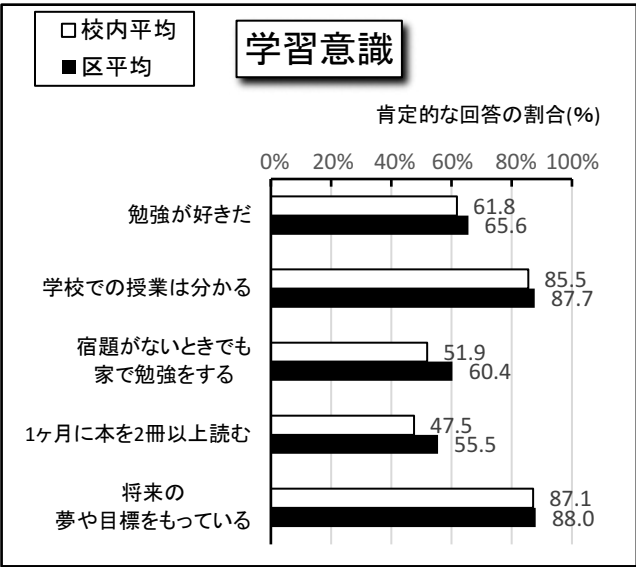
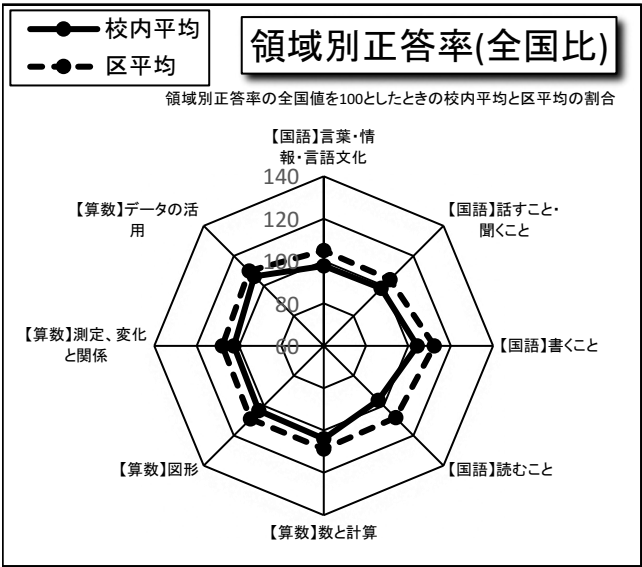
【算数】全体の平均正答率は、78.2%で、昨年度比1.4ポイント下回ったが、区の平均値よりも1.6ポイント上回った。また、通過率は昨年度より1.0ポイント下回ったが、区の通過率を6.3ポイント上回る結果となった。数と計算の領域の繰り返しや見直しの徹底を行った成果が一方で、D層児童への補充学習が充分でなかったことが数値に表れていると考える。

【意識調査】「学校での授業は分かる」が90%を超えた。全教員が授業力向上に努め、足立スタンダードを基に「分かる授業」を心掛け日々の授業に臨んだ成果の表れと考える。一方で、読書への興味・関心が区平均を下回った。今までの取り組みに加え、読書カードの工夫や蔵書の充実を図る。図書支援員やボランティアと連携し学校図書館の活用を更に推進していく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ◆教師の授業力向上への取り組み
 - ・OJTのペア、グループを編成し、指導案検討・授業観察・事後指導を通して、足立スタンダードに沿った授業実践・改善に全教員で取り組む。校内研究で、算数の指導法を研究し、授業力向上を図る。
 - ・授業でのICTの効果的な活用法を学ぶ研修や情報交換を行い全教員の活用力向上を図る。
- ◆パワーアップタイム・ステップアップタイムへの取り組み・放課後補充学習の実施
 - ・週に1時間、国語・算数の基礎的基本的な学習の定着の時間を設定し全教員で指導を行う。
 - ・長期休業日前に、学力定着度テストで該当学年の学習内容の定着を確認し、実態に応じて補習計画などを見直し、実施する。また、該当学年の内容について未定着項目が多い児童を対象に、放課後や個人面談期間、長期休業中に補充学習を行い、ボトムアップを図る。

花畑西小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	69.7	78.4	58.1	90.3	89.7	97.4	51.0	79.6	77.4	64.2	71.7	69.6
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	72.0	77.9	83.7	93.0	59.6	74.5	68.0	82.0	75.6	77.8	75.0	67.2
平均正答率(R6)	68.0	71.0	78.8	88.3	87.7	91.8	56.4	69.2	62.7	65.1	63.8	55.7
平均正答率(R5)	74.3	72.5	85.9	88.2	76.4	78.9	68.4	72.5	75.9	70.3	70.1	61.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【全体の傾向】

昨年度と比較し通過率は、学校全体で国語が2.3ポイント下がった。算数は、0.5ポイント増えたが、高学年になると減少する傾向が見られる。今回の調査結果から、ひらがな及び漢字、ローマ字を正確に書くこと、小数や分数の計算問題等を確実に解くことなど、児童の課題が明らかになった。また、教科に限らず、記述問題の無回答率が高い傾向にあることも分かった。

【国語】

説明的文章の問題は、学力層に限らず課題が見られる。文学的文章の問題は、理解している児童とそうでない児童の二極化傾向にある。記述式の応用問題の正答率は、低い傾向にある。

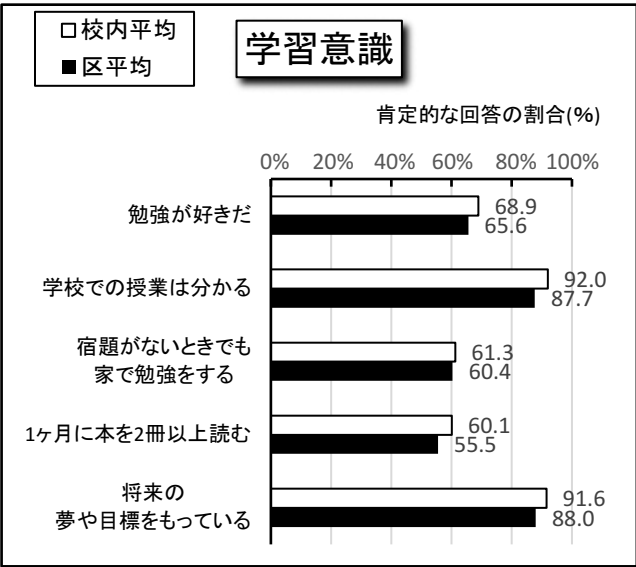
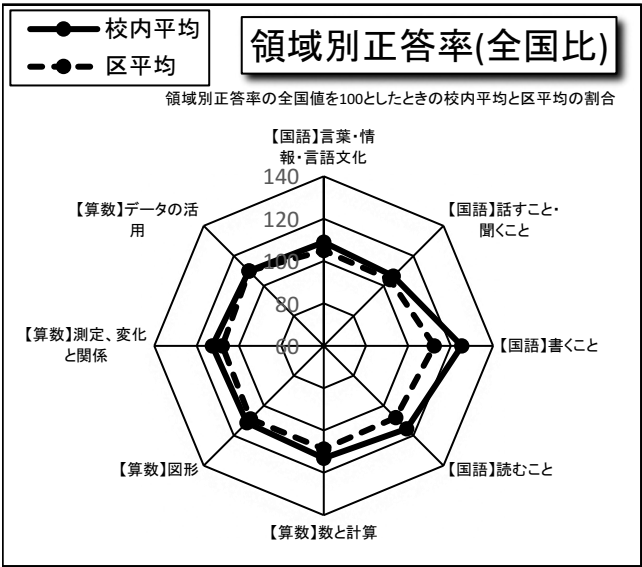
【算数】

小数の仕組みや折れ線グラフの読み取り、平面図形の性質など、算数における基礎的な知識を定着させる必要がある。また、単位量あたりの大きさ、割合、分数や小数の計算などの基礎問題につまずいている児童が多い傾向にある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダードを基にした授業改善の取り組み
 - 国語科においては、児童が登場人物の心情を想像する時間、文章の構成を話し合う時間など、児童が考える時間を十分に確保する。ノート指導、漢字テストなど、書字に係る指導の充実を図る。
 - 算数科においては、児童が既習事項を振り返り、その上で解法を導き出すことに重点を置き指導する。タブレット端末を活用したA Iドリルで身に付いた知識や技能が、自らの手で書くことができることを確認するなどし、丁寧かつ正確に計算問題を解く態度を育む。
- 始業前及び放課後、家庭学習における取り組み
 - 始業前には、A Iドリル及び朝読書などに取り組む。読書の年間目標を発達の段階を踏まえ設定する。
 - 放課後に、「パワーチャージタイム」を設定する。児童の実態に応じた教材を作成するなどし、児童の学習の理解を深めていく。

花保小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	89.1	87.7	89.0	90.7	89.2	91.6	94.3	90.9	89.2	87.8	82.9	75.7
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	88.4	88.9	86.0	96.5	95.5	93.2	92.0	88.0	86.1	80.6	81.9	84.5
平均正答率(R6)	78.7	79.5	90.4	91.2	87.6	91.4	80.1	81.9	72.9	75.4	65.8	59.7
平均正答率(R5)	81.6	79.1	88.6	90.5	91.5	88.5	80.6	77.0	75.7	71.6	73.3	69.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

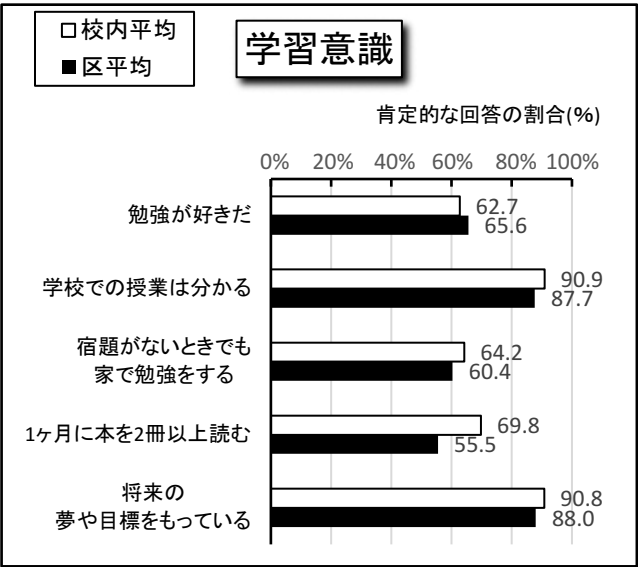
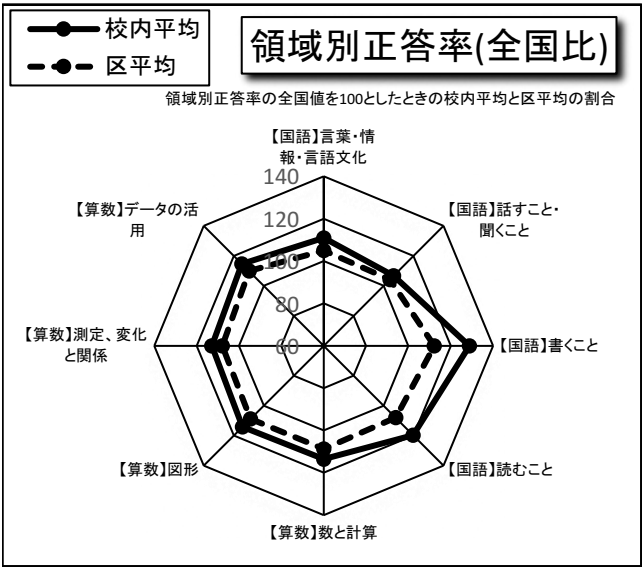
「学習定着度調査」分析結果

- 領域別正答率はすべての項目において区平均を上回っている。めあてをしっかりと理解させ、児童にとって分かりやすい授業が行えた成果だといえる。特に国語では、「書くこと」「読むこと」の領域において、前年度よりも正答率が上がっている。毎日の家庭学習での取り組みや朝学習での日々の積み重ねの結果ではないかと考える。算数では、「数と計算」「測定、変化と関係」の領域において、前年度よりも正答率が上がっている。朝学習で計算問題に取り組みせ、全校で毎年継続して続けている「九九検定」によって基礎・基本が身につけてきた成果と考える。
- 平均正答率は前年度よりも2～5年生で国語もしくは算数において上回った。前年度課題となった学習を丁寧に指導し、復習をしっかりと行ったことで児童の基礎学力が定着し、平均正答率が上がったと考える。
- 学習意識では、「学校での授業は分かる」と回答した児童が92%と区平均を4.3ポイント上回った。足立スタンダードを活用した授業を展開し、課題解決型学習を行った成果と考える。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習を週3回実施し、漢字やAIドリルを活用した算数、音読、読書に取り組む。これらの内容は水曜日5時間目「花保ステップタイム」でも行い、基礎・基本の確実な定着を図る。
- 前学年・現学年の漢字や計算確認テストを年8回行い、基礎学力の定着を図る。
- 2年生以上は、九九暗唱検定(100秒以内)を行う。1回で合格できなかった児童は、年2回更新検定を行う。
- 学習内容の復習及び基礎学力の定着が十分ではない児童の個別指導を放課後等に行う。
- 家庭学習の時間を10分×学年以上を原則として宿題に取り組みせ、家庭学習の習慣化を図る。内容は、国語や算数、音読、自主学習を行う。なお、自主学習(2年生以上)については、調べ学習の他に、苦手な学習や力を伸ばす学習など、児童の主体性を大切にしている。
- 夏季チャレンジ教室を夏季休業中の10日間実施し、基礎学力の定着を図る。児童の実態に応じて2コースに分かれて学習する。
- MIM指導を1年生は月2回、2年生は月1回実施する。

東綾瀬小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	90.2	86.8	98.4	100.0	91.9	87.8	87.3	91.4	88.9	78.3	86.1	80.0
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	88.2	90.1	90.4	97.3	87.0	92.8	91.9	90.7	89.2	89.2	81.7	80.3
平均正答率(R6)	79.2	79.7	94.7	95.8	88.7	89.1	74.8	80.8	73.6	75.0	71.0	66.2
平均正答率(R5)	82.9	81.2	90.4	92.9	88.2	87.9	82.8	80.6	80.9	76.0	75.4	72.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語、算数ともに全学年で通過率は区平均を上回っている。昨年度と比べると国語は2ポイント上回り、算数は3.3ポイント下回った。

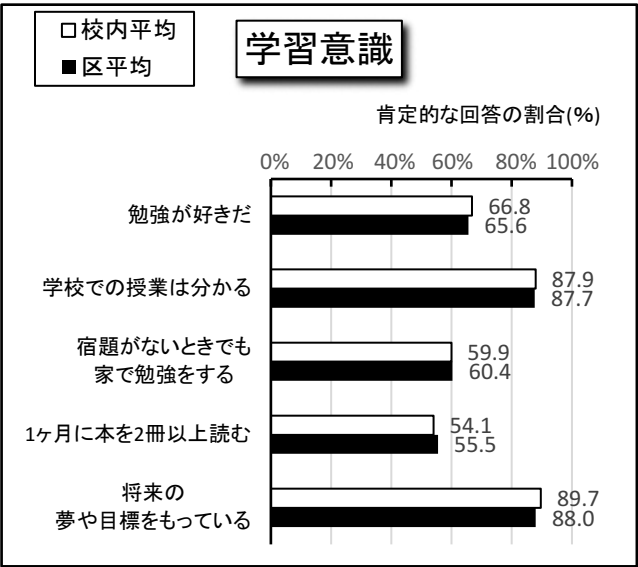
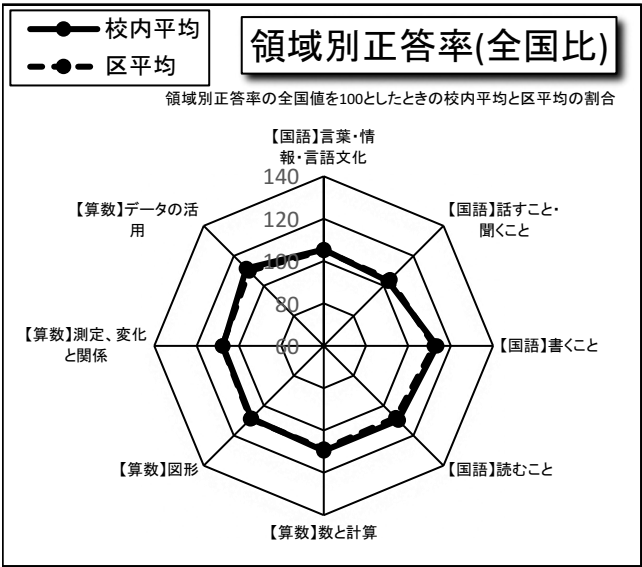
- ・6年生…国語は区の通過率を3ポイント上回り、算数は3.3ポイント上回った。
- ・5年生…国語は区の通過率を7ポイント上回り、算数は3.6ポイント上回った。
- ・4年生…国語は区の通過率を3.1ポイント上回り、算数は5.8ポイント上回った。
- ・3年生…国語は区の通過率を8.7ポイント上回り、算数は0.7ポイント上回った。
- ・2年生…国語は区の通過率を16.9ポイント上回り、算数は11.5ポイント上回った。

算数では、個別指導により基礎的・基本的な内容の定着を図ったり、数直線を活用して立式の根拠を理解させたりすることが必要である。意識調査では、4項目が区平均より上回っている。「1ヶ月に本を2冊以上読む」では区平均を14.3ポイント上回った。朝読書の取り組みが成果として表れている。一方で、「勉強が好きだ」が区平均を下回っているので、児童が学ぶ楽しさを味わえるように、授業改善を図っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ショートパワーアップタイムの実施：毎日昼の15分間、国語・算数の基礎・基本の定着を図るために、A Iドリルも積極的に取り入れている。
- 学力調査、ベーシックドリル、ワークテストの分析と見直し：結果を分析して児童の実態を把握し、授業改善や個別指導の充実を図る。ワークテストの結果をポートフォリオにまとめ、個人面談などで活用する。
- 家庭学習の充実：各学年、学年×10分を目安に家庭学習を行う。学習カードを用いて、計画・記録・振り返りを行うとともに、自分で学習内容を決める自主学習にも取り組む。
- 児童アンケートの実施：隔月で学習に関する児童アンケートを実施し、児童の実態を把握して授業改善に生かす。
- 教員の授業力の向上：足立スタンダードを基本とした問題解決的な学習を実施する。ミドルリーダー研修やスキルアップ研修を行うことでO J Tを充実させ、教員の指導力を向上させる。

東伊興小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.1	85.3	81.4	90.7	85.1	87.8	87.0	82.0	83.7	79.1	83.5	86.7
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.2	86.2	86.1	97.5	91.0	91.0	88.8	80.9	87.4	78.6	77.2	84.8
平均正答率(R6)	74.7	76.7	87.0	90.4	84.8	88.5	72.4	76.4	67.4	70.0	67.4	65.2
平均正答率(R5)	80.3	78.2	89.5	89.4	89.2	87.8	78.2	74.8	77.0	71.1	71.7	72.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

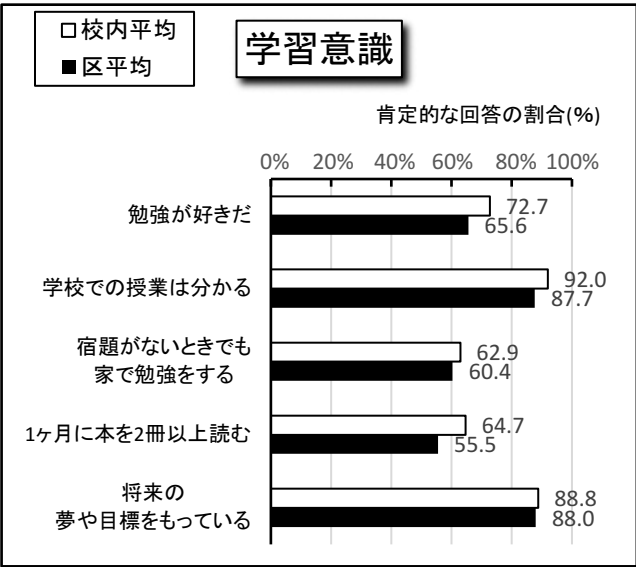
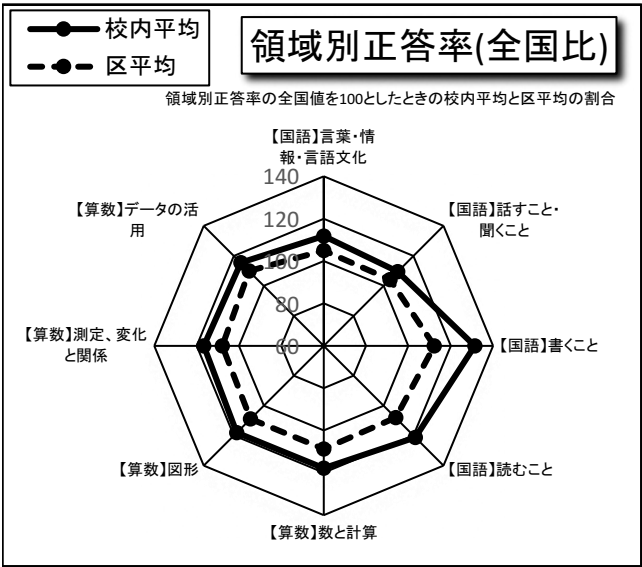
【国語・算数】学校全体の通過率は昨年度と比較して、国語は2.1ポイント、算数は0.9ポイント下降した。経年変化で見ると、国語で3・4・5・6年生が、算数では3・4・5年生が昨年度を下回っている。しかし、学年によっては問題が難化し目標値が下がる中、大幅にポイントは下降していないため、少しずつ基礎・基本の学力が定着してきていると考えられる。国語の領域別では、「言語・情報・言語文化」「読むこと」が区平均と同程度であるので、言語指導や要旨を捉える学習活動を増やしていく。算数の領域別では、「数と計算」「図形」の領域に課題が見られるため、反復して取り組み学習内容の定着を図っていく。

【学習意識】大幅に区の平均を下回っている項目はない。しかし、学年間でポイントの差が大きい項目がある。特に「自主的に調べる」「ICTや図書を活用する」この項目に差が見られるため、ICT担当、支援員や図書支援員と連携を図り、自ら課題をもち、進んで調べ解決できる児童の育成をめざしていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝のパワーアップタイム
国語と算数の基礎力向上を目指し、漢字練習や計算練習、読書を行っている。AIドリルも活用している。
- 放課後ステップアップ教室
既習事項につまずきのある児童を対象に、つまずきに即した補充プリントを用意するなどして、つまずきの解消を目指している。AIドリルも活用している。
- 自主学習の推進
年間を通して、自主学習に取り組んでいる。授業の復習に取り組むだけでなく、自分で課題を設定し調べる学習も行い、様々な分野への関心を深めようとしている。
- 校内研究の充実
校内研究として、算数科で数学的活動の工夫を通して主体的に学ぶ児童の育成を目指している。基礎・基本の定着だけでなく、思考力や表現力の育成も図っていく。

東加平小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	92.9	90.8	94.4	98.9	94.3	94.3	96.8	96.8	92.0	88.0	87.3	76.5
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	93.4	91.0	93.6	98.2	100.0	98.9	90.0	87.5	94.1	86.1	87.8	81.1
平均正答率(R6)	81.1	82.6	93.6	95.6	90.2	92.1	82.1	86.3	74.2	80.1	69.6	64.2
平均正答率(R5)	85.2	83.0	93.3	94.7	93.3	91.8	79.7	78.3	80.9	77.4	78.6	72.8

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

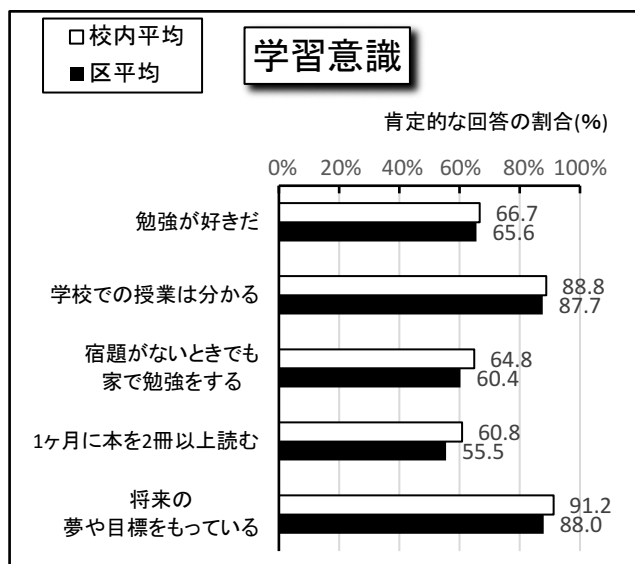
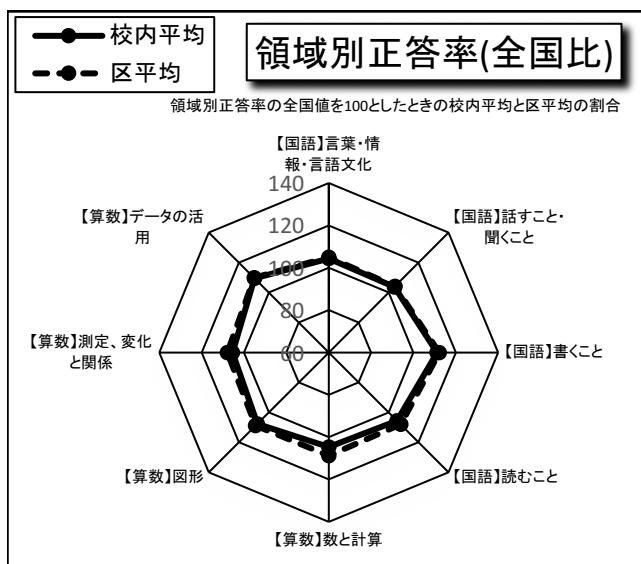
【国語】学校全体の目標値の通過率は92.9%となり、R5年度より0.5ポイント低下したが、領域別正答率は、全項目で区の平均を上回っている。特に「書くこと」の領域では全学年で区平均と比較して19ポイント以上高くなっており、足立スタンダードに基づいた授業の改善、課題の設定、発問の工夫などを行った成果が表れた。今年度は「話すこと・聞くこと」のさらなる向上を図るため、普段の授業では話し合い活動を重点的に行う。

【算数】学校全体の目標値の通過率が90.8%となり、R5年度より0.2ポイント低下したが、観点別、領域別ともに正答率は、全項目で区の平均を上回っている。今年度も引き続き、個別指導やパワーアップタイムで、基礎的な計算から標準的な問題演習を行うとともに、通過率が向上するように、基礎・基本の定着を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダードの徹底（指導者 担任＋専科）：授業では、全教員が足立スタンダードを基にした授業を徹底して行う。「めあて」のもち方、提示の仕方、黒板の三分割、チョークの色指定、児童は見開きでノートを使用するなどのスタンダードの徹底や、ノート指導を含めた指導を徹底し、全学年一貫した指導を行う。
- 個別指導（指導者 担任＋専科）：少人数のグループで学習を行い、既習内容の習熟や区・全国の学力調査、東京ベーシックドリルのワークテストでつまずきが多い内容、発展的な学習など習熟度に応じた内容に取り組む。
- パワーアップタイム（指導者 担任）：木曜日を除く週4日間の清掃終了後、10分間のパワーアップタイムを設定し、A Iドリルやプリントを活用して計算や漢字などの学習に取り組み、基礎・基本の学習内容の定着を図る。
- 寺子屋タイム（指導者 担任＋専科）：毎週木曜日の放課後に既習内容に関して、習熟、定着していない内容の補習を行う。
- コッおはカード：毎月2週目に生活習慣と家庭学習の内容と時間を家庭で記入してもらい、規則正しい生活と家庭学習の習慣化を促す。学習時間は低学年30分、中学年45分、高学年60分を設定している。

東栗原小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.9	80.8	87.1	95.2	83.0	79.2	86.2	82.8	86.5	73.1	81.8	73.1
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	77.4	78.0	81.5	96.3	79.3	82.8	81.1	75.5	79.4	76.5	68.1	63.9
平均正答率(R6)	73.7	74.5	87.4	90.3	84.1	86.9	73.0	77.8	68.9	69.3	61.6	56.2
平均正答率(R5)	75.0	72.6	89.0	90.7	85.1	82.5	76.4	72.3	69.9	69.7	64.5	58.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

【領域別正答率(全国比)】全ての項目で、区平均とほぼ同様かやや下回っている。国語では、「読むこと」の領域の数値が低いが、児童の読書量が増加していることもあり、改善の傾向は見られる。同じ学習集団で今年度と昨年度を比べると、どの学年も国語の通過率は上昇した。算数では、学年が上がるにつれて正答率・通過率共に低くなっている。6年間を見通した学習の積み重ねや、基礎・基本の復習を大切に学力を定着させていく。

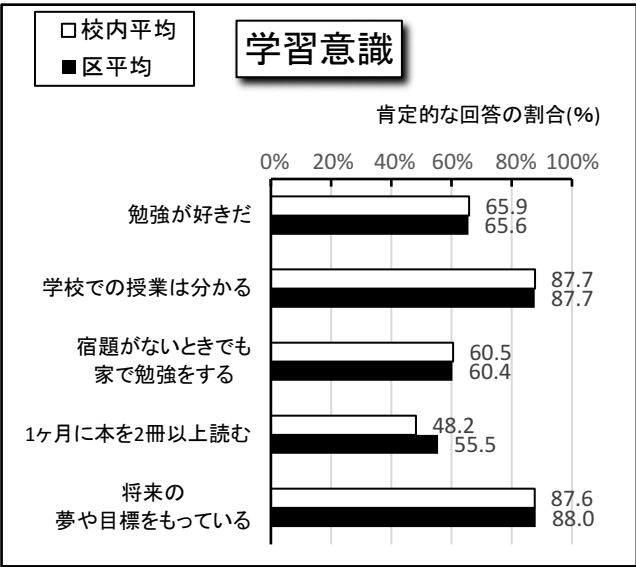
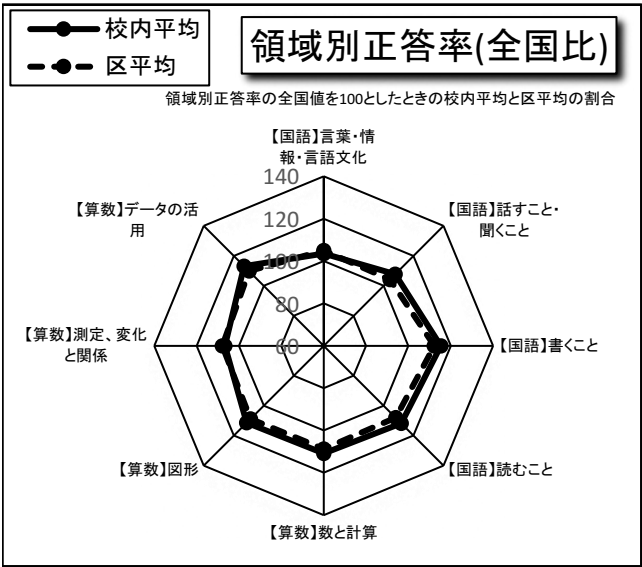
【学習意識】「学校での授業は分かる」は、過去3年間の推移をみると、上昇傾向にある。日頃の授業改善や基礎・基本の力の定着にさらに力を入れていく。今後も児童の思考の流れを大切に授業実践を行っていく。校内の意識調査においても、本校児童の自己肯定感の高さは明らかである。これからも児童の学習意欲を高め、基礎学力の定着に結びつけていく。

【通過率】算数の通過率は、経年変化で見ると学校全体で着実に伸びてきている。習熟度別学習を低学年でも実施している成果が着実に出てきている。一方、6年生の割合の問題での誤答が非常に多いなど、高学年でのつまづきが課題となっている。

学校による学力向上への主な取り組み

- パワーアップタイム…週3日の朝学習の時間では、授業進度に合わせて精選したA Iドリルの問題(基本問題中心、学級担任・教科担当が作成したワークブック)に、時間をしっかり確保して取り組んで行く。A Iドリル月間300問以上の回答数を目標に、授業内外で取り組み、日々の学習の定着度を高めていく。特に、漢字の書き取りや習熟を繰り返し行うことで、着実に力を伸ばしていく。
- A Iドリルの活用…キュビナシート(自分の誤答を集約した一覧表)で、苦手な領域の自己把握と分析を行う。苦手な分野領域の類題学習に挑戦して、読解力や計算力を高める。
- 読書タイム、読書旬間…年2回2週間、読書推奨期間を設け、読み取り学習の充実を図る。学校図書を貸し出す機会を増やして、本に親しむ児童を育てていく。
- 夏休み補充教室(サマースクール)…夏休み中の補充学習で基礎・基本の力の定着を図る。
- 書く力の向上…校長講話をまとめる、授業の振り返りを徹底することで、向上を図る。
- 放課後学習教室…1年生から実施して、自主学習の習慣を身につけさせる。

東洲江小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.4	85.2	82.1	97.4	83.8	86.3	82.4	84.7	83.5	81.2	89.9	78.0
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.3	77.8	82.7	92.8	80.4	82.8	83.5	82.4	83.5	65.2	76.4	67.4
平均正答率(R6)	75.6	77.5	88.3	92.1	86.4	86.9	71.3	78.7	67.8	76.1	69.6	60.9
平均正答率(R5)	77.9	74.0	88.6	89.5	83.9	83.2	76.2	75.8	75.9	66.3	69.1	60.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

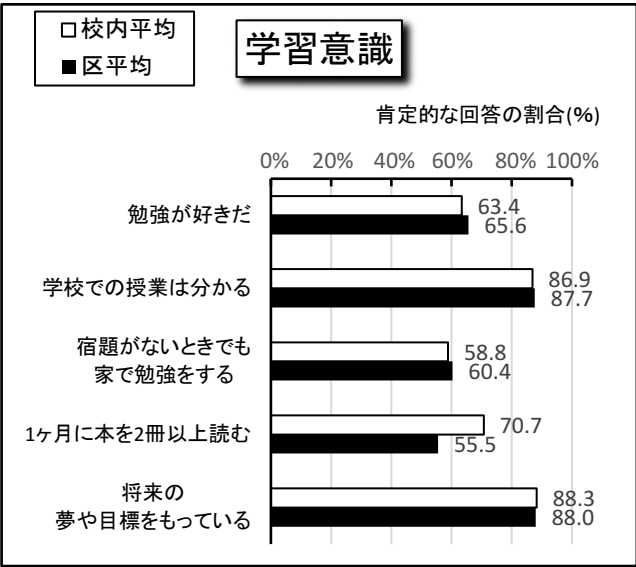
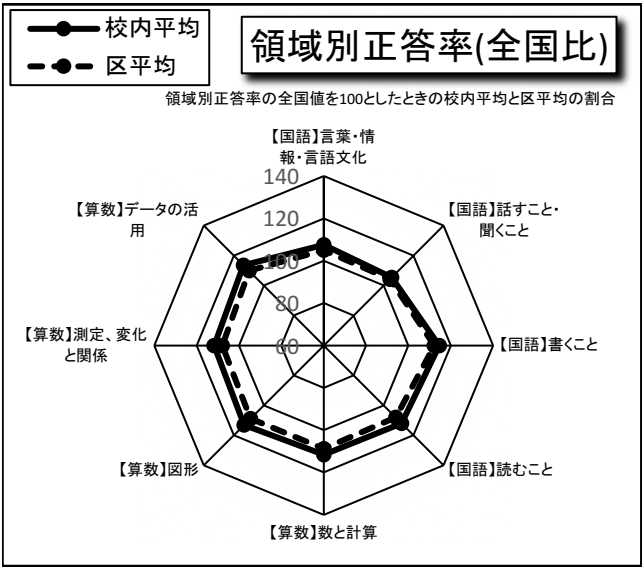
「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の通過率は前年比で3.1ポイント上回り、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」については、4～6年生で区平均を1.7～12.7ポイント上回っていた。しかし、「言葉・情報・言語文化」の平均正答率は3～6年生で区平均を0.2～4.9ポイント下回っており、特に漢字を覚えて文中で正しく使うことに課題がある。【算数】学校全体の通過率は前年比で7.4ポイント上回り、昨年度の区調査結果を受けて、全教員が課題を共通理解して指導に臨んだ結果であると言える。しかし、3～4年生は繰り上がりのあるたし算で区平均正答率を5.1～8.8ポイント下回り、計算の基本の定着に課題がある。また、6年生では割合や単位量当たりの大きさに関して区平均正答率を6.0～18.3ポイント下回った。特に割合については、学力のA層とC層での差が大きく、立式や計算で下位層の児童のつまずきが多く見られる。【意識】「勉強が好きだ」は区平均を0.3ポイント、前年比を3.0ポイント上回り、授業改善の成果が見られる。「1ヶ月に本を2冊以上読む」は前年比を2.1ポイント下回った。図書館支援員と連携を図り、展示やイベントなど読書活動につながる取り組みを行っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・校内学力研究プロジェクトを中心に、区調査や単元末テストの分析を行い、学年や学級、さらに個の課題を明確にし、個別最適な学びの保障の実現に向けた取り組みを推進する。
- ・校内研究の教科を算数にしぼり、「児童が意欲的に学びたい指導方法の工夫」をテーマに、全教員で指導案検討をして指導法や手立てを考え、授業に生かす。
- ・A Iドリルの活用…単元末の習熟、モジュール、家庭学習などで積極的に活用する。
- ・放課後補充教室…週1回、学習課題を絞って対象児童を選定し、少人数で個に応じた指導を行う。
- ・登校型補充教室…夏季休業中の10日間で、1年生は日頃の学習状況をもとに抽出した児童、2～6年生は区調査の目標値未達成の児童や4層分析のD層の児童を対象に、つまずきにに応じた指導を行う。
- ・リモート型補充教室…夏季休業中の5日間で、5～6年生のB～C層を対象に、A Iドリルを活用した指導を行う。

平野小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.8	85.9	80.6	87.0	82.5	87.5	89.8	93.2	79.8	73.8	90.2	87.8
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.9	88.5	85.4	97.6	88.3	87.2	83.3	82.1	86.9	88.1	90.2	87.8
平均正答率(R6)	76.7	79.0	85.5	88.1	85.9	90.8	76.6	80.4	67.9	71.0	72.7	70.0
平均正答率(R5)	81.1	79.3	88.9	92.4	86.3	85.6	76.3	77.3	77.7	75.5	78.0	69.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

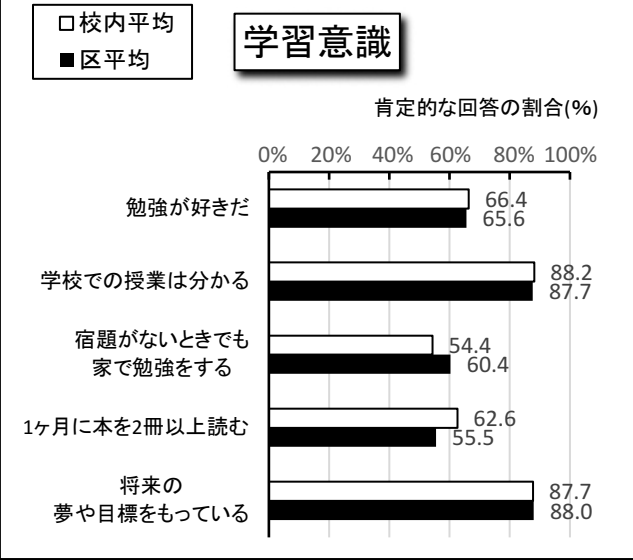
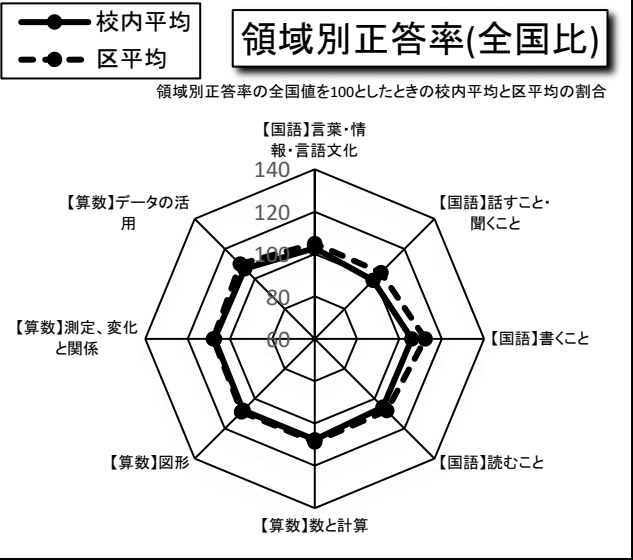
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の平均正答率は、昨年度と比較して、国語は4.4ポイント、算数は0.3ポイント下がった。通過率においても、国語は2.1ポイント・算数は2.6ポイント下がった。平均正答率と通過率は国語・算数ともに下がっているが、各学年の結果を細かく見ると、本校の児童は、算数よりも国語に課題をもっている児童がいることがわかる。
- 国語では、「書くこと」及び記述式の解答が区平均と同等か区平均を下回る学年がみられる。日記や学習感想等を書く活動を通して、記述することへの苦手意識を低くしていくとともに、文章の大事な部分を正確に書き取ることができるよう指導を充実させていく。
- 算数の観点別正答率では、「思考・判断・表現」が区平均と同等か最大で3ポイント近く下回る学年がみられる。まずは、基礎的な知識及び技能を確実に身につけさせ、問題場面に合う解法を正しく選択できる判断力や文章や図を用いて自分なりの考えを文章や図で表現できる力を伸ばしていけるような工夫を施した授業を展開していく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 全児童を対象に「平野スキルアップタイム」を昼休み後に設定し、毎日15分間の補習を実施する。国語・算数の基礎学力向上をめざす。
- 週2日間「朝学習」を設定し、基礎学力向上をめざす。
- 区調査で目標値に達しない児童を対象にした長期休業中(夏・冬)の補充教室の実施。
- 中学年における「そだち指導員」によるきめ細やかな個別指導の実施。
- 低学年を対象に「MIMアセスメント」を実施し、基準点が未到達の児童に個別指導を実施。「語彙力」を高めるとともに、「読む力」の基礎を固める。
- 毎週水曜日の朝読書や読書旬間・月間を設け、読書に親しませ、「読む力」を向上させる。
- 足立スタンダードを基に授業展開し、問題解決型の学習を実践する。
- 家庭学習の徹底(10分×学年+αをめやすに取り組みさせる)。
- 全学年において、毎日必ず算数科を中心としたA Iドリルを活用した家庭学習に取り組みさせる。個別最適化された問題に取り組むことを通して、学校と家庭間で切れ目のない指導を行い基礎学力の定着を目指す。

渚江小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	79.6	81.0	87.9	98.3	80.0	81.7	86.0	86.0	71.4	62.5	72.4	75.9
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.3	81.3	80.7	94.7	90.7	92.6	91.8	86.9	77.6	62.1	68.1	72.5
平均正答率(R6)	72.3	75.9	89.2	94.6	82.9	86.3	74.8	78.0	60.1	65.9	60.2	59.3
平均正答率(R5)	77.5	75.5	86.4	90.0	89.5	89.1	80.1	77.5	71.1	62.6	67.7	66.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

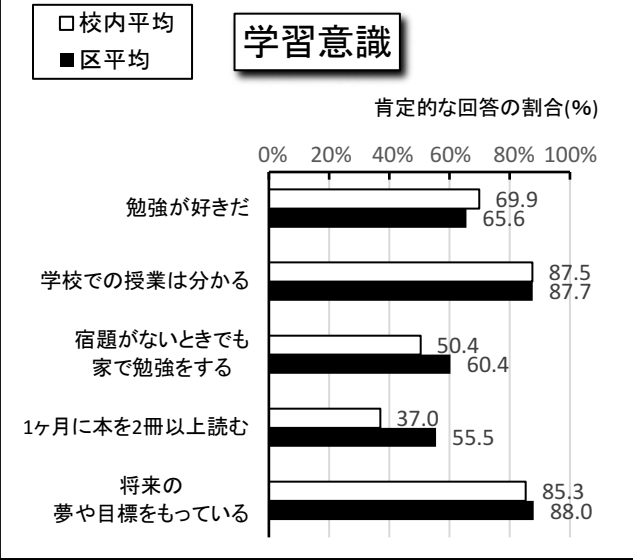
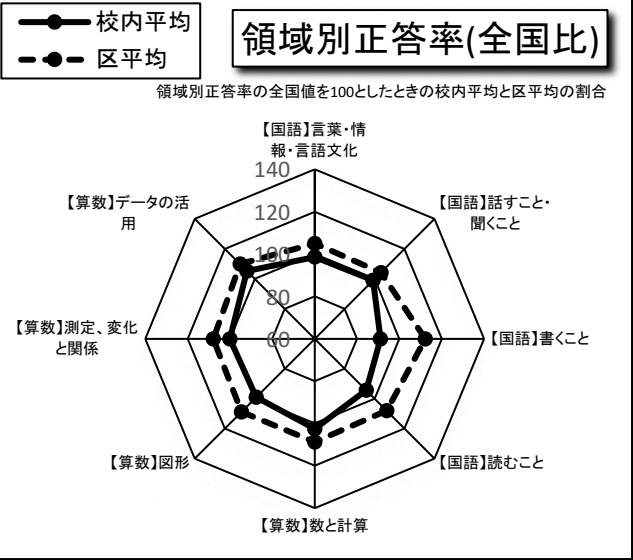
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は国語では79.6%で、昨年度の81.3%と比較して1.7ポイント下回った。算数では81.0%となり、昨年度の81.3%と比較して0.3ポイント下回った。領域別正答率について、国語は4領域で2ポイントから6ポイント区平均を下回っている。算数は、データの活用が区平均を下回っている。特に、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」を今後の指導の重点とし定着させる。
- 通過率80%を下回ったのは、5年生国語71.4%、算数62.5%、6年生国語72.4%、算数75.9%となっている。5年生の算数は、昨年度の4年生時と比較して通過率が24.4ポイント下回った。定着が不十分な面積・体積の改善を図っていく。6年生の算数は、昨年度の5年生時と比較して通過率が13.8ポイント上回った。指導の成果であり、引き続き定着を図る。
- 学習意識では「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」「1ヶ月に本を2冊以上読む」が区平均を上回り「家で勉強をする」が下回っている。この結果から、本校の児童にとって学校は重要な役割がある。宿題がないときでも家庭での学習を習慣化させる必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 全学年で月1回「けやきタイム」を設定し主に国語、算数の読解力に特化した指導を行う。
- 朝のパワーアップタイム(15分間)を週4回実施する。
 - ・漢字:下学年からの既習の漢字を復習する。(A I ドリル)
 - ・計算:測定、変化と関係などの習熟の低い内容に取り組む。(A I ドリル)
 - ・作文:条件付き短作文に取り組む。・読書
- 授業の中で効果的にICTを活用する。
- 放課後補習教室を週1回から2回実施し、つまずきのある児童への個別指導や立ち戻るための学習の充実を図る。
- 長期休業前に「算数・漢字コンテスト」として定着度テストを実施する。
- かけ算九九検定を実施し、3年生以上の児童が確実に九九が定着できるようにする。
- 足立読書通帳を活用する。年間低学年80冊以上、中学年50冊以上、高学年30冊以上を目標とする。

渚江第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	72.5	74.5	67.6	76.5	72.9	82.4	72.4	74.7	81.2	62.4	67.1	77.2
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	73.8	76.1	68.4	82.1	66.3	67.4	85.5	80.7	76.2	70.2	73.9	79.3
平均正答率(R6)	68.3	71.6	79.9	83.2	79.0	85.1	64.4	70.8	63.4	65.5	59.4	58.7
平均正答率(R5)	73.7	72.7	80.2	83.3	77.2	75.8	75.3	74.4	70.3	65.6	67.8	66.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

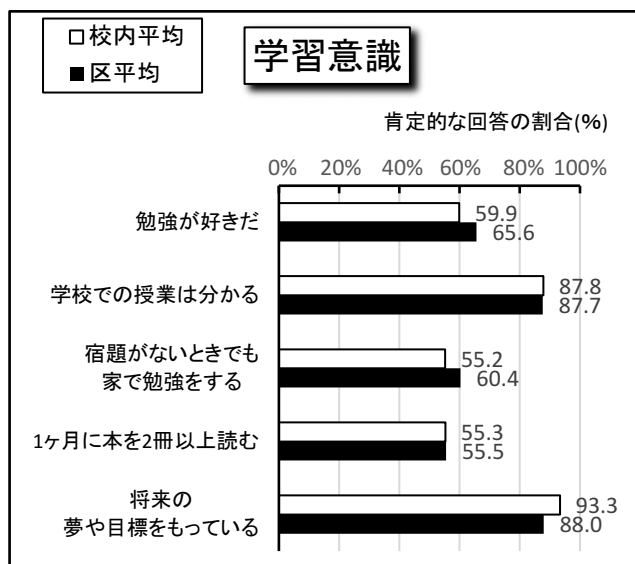
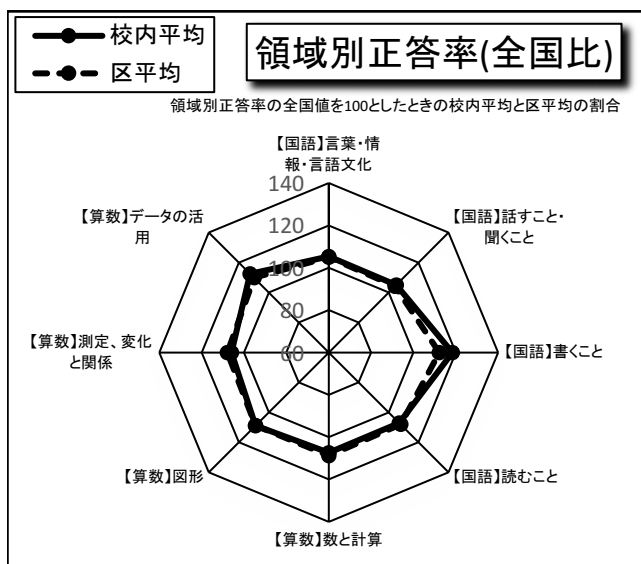
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の結果を昨年度と比較すると、通過率では、国語1.3ポイント、算数1.6ポイントとどちらも下回った。平均正答率では、国語5.4ポイント、算数1.1ポイントとどちらも下回った。このことからどちらも下位層の児童が増えていると考えられる。基礎的な内容の再指導が必要である。
- 各学年の結果を昨年度と比較すると、3年生の国語・算数、5年生の国語以外は通過率が下回った。このことから、児童一人ひとりの状況を把握し、基礎的な内容のつまづきや苦手克服を図る必要がある。
- 学習意識調査では、「1ヶ月に本を2冊以上読む」に肯定的な回答をした割合が最も低く、区の平均を18.5ポイント下回った。低学年で下位層の児童は、文字を追うよりも、絵や写真を見ていることが多い。言葉の意味を説明しながら読み聞かせをするなどして、自分で言葉や文としてとらえて読もうという気持ちを育むことが、読解力の向上につながると考える。

学校による学力向上への主な取り組み

- 基礎的・基本的な学習内容の定着を図りながら、活用する力を付けていくことをめざす。
- ・年間を通じて、始業前の学習時間（パワーアップタイム）を実質15分間確保する。
- ・パワーアップタイムを活用して、物語文や説明文を読み解く問題に取り組む。
- ・かけ算九九テストを2年生以上の児童を対象に年2回行い、完全習得をめざす。
- ・図書支援員を活用し、読書旬間の活性化など読書活動を充実し、児童の読書を習慣付ける。
- ・サマースクールの内容は、課題となる単元に特化した集中指導として、これにつまずいている児童の指導を行う。夏季休業以後の内容定着度について調査する。
- ・単元テストの結果などを基に放課後補習教室の対象児童を選定するなど、効率よく学力向上に取り組む。
- ・生活・総合的な学習について、身近なものから課題を見つけ、調べ、まとめ、発表、意見交流を行うことによって学習に向かう意欲を高め、考える力、発見する力の向上をめざす。

保木間小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.9	84.3	62.0	84.0	88.6	93.2	80.0	82.0	88.6	77.3	87.2	85.1
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	90.1	91.1	92.9	100.0	91.1	88.9	92.1	94.7	94.7	89.5	80.0	82.5
平均正答率(R6)	75.2	76.1	81.1	84.9	86.7	89.1	71.2	74.6	72.3	70.5	67.8	65.1
平均正答率(R5)	82.9	81.5	91.7	93.9	90.2	88.9	84.1	82.0	80.2	77.3	70.9	68.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

＜学習意識＞

「将来の夢や目標をもっている」、「学校での授業は分かる」については区平均を上回ったものの、それ以外については区平均を下回る結果となった。児童の思考の流れを大切にしたい授業づくりに努め、学習意欲を高めていく必要がある。

＜平均正答率・通過率＞

学校全体の平均正答率は国語75.2%、算数76.1%と昨年度の結果を下回った。領域別正答率で見ると、概ね区平均並みの正答率であり、国語の「書くこと」については、区平均を上回った。文学的文章や説明的文章の授業において、自分の想いや考えを書く活動を取り入れてきた結果の表れと言える。しかし、4年生から6年生の国語・算数の平均正答率はいずれも80%を下回っており、前学年の基礎的な学習内容の定着を今後も図っていく必要がある。通過率は学校全体で見ると、国語80.9%、算数84.3%と昨年度の結果を下回った。特に2年生の国語は62.0%にとどまった。言葉のきまりや基本的な読解の問題に取り組ませていく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

＜朝学習の時間（保木間タイム）＞

国語の読解や漢字、算数の学習に取り組んでいる。特に読解では、根拠となる文章にサイドラインを引かせた上で解答する習慣の定着に努めている。

＜放課後補充教室（ぴかスタ）＞

木曜日の放課後には、少人数制の放課後補充教室（ぴかスタ）を実施し、本調査の結果をもとに、前学年の学習内容における苦手分野の克服に取り組んでいる。児童の実態に応じて、学習内容を遡る、プリント学習やA Iドリルに取り組ませるといった指導を進めている。

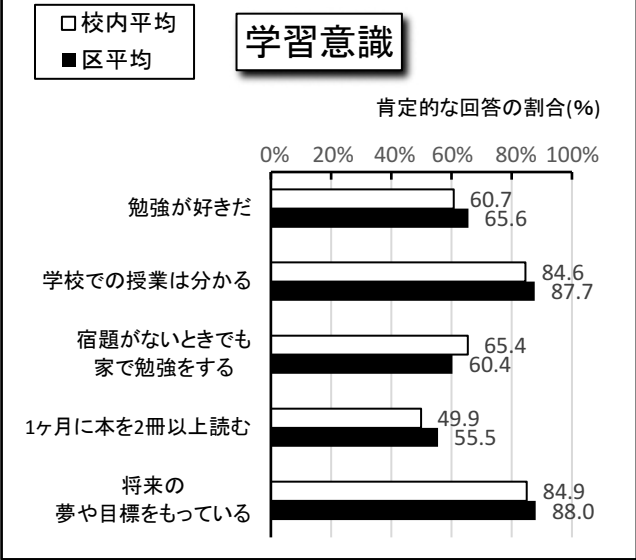
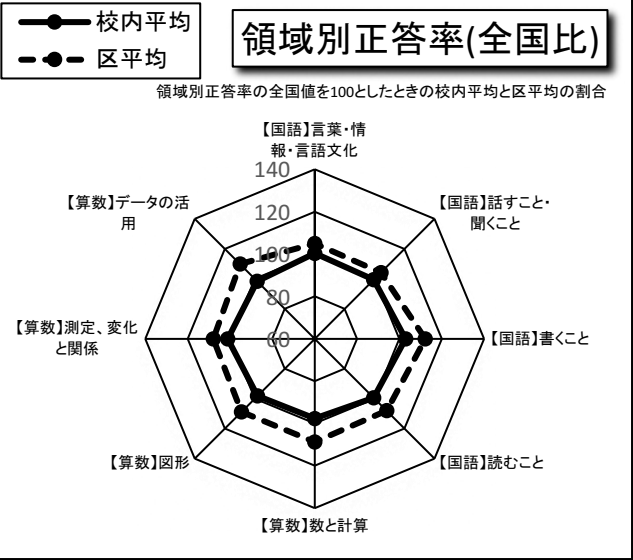
＜サマースクール＞

夏季休業中におけるサマースクールでは、本調査の結果をうけて、目標値の未通過児童を対象に、本校全教員が指導にあたり、つまずきの克服と基礎的な学習内容の定着に注力する。

＜校内研究＞

校内研究では、算数の研究を進めている。問題解決型の授業展開の改善に努めていく。

宮城小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	74.5	71.6	72.1	83.8	73.2	76.1	90.4	83.1	62.5	54.2	71.8	60.8
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	75.9	78.3	76.1	85.9	84.1	87.8	66.2	69.4	70.9	72.2	80.8	75.6
平均正答率(R6)	69.7	69.4	83.9	86.5	81.1	83.4	73.2	76.3	57.7	57.8	59.7	50.8
平均正答率(R5)	75.4	73.5	84.1	84.7	85.7	86.7	69.6	69.1	68.4	66.9	71.6	64.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

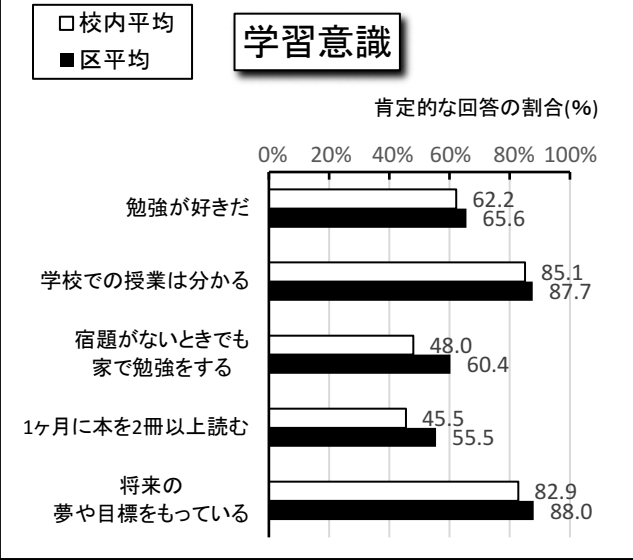
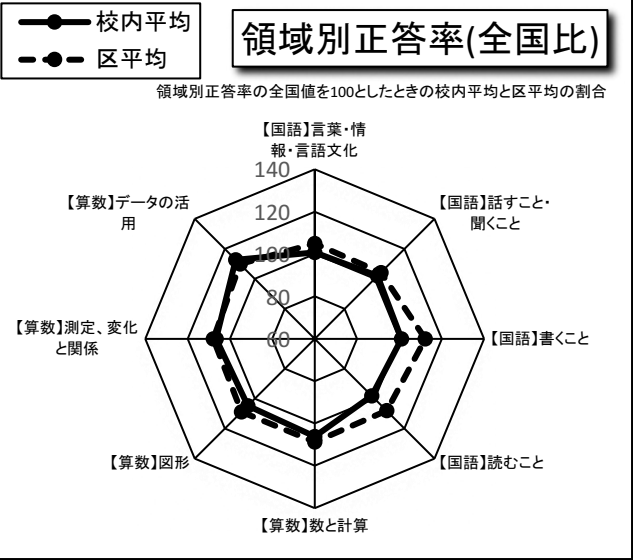
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の結果を昨年度と比較すると、通過率は、国語で1.4ポイント、算数で6.7ポイント下回った。平均正答率を比較すると、国語で5.7ポイント、算数で4.1ポイント下回った。このことから、国語算数ともに、下位層の児童が増えているということが分かる。
- 学年別に昨年度の同一集団と経年比較すると、通過率は、学年、教科ともに上下のばらつきはあるものの、平均正答率は全ての学年において、国語算数ともに昨年度を下回った。領域別の正答率を見ても、区平均との差が開いており、本校児童の学力定着における二極化が明らかとなった。
- 学習意識調査では、「宿題がないときでも家で勉強をする」の項目において、区の平均を5.0ポイント上回った。昨年度、一昨年度の本校の結果と比較してもポイントが向上しており、少しずつ家庭学習の習慣が身に付いてきているものと思われる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 児童が安心して学習に臨めるよう、学校全体としての学習規律やルールの共通理解を図る。
- OJT研修では、学年の先生方で授業研究を行い、学校全体で授業を見合ったり、フィードバックしたりする機会を増やすことで、授業力向上につなげていく。
- 1～6年生までの全学年で、算数習熟度別指導を行い、学力層ごとに対応した個に応じた指導の充実を図る。
- 月に一度、家庭学習応援週間を位置付け、家庭学習の大切さを保護者にも理解してもらいながら、家庭と学校とで子どもたちの課題を共有して行わせる。
- 長期休業中の補充教室では、指導する教員や中学生によるボランティアの人員を増やしたり、学力調査の結果をもとに個人学習計画書を作成したりすることで、個に応じた指導を充実させる。

六木小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	75.2	79.8	69.4	80.6	70.3	73.4	81.3	87.5	77.9	84.4	76.6	71.9
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	74.2	81.9	77.8	100.0	66.7	85.7	88.3	96.1	76.1	76.1	62.0	55.7
平均正答率(R6)	71.1	75.9	81.2	85.8	81.1	83.8	70.1	76.2	66.5	75.9	61.7	61.7
平均正答率(R5)	74.1	73.4	86.8	91.1	80.7	85.1	79.7	82.8	69.7	67.1	61.4	51.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]
◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

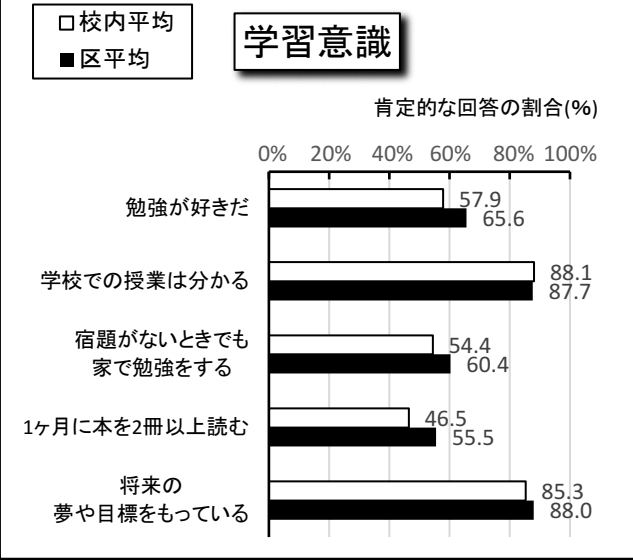
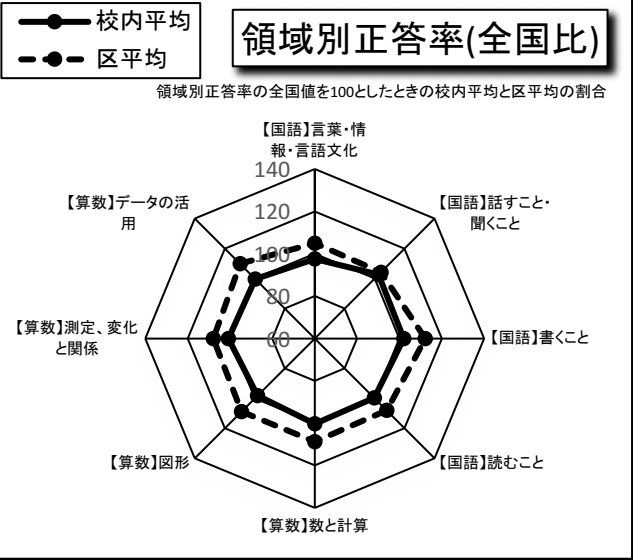
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は、昨年度と比較し、国語は1.0ポイント上がり、算数は2.1ポイント下がり、どちらも80%に達しなかった。
- 学年別・教科別の通過率は、2年生の国語は70%を下回ったものの、それ以外は70%を超えている。しかし、経年変化で昨年度と比較すると、4年生の国語・算数と6年生の国語以外は昨年度よりも下がっている。
- 領域別正答率は、算数は「データの活用」が区平均を超え、他の領域も区平均に近づいた。しかし、国語の領域の「書くこと」「読むこと」は、区平均を大きく下回っている。
- 学習意識は、「1ヶ月に本を2冊以上読む」は10.0ポイント、「宿題がないときでも家で勉強をする」は12.4ポイント、区平均を下回っている。

学校による学力向上への主な取り組み

- 校内研究は算数科と国語科に視点をおき、「自ら学ぶ児童の育成」をテーマとした。学力調査結果から、つまずきの多い単元を選んで、研究授業を実施している。つまずきの多い単元でも、ねばり強く、前向きに課題に取り組む姿や、子どもたちですすんで考えを伝え合う姿が見られるようになることをめざすことで学力向上につなげたい。
- 学力調査に向けて対策プリントに取り組んだり、結果を受けて、正答率が低い問題の類似問題に取り組んだりして、取りこぼしを防ぐ。
- 朝学習の時間を週4回設定した。内容については、児童の実態に応じた活動にするため、全校で統一した課題を設定せずに、各学年・学級で設定する。
- 区調査の結果をもとに各学級でSP表を作成し、具体的な手だてを考える。目標値に達成できなかった児童に対しては個別の指導計画も立てた。それらの方針を個人面談を通して保護者にも伝え、家庭とも連携して学力の向上を図る。
- 読書週間を前・後期に2週間設定し、高学年や図書スタッフ、佐野図書館からゲストティーチャー(月1回)を招いての読み聞かせをしている。このような取り組みにより、児童が本に親しむ機会を確保している。
- 夏季補充教室では、下位層を各学年10名呼び、教員数7名で基本的な学力の定着を図る。

本木小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	71.8	69.9	70.2	78.9	71.4	67.9	70.3	76.6	68.9	51.6	78.6	75.4
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	74.3	72.4	78.0	86.4	74.6	71.4	75.8	71.0	71.7	61.7	71.8	71.8
平均正答率(R6)	70.1	70.5	81.3	84.5	79.2	81.0	66.9	73.1	63.5	58.9	63.8	60.3
平均正答率(R5)	74.7	70.7	85.9	85.8	82.4	82.5	75.0	68.5	68.3	62.1	67.0	61.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]
◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

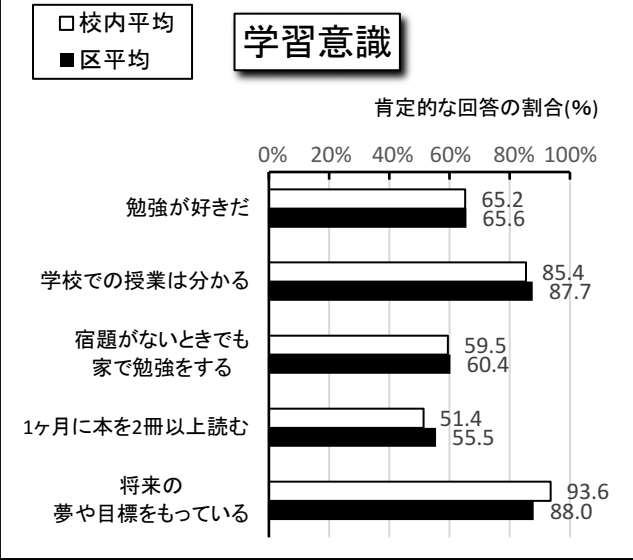
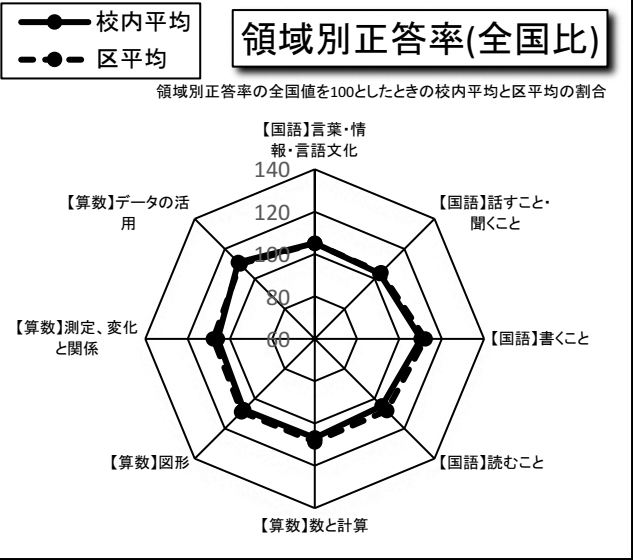
「学習定着度調査」分析結果

- 国語
学校全体の通過率は71.8%で、令和5年度より2.5ポイント下がった。2～5年生までの通過率は下がったものの、6年生の通過率は令和5年度より6.8ポイント上昇し、児童自身が受けた5年生時の通過率と比較しても大幅に上昇した。校内の領域別正答率は、「話すこと・聞くこと」が全国値を超えた。友達の話を聞き、自分の意見を述べることができる児童が増えつつある。今後は知識の定着や、文章を読んで理解できるよう、既習内容の反復学習を行う。
- 算数
学校全体の目標値に対する通過率は69.9%で、令和5年度より2.5ポイント下がった。学年別に見ると、4年生で5.6ポイント、6年生で3.6ポイント上昇した一方、2年生で7.5ポイント、5年生で10.1ポイント下がった。領域別正答率は、どの項目でも低く本校児童の算数に対する苦手意識が読み取れる。国語同様、既習内容の反復学習を行い、知識の定着に努める。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダードを基にした授業改善
若手教員を中心に教科指導専門員による授業観察、事前・事後指導を通して、授業改善に努めている。また、教科指導専門員による授業力向上のための研修を全教職員に行っている。
- 朝学習
「計算コンクール」「視写」「A Iドリル」「読書」「国語辞典を使った学習」などを曜日ごとに取り組んでいる。
- ぐんぐんタイム、自力解決タイム(指導者 担任+専科)
ぐんぐんタイムでは、算数の単元テストでつまずきが見られた児童を、週に一度放課後に指導している。自力解決タイムでは、自主的に学習したい児童と放課後に学習し、学習への意欲を高めている。
- 九九免許証
掛け算九九を学んだ児童を対象に、教職員が九九の問題をランダムに出題し、最終問題をクリアした児童に校長から九九免許証を配付している。

弥生小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.9	80.4	75.4	80.7	82.9	94.3	81.1	82.2	80.0	68.9	83.3	78.9
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	85.3	80.8	85.3	92.6	81.9	81.9	89.0	85.6	86.0	64.5	84.4	83.1
平均正答率(R6)	73.2	74.6	83.7	85.7	84.7	90.6	72.2	75.7	67.1	69.8	67.4	62.6
平均正答率(R5)	80.4	75.0	88.2	87.6	86.3	81.3	78.7	75.4	76.3	66.1	75.8	69.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]
◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%))の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- ・通過率が令和5年度に比べ、国語が4.4ポイント、算数が0.4ポイント下回る結果となった。学年別で見ると、国語に関しては3年生以外が下降傾向にあり、3年生は上昇傾向にある。算数に関しては3・5年生が上昇傾向にあるが、2・4・6年生は下降傾向にある。両教科とも、区の平均前後の値ではあるものの、2年生の国語については、前年度の通過率と比べて10ポイント以上下回る結果になるなど、早急な分析と対策が必要である。
- ・平均正答率も、令和5年度と比べ、国語が7.2ポイント、算数が0.4ポイント下回った。学年別で見ても、国語は全学年で前年度を下回っていた。算数は2・6年生で前年度を下回る結果となった。
- ・領域別正答率は、概ね区平均と同程度であった。国語の読むことの分野がやや平均を下回っているため、対策が必要である。
- ・学習意識調査についても、区平均と同程度であったが、「1ヶ月に本を2冊以上読む」と答えている児童が51.4%に留まり、授業改善などの対策をする必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ①基礎学力の確実な定着(漢字、計算)
 - 漢字コンテストと計算コンテストを年間2回ずつ実施する。漢字コンテストでは、前年度までの漢字の読み書き(前期)、学年末に1年間の読み書き(後期)の定着を図る。計算コンテストでも前年度までに学習した計算問題(前期)、学年末に1年間の計算問題(後期)に取り組み、学習内容の定着を図る。
- ②A Iドリルの活用
 - 朝学習の時間にA Iドリルを使用し、児童のつまづきを見つけ、個別指導を行う。
- ③花丸タイム(個別学習)の実施
 - 学力調査や单元テストの解説、解き直し、全体的なつまづきに対する補充学習を行う。
- ④家庭学習の習慣化
 - 発達段階に応じて、宿題と自主学習を組み合わせた家庭学習を習慣化させる。高学年においては、タブレット端末を利用するなどした予習型自主学習を推進する。